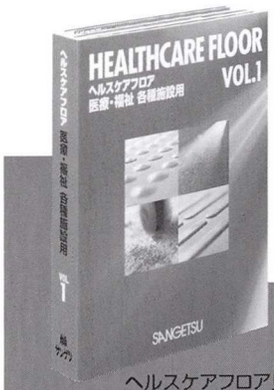
建築と社会

特　集

●東海支部会員作品 '99
●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築

3
1999

日本建築協会



ヘルスケアフロア見本帳

サンゲツの バリアフリー床材



New

ヘルスケアフロア
医療・福祉 各種施設用

HEALTHCARE FLOOR

車椅子の走行をスムーズに

医療福祉施設では、車椅子だけでなく配膳車や移動ベッドなど、キャスターがついた器具のスムーズな走行性が求められます。ヘルスケアフロアはそうした事も考慮した床材です。また車椅子などが壁面へ接触してキズや汚れがつくことを防ぐ、高さ35cmの巾木もあります。

適度な防滑性とクッション性

高齢者の安全を考えると、滑りすぎる床はもちろんのこと、極端に滑りにくい床もつまづきや転倒の危険性があります。また万一転倒した場合でも適度なクッション性のある床材ならば重大な事故に発展するのを防ぐ事ができます。ヘルスケアフロアはそうした事も考慮した床材です。

優れた耐摩耗性と抗菌性

床材は外から持ち込まれた土砂の上を人や台車が通過することで傷つき、それが繰り返されることで、摩耗が進行します。ヘルスケアフロアは表面の透明層を厚くすると共に十分な硬度をもつことで、耐摩耗性を高めています。また床材の表面に抗菌加工を施してあります。

人と部屋の間に。
サンゲツ

株式会社サンゲツ
名古屋市西区幅下1-4-1　TEL.052-564-3111

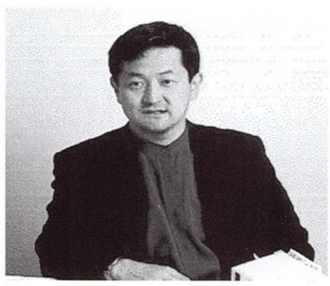
ショールーム
東京　TEL.03-3505-3300　岡山 TEL.086-292-3300
名古屋 TEL.052-564-3225　広島 TEL.082-233-3551
大阪　TEL.06-6440-5011　福岡 TEL.092-441-5181

会告

講演会
光井　純
シーザーペリ・ジャパン代表
光井純アソシエーツ設計事務所代表
環境をつくる建築を目指して
阿南合同庁舎、鳥取県パースクエア、
東五反田2-1街区開発を通して

私どもが最も興味を持って取り組んでいること、それは建築のデザインを通して賑わいのある街をつくることです。自然環境の中での建築デザインのあり方、再開発での建築デザインのあり方、エコロジーとしての環境の中での建築デザインのあり方を、鳥取県パースクエア、東五反田2-1街区開発、阿南合同庁舎のプロジェクトを通して考えてみたいと思います。

街の風景の美しさは、街全体の文化レベルの現れであると思います。一つの建築を通して環境ができるわけではありません。建築を敷地の中のオブジェとして考える閉鎖型の考え方から、環境をかたちづくる一つのエレメントとして捉える開放型の設計手法へと方法論を展開して行く中で初めて実現することであると考えます。　（光井　純）



光井　純（みつい　じゅん）
1978　東京大学建築学科卒業
　　（辰野賞受賞）
1978～1982　岡田新一設計事務所勤務
1982～1984　イェール大学建築学科大学院
1984　イェール大学建築学科より修士号を受ける
　　＜最優秀作品賞及びAIA学生賞受賞＞
1987　米国建築士資格取得
1984～1994　シーザーペリ事務所シニアアソシエーツ（米国在住）
1996～1997　新潟大学デザイン非常勤講師
1994～現在　シーザーペリ・ジャパン代表
　　光井純アソシエーツ設計事務所代表

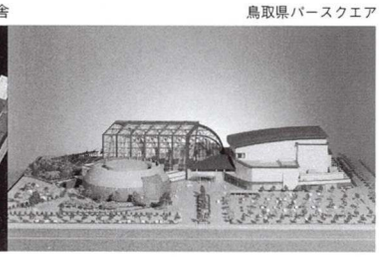
東五反田2-1街区開発



阿南合同庁舎



鳥取県パースクエア



日　時　1999年 3 月29日(月)
　　18:30―20 :30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　光井　純
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 2,000円、一般 3,000円
　　学生1,000円引（飲物付、税込）
申　込　３月19日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名
　　：講演会・光井純
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　※参加証を３月23日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会情報小委員会
　　担当主査：天野直樹／竹中工務店

30's EYE- 21世紀へのエスキス
第32回
宮川　武
都市問題経営研究所主任研究員
アメリカまんゆう記
米国まちづくり事情について



「30's EYE-21世紀へのエスキス」をテーマに、30代を中心に様々な分野でご活躍の方々をゲスト講師に迎え、従来の講演会形式とは違う「語り合い、情報交換を行う場」をつくりたいと考えています。気軽にご参加下さい。

日　時　1999年 4 月23日(金)
　　18:30―20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　宮川　武
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
　　学生500円引（飲物付、税込）
　　＊団体会員扱いは１社１名に限る
申　込　４月16日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名：30's EYE
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を４月19日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会事業委員会
　　若い会員の集い小委員会
　　担当主査：樋上新治





市民参加、住民参加、官民パートナーシップ、非営利団体（NPO）…?!

アメリカのまちづくりは、これらの事柄が大きな要素を占めています。我々の国とは、国の形成過程、国民のスピリットも違うので、何とも言えませんが、まちづくりには、合意形成のために多くのエネルギーが必要です。アメリカでは、そのエネルギーを効率よくまちづくりにつなげるために、いろいろなことが行われています。視察を通じて仕入れた情報を元に一緒に考えていきたいと思います。

どうやら、まちづくりのための人々の合意形成への道筋は、できるだけ多くの立場の人（直接関係ある人も、そうでない人も）にまちづくりにおける検討課題を共有してもらい、その開発が始まる時には、その町の市民、企業、行政が少なくともコンセプトを理解し、開発に対する協力関係を築き上げていることのようです。

視察した都市を比較すると、どこも非常に個性的です。どうしてこれだけ個性的な町になっているのでしょうか。我々の国では、考えられないくらい一つひとつの町にアイデンティティがあります。日本の町は、金太郎あめのようであるとよく言われますが、金太郎あめでないまちとは？…も、ついでに考えてみましょう。　（宮川　武）

宮川　武（みやがわ　たけし）
1958年兵庫県生まれ
1982　近畿大学建築学科卒業
　　㈱都市問題経営研究所入社
現在　同社主任研究員
　　一級建築士、再開発プランナー
＜まちづくりに関与した街＞
四日市一番街等、丸亀中央、福井駅前、福山本通、高松常磐街、三本松、匹見町、名古屋大須、長浜、箕面、黒門市場、山口、阪神西宮、その他

神戸国際会館
見学会

旧国際会館は、阪神淡路大震災で被災、解体を余儀なくされた。1956年の開館以来、永く神戸の人々に愛されてきたこの建物を、神戸復興の活力のシンボルとして新しく生み出すことが、このプロジェクトの命題であった。
低層部は、クラシック音楽から演劇・ポピュラー音楽まで幅広く利用できる2,000席の大ホールを中心に、ホワイエとレストランのスリット状の窓が周辺にやさしく調和するように円弧を描く計画とした。垂直線を強調し、神戸の街の新しいランドマークとなる高層オフィス棟とあわせて、レンガタイルの貼られた外観は、歴史的時間に育まれた神戸のイメージを継承する「クラシック・モダン」を基調とした。
また、地下鉄海岸線の新駅や三宮地下街と地下でネットワークするとともに、地上の公開空地と大きな吹抜空間で地上と地下を連続させることで、三宮ターミナル地区と一体となった魅力ある歩行者空間を創出させた。

（日建設計）



●建築概要

所在地	神戸市中央区御幸通8-1-6
建築主	㈱神戸国際会館
設計	日建設計
監理	新神戸国際会館建設工事監理室
施工	竹中・清水・新井・イチケン・岡 特定建設工事JV
敷地面積	5,796.00㎡
建築面積	4,410.65㎡
延床面積	58,985.20㎡
構造規模	SRC・S、B3・22F・P3
最高高さ	116.12m
工期	1996年11月～1999年4月
オープン	1999年6月1日（グランドオープン予定）

日　時　1999年 4 月 7 日㈬
14:00―16:30
講　師　江副敏史／日建設計設計主管
奥平宗近／建設工事JV総括所長
高畑顯信／建設工事JV所長
集　合　現地
「三宮」駅より徒歩約3分
定　員　40人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円／税込
申　込　3月31日㈬までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:神戸国際会館見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を4月1日㈭に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：井上敬一／竹中工務店

まちなみ見学会
（第2回）
橿原市今井町

16世紀に宗教自治都市として生まれた寺内町今井は、東西600m、南北310mに濠をめぐらした完全な城塞都市であった。その後、商業都市としての変貌をとげ、江戸時代には「大和の金は今井に七分」といわれるほどに南大和最大の都市となって大いに栄えた。
現在も、今井町の大半の民家が江戸時代以来の伝統様式を保っており、しかも慶安3年（1650年）の今西家（重文）をはじめすぐれた民家が多く建ち並び、今なお町全体が戦国時代にできた寺内町の歴史の重さをずっしり感じさせています。
ぜひこの機会に、歴史が息づくまちを陽春に歩いてみませんか。





今西家住宅（重文）

日　時　1999年 5 月 8 日㈯
13:00―17:00
講　師　米村博昭／今井町町並保存整備事務所所長補佐
見学先（予定）　今西家住宅（重文）
豊田家住宅（重文）
旧米谷家住宅（重文）
高木家住宅（重文）ほか
集　合　今井まちなみ交流センター
「八木西口」駅より徒歩約5分
定　員　50人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員1,500円、一般2,500円／税込
＊学生割引500円
＊個人住宅見学お礼を含む
申　込　4月27日㈫までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:まちなみ見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を4月28日㈬に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：松本　剛／大阪府

表紙
表紙デザイン　安里俊久

建築と社会 3 1999
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第80集／通巻924号

CONTENTS

特集● 東海支部会員作品'99

名古屋商科大学CGC棟／岡崎市医師会公衆衛生センター／いとうレディースケアクリニック／掛川市二の丸美術館／鈴鹿市考古博物館／穂積町立図書館／小俣町図書館／スポーツプラザ養老／CBC放送センター／明治電機工業本社ビル／名古屋大林ビル／メニコン枇杷島ビル／デンソー善明製作所／百五銀行研修所"α"／安城オートギャラリー／サッポロビール名古屋ビール園浩養園／DORMITORY　YAGOTO　10
Tokai Sketch Book　44

特集● 北信濃—街並み修景と地域文化の再構築

[街並み修景とその意義]
地方の文化と建築●宮本忠長　46
長野市のまちづくり—心うるおう都市景観をめざして—●田川延次　50
松代における伝統的環境の保全●近藤　守　52
すざか・蔵しっくシティー●永井由枝　54
須坂の町並み運動●青木廣安　56
修景事業がはぐくみ続ける「生活文化」へのまなざし●木下　豊　58
[地域の作品紹介]
一茶ゆかりの里●岡田新一　60
竹風堂松代店・池田満寿夫美術館●十日市昭二／藤田純也　62
世界の民族人形博物館●大森みどり　64
須坂版画美術館・平塚運一版画美術館●桐岡　栄　66
長野市オリンピック記念アリーナ●小野　威　68
[あるく・さがす・みつける]
小布施・須坂・松代の街並みを探る●林　金之／松本壮一郎／中村嘉男　70
[オリンピック施設とその後の活用]
オリンピック施設の後利用及び管理運営形態について●島田政行　72

会告　講演会／光井純—環境をつくる建築を目指して—.30's EYE㉜宮川武—アメリカまんゆう記—.神戸国際会館見学会.まちなみ見学会②櫃原氏今井町　1

作品作風　Zepp Osaka　4

gallery　緑藤小舎（浅井康行）●赤木　隆　6

建築の眼　公と共にある私●本多友常　ディテール考●安永三郎
路地●森崎輝行　情報ネットワーク時代を生きる（3）イントラネット●本間利雄　8

素材と技術が生み出すデザイン　「表層」ー亜鉛メッキより●遠藤秀平　74

法令コーナー　建築物の耐震改修計画前・後の耐震性能と増設壁等の量●篠崎正幸　76

Book Station　書名紹介8点　78

構造の頁　CFRP製構造材の現況と可能性●杉崎健一・野口法康・大西　博　79

施工材料の頁　アンボンドブレース●竹内　徹　81

設備の頁　機械室レスエレベーター「新リニア」—建築設計上の効果●平井哲男　82

新建材の頁　シート防水耐火屋根構法●機械固定防水工法研究会　84

基礎講座　屋内消火栓の設置—2—●由上雅章　85

REPORT　わが家の新築の記—2—人とのつながりの中で家は完成した●池内　了　86

REPORT　話題建築を聞く（第28回）真紅の観覧車のあるビルHEP FIVE●小笹光彦　88

information　デザイン史フォーラム「日本の住まいと西洋」.「99-00（リセット）」.INAXギャラリー「現代棟梁・田中文男」.重要文化財「泉布観」一般公開.「北欧建築を巡る旅」に参加を.「建築知識」設計コンペ展.「建設技術開発賞」創設・公募.「ARCHITECTURE TOKYO 99」開催.西日本トータルリビングショー.三田市.特定行政庁へ.大阪府建築指導課分室開設.設計用荷重・入力シンポジウム　90

月間の動き　平成10年12月分　92

■特集予告
4月号／都市のパブリック
5月号／関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる
6月号／大阪城天守閣平成の大改修

編集委員会（平成10年度）
■副会長　田ノ畑好幸
金多　潔　西岡道雄
薬袋公明　野口太郎
■編集理事　堀内一夫
荒巻恭士　桝井貴廣
井上豊　水谷昇
小島雄　村上幸三郎
佐野吉彦　谷津和久
竹中統一　※山根敏和
立野一郎　□施工材料分科会
真塚達夫　植田実
松村慶三　小椎八重猛
山田修　太刀川丈爾
◎與謝野久　※十倉毅
■特集小委員会　能美敏男
○内田直樹　野口幸忠
□計画分科会　福井茂和
★計画系　□法令分科会
伊礒憲幸　城戸史郎
梅村宏尚　椎名辰之
※小浦久子　※炭崎勉
鈴木克彦　中勝生
田中直人　中園光平
松川敏正　浜野幸雄
楠関真紀　■作品作風小委員会
吉村英祐　赤木隆
★建築計画系　秋山克彦
上杉秀隆　秋山茂
江副敏史　朝倉一晃
大村昌聡　小笠原絵理
荻窪伸彦　川上比奈子
菅野忠司　倉渕奈千子
笹村欽也　杉原繁
佐藤不二男　寺岡宏治
塚本史郎　中村文紀
※刃金国雄　藤城義丈
服部光宏　△前川治彦
山本匡　前田幸宏
★インテリア・住宅系　牧野雅一
※石川佳子　増田敬彦
加藤力　増田俊哉
北浦かほる　■会員企画小委員会
小梶占隆　伊藤郁郎
小島保人　池田聡実
中田誠　稲木裕子
中村雅人　大谷由紀子
中村孝之　糟谷浩史
畑康之　河崎敦子
西田和子　高岡伸一
ペリー史子　髙田光雄
水谷美香　高橋麗子
□構造分科会　△塚口明洋
大氏正嗣　辻川ひとみ
岸本一蔵　土田伸二
岸本圭暁　長友理津子
楠本隆　福田瑞穂
佐治明志　増渕昌利
下野直人　山寄章子
田中剛　■広告企画小委員会
※田辺太一　岩井武夫
野口拓也　△小幡義明
松村和夫　加納伸太郎
吉澤幹夫　勝一弘
□設備分科会　家森康彰
梶井宏修　片山恒男
河津隆之　渡邊浩文

◎委員長 ○委員長代行
△副委員長 ※幹事

印刷　平成11年2月25日
発行　平成11年3月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定価　1200円〔本体価格1143円〕



作品

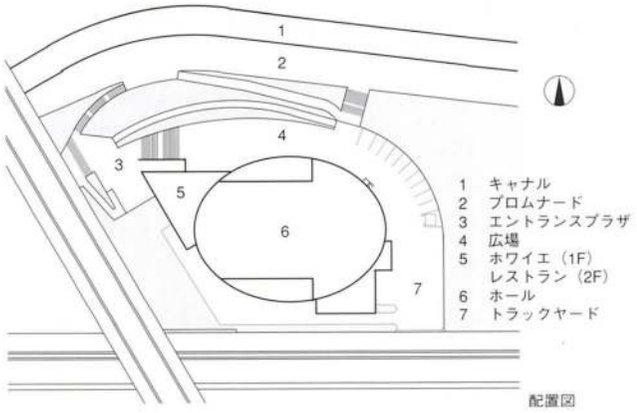
設計監理■
大林組

施工■
大林組

Zepp Osaka

オールスタンディングで2180人を収容するZeppは「大型トラックで器材を運ばなくても楽器だけで全国ツアーを可能にするホール」という音楽業界の夢と「早くメジャーに」という音楽少年達の夢をのせて、さながら飛行船Zeppelin号のように全国へ展開されていく。Zepp Osakaは札幌に続くシリーズ第２弾としてWTCやATCといった先鋭的な建物が立ち並ぶ南港の「コスモスクエア（宇宙広場？）」地区に誕生した。運河を従えた人工地盤に強力なボリュームでたつ楕円形のホール。道路面まで盛り上げた２つ目の人工地盤に片足を預け、運河側に大きく顔を開けた形で寄り添った三角形のレストラン。その下のトンネルをくぐると、別世界のシーンが繰り広げられる。これらは、無機質で仮設的な“宇宙船”を、ランドスケープは、粗野な“宇宙基地”をイメージに設計した。ここから新しい文化が発信され、地区活性化の拠点として親しまれていくことがみんなの思いになっている。（松井宣明／大林組）





1　キャナル
2　プロムナード
3　エントランスプラザ
4　広場
5　ホワイエ（1F）
　　レストラン（2F）
6　ホール
7　トラックヤード

配置図

所在地 —— 大阪市住之江区南港北1丁目18-31
敷地面積 —— 6544.66㎡
建築面積 —— 1903.94㎡
延床面積 —— 2632.10㎡
構造規模 —— S、2F
工　期 —— 1998年６月～1998年11月
最寄駅 —— テクノポート線・コスモスクエア駅
撮　影 —— 福澤昭嘉、小川和利
内装設計 —— （ホワイエ）Infix
　　（レストラン）三島スタジオ









gallery

緑陰小舎

設計
浅井康行

緑蔭小舎とは家主が名付けた屋号で喫茶店と併用住宅です。
６年前に完成した湯布院の山荘無量塔（GA JAPAN.04号）のすぐ下の敷地に建つ木造２階建です。施主は、この山荘無量塔が好きで、以前住んでいた奈良からよく旅行に来ており、この地に住居を移そうと決心され、私の事務所に設計の依頼に来られたのです。
この敷地の大きな利点は西側の隣接地が緑地公園になっており、この緑地をとり込んで配置計画が出来た事です。基本的な考え方として南前面道路と、この緑地に開放的にするか、閉鎖的にするかが大きなポイントになった。結局、喫茶室部分を前面道路と緑地に背を向け曲線的な壁で緑地と前庭の連続性を考えた。座敷（時には営業客も利用）と喫茶室との間に中庭をとり、それらを繋ぐ部分としてサンルーム的な渡り廊下とし、外部から屋内の空間に入った時の変化を狙って見たかった。
玄関から中庭のサンルームを経由し一番奥の座敷と居間に繋る軸線を一直線とし、その壁をRCの壁とし、この壁の仕上には韓国で焼かせた塼（せん）を張り積んでいる。目地は川砂利洗出しとし、土くささを演出している。施主御夫婦の洗練された美術センスと湯布院らしさをこの建物に出して見たかった。

※



浅井康行（あさい やすゆき）
1950　大分県別府市に生まれる
1968　大分県立鶴崎工業高等学校建築科卒業
　　高校時代の担任教師であった辻先生が、教員を退職し、設計事務所を設立したので、そこを手伝う。事務所の設立準備をしながら、木構造を学ぶ為に大工の見習いを６ヶ月程する。
1981　㈲技垄・浅井康行建築工房を設立
1993　岩田のアトリエ完成
　　現在も設計事務所として続行中

撮　　影―小野　洋之※
企画編集―赤木　　隆（作品作風小委員会）



※










座敷8帖
居間兼食堂
サンルーム
喫茶室
玄関

公と共にある私

本多　友常

建築に携わる以上、天動説のように住居を中心に世界が回っていると考えたいのは人情だ。たとえば私達が都市を把握するときも、自宅を起点として理解していることが多い。その場合ほとんどの人々は、地図という２次元の図形に還元されたものの上で、家の場所を点のように捉えている。

しかし雑賀崎のような急傾斜地では、階段状の道は地形に沿って蛇行し、集落全体が迷路のように分岐を重ねている。そのため自分の住まいを鳥瞰的に位置づけることは難しい。しかし上下を結ぶ細い道が何本か通っており、それぞれに名前がついているので迷うことはない。そのルートに沿って山側と海側の上下を区別するだけで、探し当てるのに支障はない。必要が無いから平面的な理解ははじめから放棄され、地図を書ける人はほとんどいない。重要なのは、道で誰かに尋ねたら、正確にたどり着けるという確信だ。

道の名前、レベルの上下、会話、この３つの要素によって住まいの位置が同定される。いわば住まいの定位感は、坂を登る感覚とコミュニケーションに裏打ちされた身体と共に成立する。

雑賀崎では、路を名指すことによって自宅がある。それは普通ピンポイント化され、記号化されている“自分の領域”が、場に根を下ろしていることの証でもある。「公と共にある私」は急傾斜地なるが故に担保され続けている。

和歌山大学システム工学部環境システム学科教授

ディテール考

安永　三郎

建築にディテールが無ければ、実につまらないものになってしまう。それは建築ではなく、モノとしての容器である。

古建築をはじめ、木造建築にはディテールが豊富にある。本来、木造建築はプレファブリケーションであり、加工された部材を組み合わせ集積して造っていく。その際、軒や屋内の架構には木の組み合わせが素直に表され、統一感を持った美が形作られる。また石造建築や煉瓦造建築など、一つ一つの材料で構成した建築にも豊富な細部があるし、部材を通じて力の流れを明快に見ることができる。

近代になりRC造や鉄骨造が発明され、新材料が使用されるようになると、美意識の変化との相乗作用により次第にディテールも変化していった。いわば、外に見せるのではなく、要素を消すために内部に隠蔽されるディテールが多彩になった。また、造り方も機能的・合理的になり、空間そのものも無駄を省いたものになっていく。しかしながら、「神は細部に宿る」という言葉があるように、建築には内部のみならず外に見えるディテールがあるべきだし、空間にもゆとりがないと息が詰まってしまう。

随所に考え抜かれたディテールがあり、使う手・見る目に心地よいものとなり、全体が統合された建築になってこそ、価値があるものと思う。

近畿郵政局施設部長

路地

森崎　輝行

かつて、大地主が賃貸業或いは自身の雇用対策として木造連棟家屋（４軒或いは６軒長屋）を建てた。限られた面積で、出来るだけ多くの人を住まいさせる効率性の結果、一住戸での間口は、狭小のものが造られた。明治以降につくられた長屋もその方式は受け継がれたが、便所が各住戸内（その位置は、間口狭小の為、表の玄関側ではなく、奥にあたるウラ側であった。）に取り入れられ、そのメンテナンス用に勝手口も設けられた。当然、それらの通路も確保された隣棟間隔となっていた。下町では、細街路のことを路地と言うが、二種類の性格の違った通路を持っている。一方、表路地と裏路地という表現がある。裏路地が、かつて建設された時の長屋のアクセス路（敷地内）であり、表路地は、大きな幅員の通りに面した道路（裏に対しての表）である。各戸のメンテナンス用通路は、ウラと呼び通路の意識はない。人の出入りに不都合でないという＜人＞のスケールを入れたかつての効率性が、この路地と通路を生み、重層したヒューマンな距離感と幅を持つ空間に仕立てていたのである。効率性という言葉は、我々に、物理上と精神上の二要素の調和が、バランスした時始めて使えるということを下町の路地は語っているのである。

森崎建築設計事務所

情報ネットワーク時代を生きる (3) イントラネット

本間　利雄

ビジネス社会での創作活動は、天才的な閃きもさることながら、過去のアイデアの取捨選択と絶妙な組み合わせによることが多いといわれる。その際に重要なことは、どれだけ多くのアイデアをデータベースとして持っているかである。組織内の情報やノウハウを共有化しデータベースとして誰でも利用できるグループウエアに大いに期待するところである。しかし現在のグループウエアは文字情報が中心であり、とくに建築などの場合は画像情報が欲しいところである。そこで考えられたのがインターネット技術をグループウエアのように使うことであり、それがイントラネットである。イントラネットでは、静止画だけでなく動画や音声もデータベース化でき、既成のグループウエアよりも表現の自由度が高い。技術に関するノウハウはもちろんのこと、デザインに関するノウハウだってデーターベース化できる可能性がある。私のいる会社では、グループウエアとイントラネットを、それぞれの得意分野を生かすように使い分けている。したがって私のパソコンからは、グループウエア、イントラネット、地球の裏側にもアクセスできるインターネットという三つの情報の大海につながっていることになる。この情報の大海原に溺れてしまうことなく、常に情報を自在に操れるようにありたいものである。

大林組建築設計第２部部長

東海支部会員作品'99

名古屋商科大学CGC棟
岡崎市医師会公衆衛生センター
いとうレディースケアクリニック
掛川市二の丸美術館
鈴鹿市考古博物館
穂積町立図書館
小俣町図書館
スポーツプラザ養老
CBC放送センター
明治電機工業本社ビル
名古屋大林ビル
メニコン枇杷島ビル
デンソー善明製作所
百五銀行研修所“α”
安城オートギャラリー
サッポロビール名古屋ビール園 浩養園
DORMITORY YAGOTO

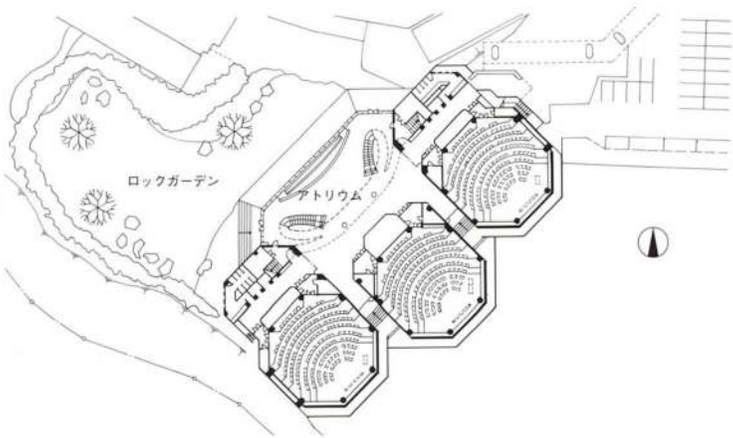
本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　小宮三辰
特集記事担当副委員長　林　金之
作品作風担当副委員長　植田　明
デザイン広告担当副委員長　池畠佳紀
特集記事担当委員　松本壮一郎
作品作風担当委員　谷　淳之介
委員　磯村正雄　稲垣貞男　今津芳清　尾崎武寛　後藤利秋　篠原佳則　鈴木慶智　仙田　篤　寺本英一　中村嘉男
中村哲士　野崎　勉　福田泰造　細田泰彦　武藤謙人　森田富士男　盛田輝勇　吉田尚道　芳山明人（50音順）

南東面全景

名古屋商科大学
CGC（センター・フォー・グローバル・コミュニケーションズ）棟

設計施工　竹中工務店

所 在 地　愛知県日進市米野木町三ヶ峯4-4
敷地面積　607,309.10㎡
建築面積　3,083.55㎡
延床面積　7,237.45㎡
構造規模　SRC、B1F、3F
工　　期　1996年10月～1998年３月
最 寄 駅　名鉄豊田線米野木駅
撮　　影　加藤敏明、SS名古屋



1階平面図1：1500



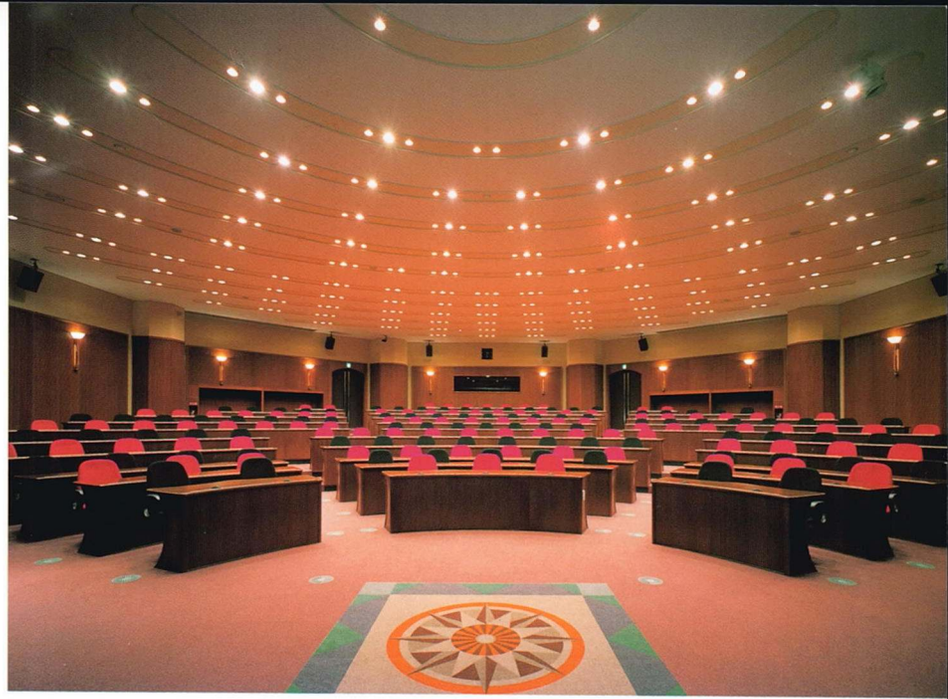
アトリウム全景

名古屋東部の丘陵地に位置する広大な大学キャンパスにあり、21世紀をにらみ、デジタル情報によるマルチメディア対応の新しい教室群の建物である。敷地は、キャンパスの南北に走る谷の南端に位置した池のほとりという、環境に恵まれた位置である。配置は南北軸に対しキャンパスの軸である45°の角度で既設の建物と池をはさんで線対称の位置とした。

教室はコミュニケーションを重視し、８角形の平面に半円形に家具が配置された緩やかな階段教室が8教室（190人対応４教室、140人対応４教室）の３層とし、全ての教室は正面に3面のパノラマウインドウでドラマチックに構成されている。「黒板のない教室」であり、ここでは大型スクリーンの映像とパソコンによる教師と双方向でつなぐ事により、快適で劇的なコミュニケーション空間をめざし、さらに他の大学間と双方向の交換授業が可能な通信衛星授業対応の設備による授業が展開できる。

南東面外観は、この平面配置の形態をみせた８角形のハーフミラーが周囲の水と緑を写しだし、水平線を強調したバルコニーとでシンプルな構成としている。また、教室をつなぐアトリウム空間は山側の自然と庭園を望み、全体は暖色系のカラーでまとめ、劇場のような雰囲気をつくりだしている。

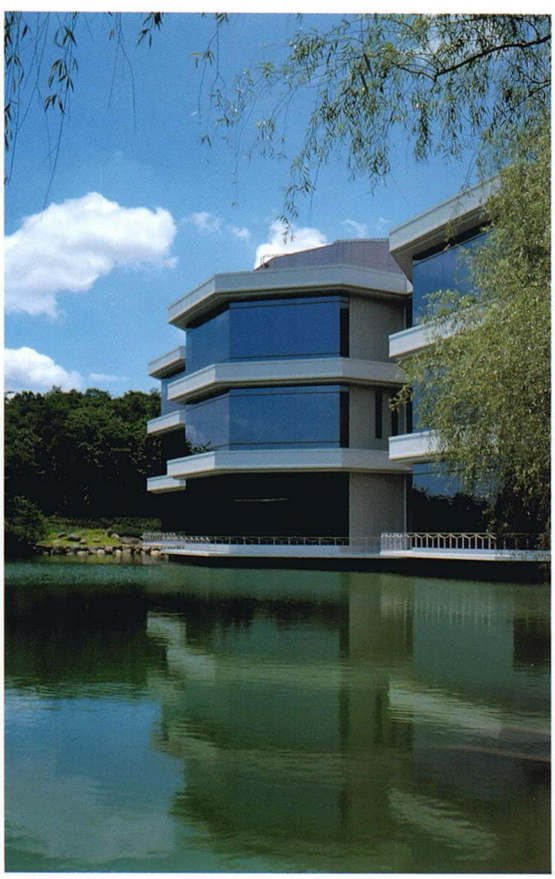
（河崎泰了／竹中工務店設計部）



教室内観



教室内観



外観



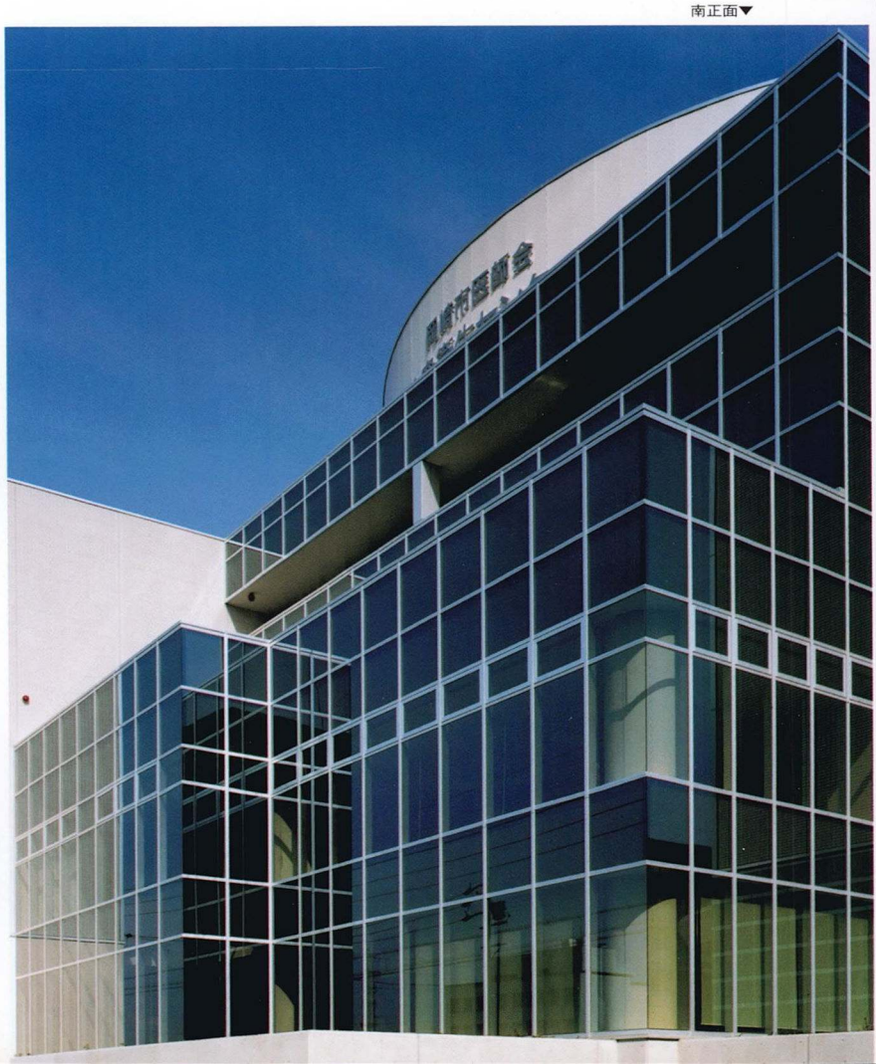
西北面アトリウム部（夕景）



東正面玄関▲



南より玄関をみる▼



南正面▼

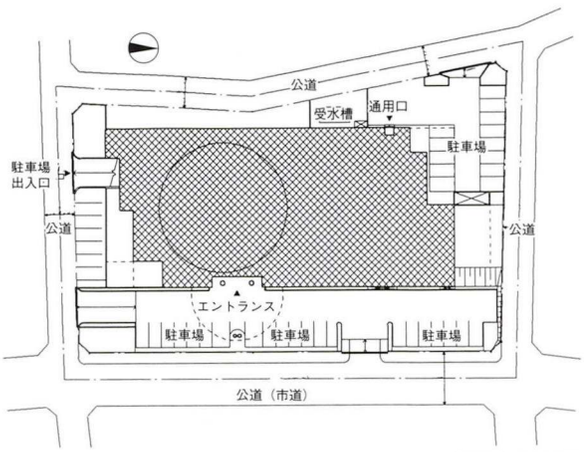
岡崎市医師会公衆衛生センター

設計監理　徳嶋建築計画事務所
施　　工　清水建設

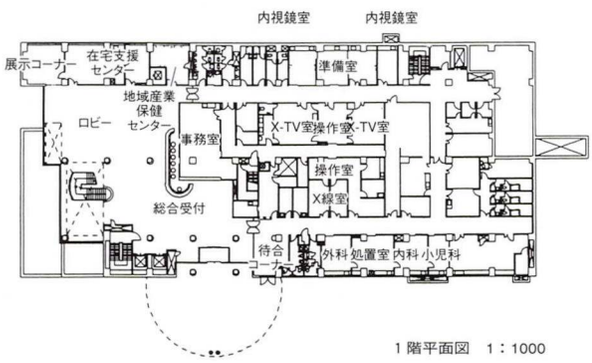
当施設は保健・医療・福祉の中核的施設で地域保健医療と救急医療（夜間急病診療所等）の拠点である。来客者に分かりやすいシンプルな平面と形、寿命の長いデザイン、医療及び機器の変化に対応できる平面と設備、イニシアルコストと共にランニングコストを考慮して徹底したローコスト化を追求した。

外観はカーテンウォールと目線に近い部分に石・タイル貼りとし、遠くからでもわかるシンボリック性の高いシンプルな形とした。１・２階は診療及びドックのため、来客者が比較的分かりやすい回廊型廊下で、職員は中央の専用通路と専用階段により動線を最小限とし、来客者との接触を少なくした。３階来客食堂はドックの来客者用で、ドック終了後の休養、また、健康相談の待合であり、落ち着きのあるやさしい空間としている。４階研修室は医師会員のための講演を主体とし、主に映像機器（OHP・スライド・ビデオプロジェクター）を充実した。地階は駐車場とCT室、MRI室とした。構造は地階・１階を鉄骨鉄筋コンクリート造、２・３・４階は鉄骨造とした。空調は外気調和機による全体空調と各室個別の空調及び換気を行なっている。また、建物全体にLANシステムを採用している。設備について、各階廊下の天井上部は電気・給排水、空調の設備スペースとし、将来の変化への対応とメンテナンスを容易にしている。

（徳嶋保昌／徳嶋建築計画事務所）



配置図　1：1500



１階平面図　1：1000

所 在 地　愛知県岡崎市竜美西1-9-1
敷地面積　4,211.47㎡
建築面積　1,996.68㎡
延床面積　9,405.12㎡
構造規模　S、一部SRC、B1F、4F
工　　期　1997年２月～1998年３月
最 寄 駅　名鉄線東岡崎駅
撮　　影　SS名古屋



４階研修室



３階食堂



２階ロビー



北西側全景

いとうレディースケアクリニック

設計施工　鴻池組名古屋支店

所 在 地　岐阜県本巣郡北方町、真正町
敷地面積　1,557.59㎡
建築面積　543.07㎡
延床面積　1,498.95㎡
構造規模　S、3F
工　　期　1998年３月～1998年10月
最 寄 駅　JR東海道線穂積駅
撮　　影　藤原義正写真事務所



南側庭園



エントランス

当地は岐阜市西部の本巣郡北方町真正町にまたがる。付近一帯は富有柿の生産地で一面の柿畑が眼下に広がる。また、当地の南側を流れる一級河川糸貫川は蛍の生息地としても有名なほどの清流で、ゆったりとしたくつろぎ感さえ感じられる景観地である。

■最近のレディースクリニックの傾向

近年、出生率の低下という背景のなかで、出産のセレモニー化・高級化、また、出産育児に関する様々な情報やサービスの氾濫といった社会傾向にあって、産婦人科業界の競争の激化は見逃せない。

・より楽しく幸せに出産を演出してくれる医院
・よりきれいで美しく洒落たデザインの医院
・より食事がおいしくサービスの充実した医院

このようなニーズの贅沢な多様化という状況のなかで、若い女性、特に妊婦さんたちが本当に何を望んでいるのかを敏感にキャッチし、提供することが必要とされている。

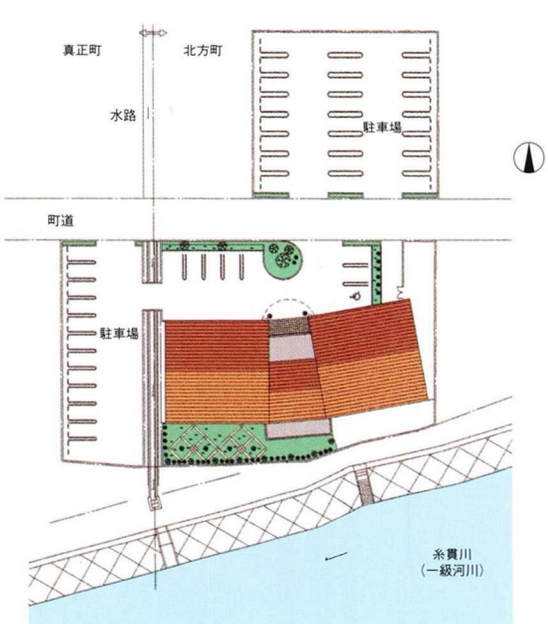
■イメージを重視しリラックスできる空間づくり

たとえば外科や内科に比べると、患者の医院選択基準として、医師や看護婦をはじめとするスタッフの人柄や建築・インテリアの空間デザインがポイントとなる比率が高くなっている。さらにプラスアルファの付加価値がより強く要求されている。

また患者は若い女性が中心なので、空間などイメージへのこだわりはひときわ強いといえる。リゾートホテルのような非日常空間が意図され、女性に心からリラックスできる快適な空間を提供し、自然に囲まれながらゆったりと心地よく和めるような医院が望まれている。機能性、快適性、安全性を追求し、女性デザイナーを交え細部までこだわりをもって設計にあたった。

インテリア・エクステリアの計画、家具や絵画、小物等の選択と配置、カラーコーディネイトなどに至るまで妊婦さんがゆったりと安心しリラックスできる空間、生命の誕生の場にふさわしく女性を魅惑し印象に残る空間を創出した。

（長柄純／鴻池組名古屋支店設計部）

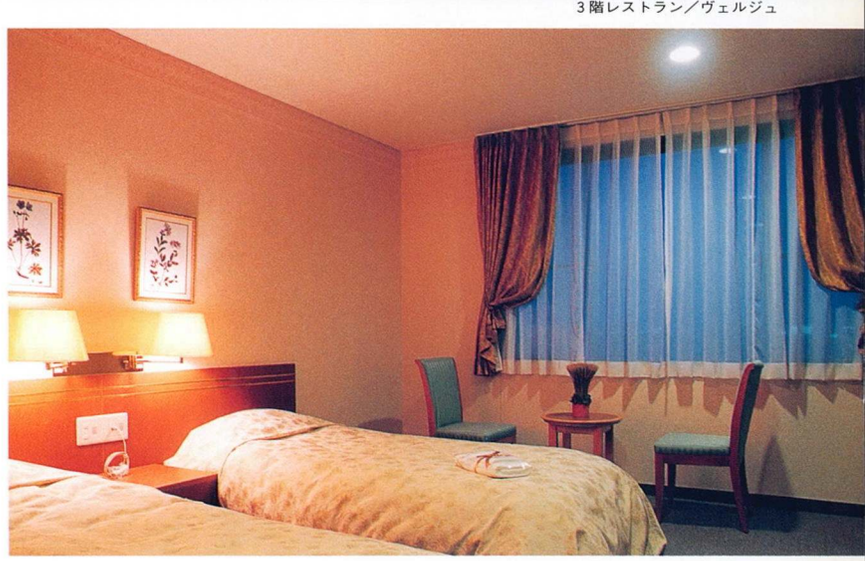


配置図


1階待合い、受付


2階ラウンジ（新生児室前）


3階レストラン／ヴェルジュ


個室（全てツインベッド）

掛川市二の丸美術館

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　川島組

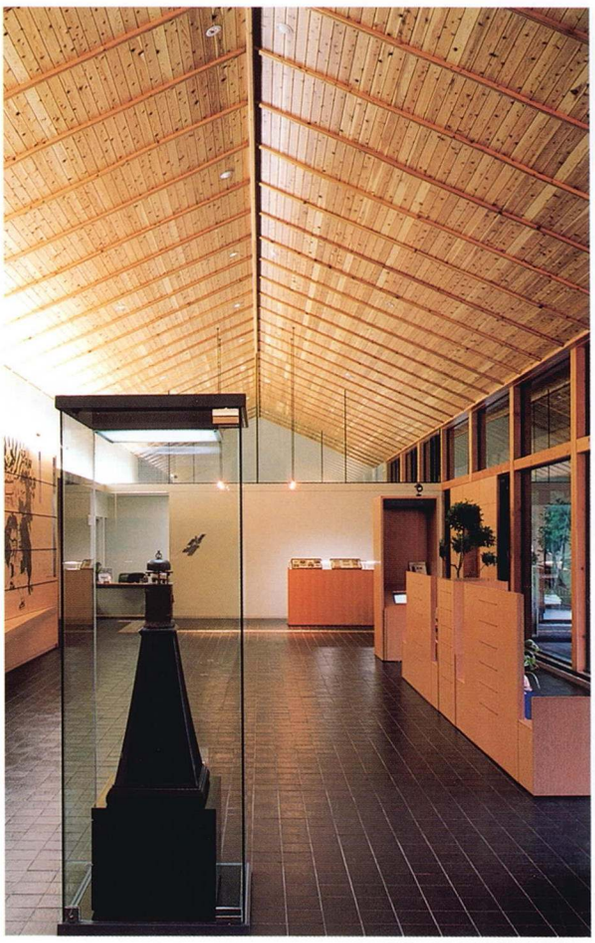
古くから城下町、宿場町として栄えた東海道宿駅「掛川」。木造建築により正統復元された掛川城天守閣のふもと、その城址内に建つ美術館である。天守閣や二の丸御殿、報徳社などの歴史的文化施設と共に重要な観光資源として、また、市民の美術活動の拠点として位置づけられている。城郭景観との調和から、二棟の切妻屋根からなる和風建築として建物のヴォリュームを抑えた。焼斑のある瓦、漆喰調の塗装と下見板の外壁により、周囲の歴史的建物と質感、色調を合わせる一方で、展示ロビーからは深さ二間の軒先越しに太鼓櫓や二の丸御殿が眺められる空間とした。構造は、展示ロビーのある棟を開放的な空間とするため鉄骨造とし、展示室や収蔵庫のある棟を、耐火、耐震性能、躯体の蓄熱性から鉄筋コンクリート造とした。また、躯体の上の瓦葺きや下見板などの和風の「衣」は外部熱負荷を軽減する二重外皮としている。

（南石周作、若林　亮／日建設計・名古屋）



軒先越しに天守閣を望む

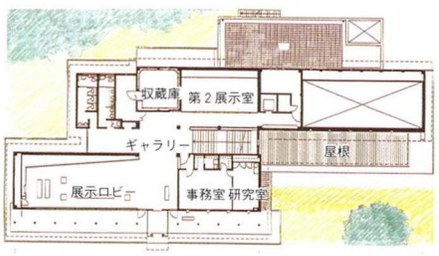
所 在 地　静岡県掛川市掛川1142-1
敷地面積　2,964.58㎡
建築面積　988.70㎡
延床面積　968.46㎡
構造規模　RC、S、W、2F
工　　期　1996年11月～1997年８月
最 寄 駅　JR掛川駅
撮　　影　SS名古屋



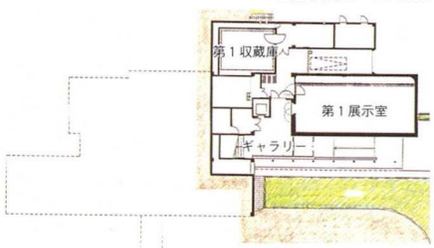
展示ロビー／天井は杉小巾板



配置図



２階平面図　１：1000



１階平面図　１：1000



展示ロビーより二の丸御殿、太鼓櫓を望む



天守閣より望む／二の丸御殿や報徳社の屋根となじむ焼斑のある瓦



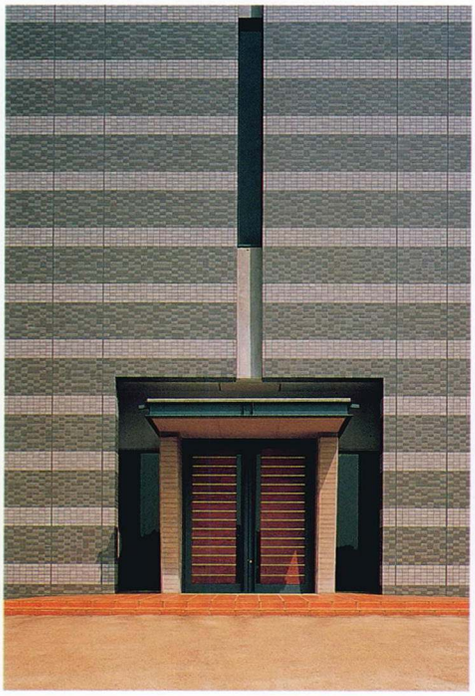
敷地のレベル差を活かした高天井の第一展示室



東面外観

鈴鹿市考古博物館

設計　東畑建築事務所名古屋事務所
監理　鈴鹿市都市計画部営繕住宅課・東畑建築事務所名古屋事務所
施工　建　築　近藤・浜口特定建設工事共同企業体
　　電　気　川北・織田特定建設工事共同企業体
　　機　械　富士総設・他１社特定建設工事共同企業体
　　屋　根　元旦ビューティ工業
　　タイル　INAX
　　昇降機　東芝
　　特別展示ケース　岡村製作所
　　展示設計施工　トータルメディア開発研究所



西面ガイダンス広場側出入口



北東面外観

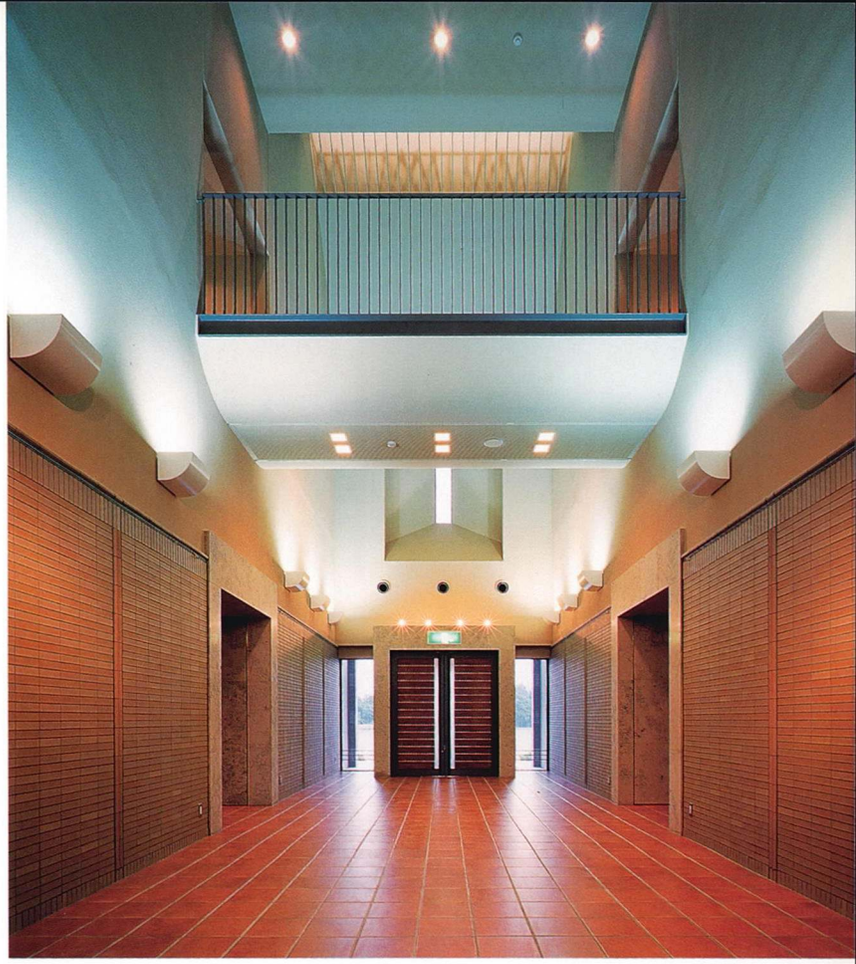
鈴鹿市考古博物館は、鈴鹿市東部、四日市市との境にある国史跡伊勢国分寺跡の隣接地に位置します。伊勢国分寺のガイダンス的役割を有し、子供から大人までが楽しく歴史を学ぶことの出来る場として、また、市の埋蔵文化財調査センターとして計画されました。

建物は周辺の遺構を保全する為、非常に限られた範囲での配置計画となっております。１階には常設展示室、特別展示室、そして多目的利用を考えた展示ホール等の展示部門と、出土した埋蔵文化財を整理する部門があり、２階には一般収蔵庫や、特別収蔵庫からなる収蔵部門と研究部門が設けられています。３階の展望デッキからは国分寺跡を眺めることが出来、将来歴史公園としての整備がなされると伊勢国分寺の伽藍を一望出来ることとなるでしょう。展示や収蔵に対しては二重壁や置屋根により気温の変化の影響を少なく出来るように配慮しております。

外観は国分寺の屋根を意識しつつ、鈴鹿山系の山並みとの調和を図るべく三角屋根を連続させています。壁面の色彩やテクスチャーは内壁も含め古代に生活した先人たちの世界へ誘う施設として時の重なりを表現するものとしました。

博物館としてのシーズニング期間を経て昨年10月に開館しましたが、開館記念として特別展の他、地元小学生による当博物館を題材とした水彩画が展示ホールに展示されました。いつまでも地元に親しまれる施設となることを願っております。

（佐伯　博、米田　聡、今井勝英（元所員）／東畑建築事務所）

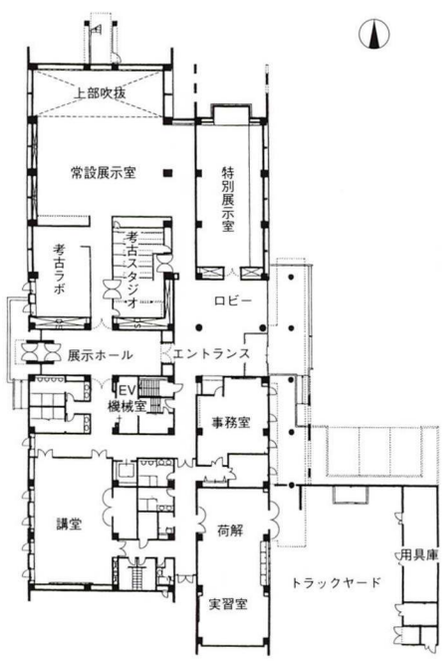


展示ホール

所 在 地　鈴鹿市国分町224番地
敷地面積　15,330.69㎡
建築面積　 1,691.58㎡
延床面積　 2,631.25㎡
構造規模　RC、一部SRC、S、3F
工　　期　1996年９月～1997年12月
最 寄 駅　JR関西線河曲（かわの）駅
撮　　影　フジタ写真工房



エントランスロビー



1階平面図　1：800



特別展示室

正面全景

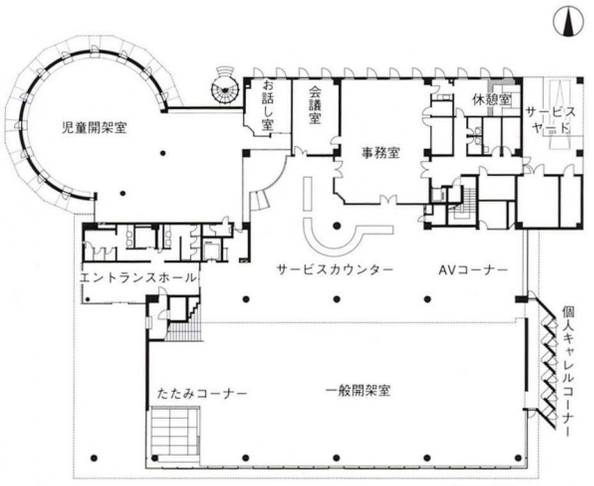
穂積町立図書館

設計監理　日建設計・名古屋

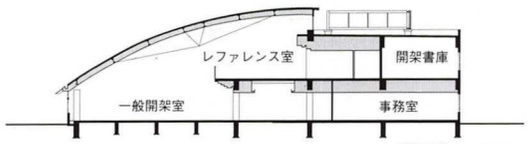
施　　工　鴻池組名古屋支店



西側駐車場より



1階平面図　1：750



断面図　1：750

この図書館は、穂積町民の生涯学習活動を支援する拠点施設として、また、文化・情報の受発信拠点として計画された。

基本理念においても「楽しく集う、楽しく学ぶ、楽しく育む」を掲げ、サブネームとして「楽修館」と名付けられ、これらの理念を表現している。

建築計画においてもこの理念を具現化するため、大屋根と円錐状の屋根構成による親しみを持たれる外部デザインや、自然光を積極的に採り込んだ明るく開放的な内部空間を創り出し、「楽しく修める館」として計画した。

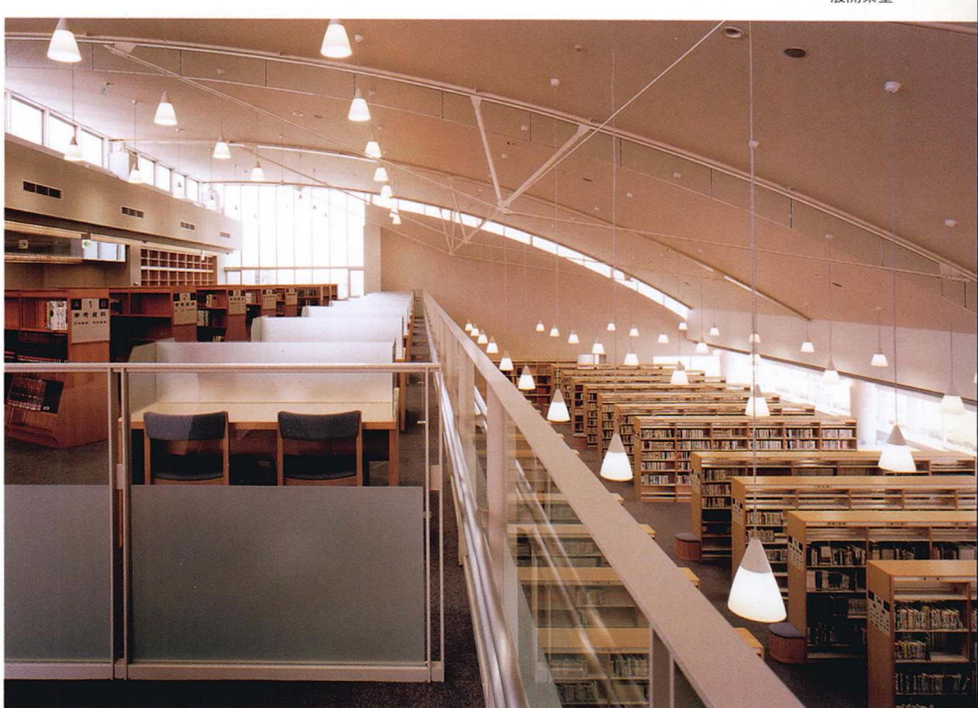
内部構成は1階サービスカウンターを中心に一般開架室と児童開架室を明確に分離して配置し、サービスの一元化と両者相互の干渉防止を図る明快な平面構成としている。これに連続する形で2階にレファレンス室を吹き抜けによる一体的な空間として構成し、全体として豊かな気積を持った開放感溢れる閲覧ゾーンを形成している。そして張弦梁の採用により、おおらか且つ軽やかな天井ラインを描いている。

無柱空間によるフレキシブル性の高い一般開架室、陽光豊かな場所に設けられた「たたみコーナー」、東側の庭に面して設けられた「個人キャレルコーナー」、子供たちの夢を育む「本の家」として円形の児童開架室等、特色あるコーナーを随所に配置し、町民の多様なニーズに対応する図書館として親しみを持って利用されて行くことを意図している。

（佐藤義信・村田政人／日建設計・名古屋）

所 在 地　岐阜県本巣郡穂積町大字稲里28-1
敷地面積　4,864.80㎡
建築面積　1,928.12㎡
延床面積　2,684.59㎡
構造規模　RC、一部S、2F
工　　期　1997年6月～1998年3月
最 寄 駅　JR東海道線穂積駅
撮　　影　SS名古屋、柄松　稔
蔵 書 数　17万冊


一般開架室


吹抜空間の全景


円形の児童開架室


一般開架室閲覧ゾーン



外観正面



閲覧室吹抜

小俣町図書館

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　鹿島・東海興業・北岡組特定建設工事共同企業体

小俣町は三重県の中東部に位置し、安藤広重の「宮川の渡し」で知られるように、お伊勢参りの玄関口として発展してきた宿場町である。街の中心部には幕府が整備した参宮街道を軸に、斜めに入り組んだ路地のある街並みが当時の面影を色濃く残している。

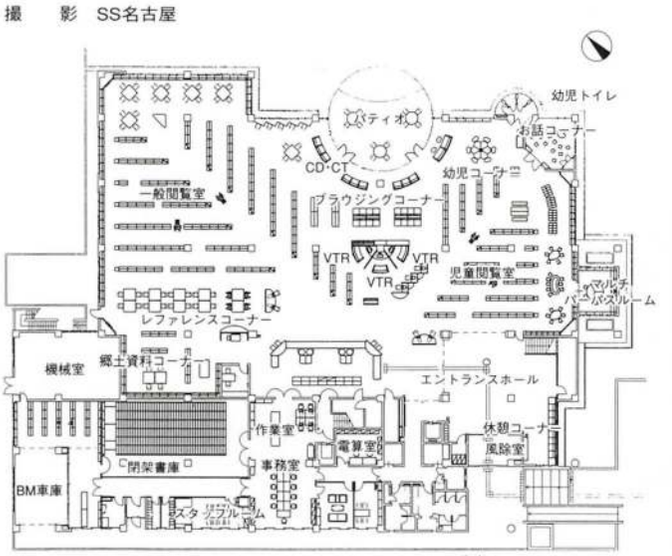
したがって、この図書館が周辺の環境に調和し、歴史と伝統の中に「新しい街並み」を形成し、住民の知的で寛いだ気分を満たし、かつ、気品と風格を与えるために、今でも多く残されている「妻入り」と「張り出し南張り囲い」という伊勢地方の民家の特徴的な様式を、現代的に新しい素材で表現した。一方、生涯学習としての新しい時代を担う図書館像については、住民のひとりでも多くの人が足を運ぶ機会をつくり、そこでいろいろな情報にめぐり合い、お互いの心のふれあう場であることも含め、利用者にとって多様な使い方ができる付加価値のある「滞在型の図書館」を計画の最大目標とした。

図書館配架計画においては、一般から児童までのワンルーム方式として、カウンターを中心に45°のバイアス通路をつくり、閲覧室の見通しと利用者を奥まで引き込む役割を与えているほか、それぞれのゾーニングの明確化をねらっている。また、高さを抑えた書架、屋外読書空間のパティオ、吹抜、高い天井、展示ギャラリー、魅力あるトイレなど、「滞在型の図書館」を十分に意識させる開放感のある空間構成とした。

その他の試みとして、児童閲覧室には読書会・発表会・パソコン利用のできるマルチパーパスルームの設置、誰にでも等しく利用できるようにバリアフリーをこえてノーマライゼーション理念に基づいた整備、環境問題に対する学習効果をねらった太陽光発電など、社会環境の求めるニーズに積極的に応え、新しい時代を担う図書館として地域とともに歩みだしたところです。

（吉原　宏・高木耕一／東畑建築事務所）

所 在 地　三重県度会郡小俣町本町2番地
敷地面積　5,678.00㎡
建築面積　2,421.18㎡
延床面積　3,936.26㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1996年10月～1998年１月
最 寄 駅　JR参宮線宮川駅
撮　　影　SS名古屋



車寄せ　１階平面図　1：1000


ブラウジング／パティオ


一般閲覧室


視聴覚室45席

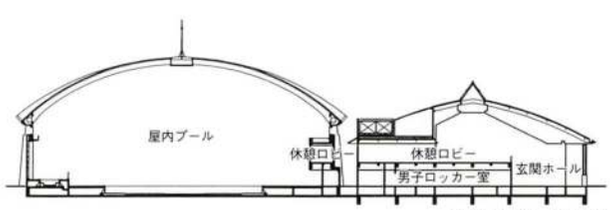
一般閲覧室／バイアス通路



外観南西面

スポーツプラザ養老

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　建　築　大橋組
　　電　気　小野電産業
　　機　械　松波水道ポンプ工業所
　　昇降機　三菱電機中部支社



南北断面図　1：1200

夜景



所 在 地　岐阜県養老郡養老町高田2862番地
敷地面積　17,857.25㎡
建築面積　 3,544.95㎡
延床面積　 4,297.71㎡
構造規模　プール棟：RC、一部W、1F
　　管理棟：RC、一部S、2F
工　　期　1997年７月～1998年９月
最 寄 駅　近鉄養老線美濃高田駅
撮　　影　加藤敏明、セントラル・フォート

本施設は、観光の町として知られる養老町がすすめる、養老町第３次総合計画の『「住みがい」づくりのための学習社会の整備』を推進する事業として計画され、養老山脈を背景とするみどり豊かな田園地帯に建設された。

プール棟と管理棟の２つの棟で構成され、西から吹く伊吹おろしをまともに受ける西側壁面は開口部を抑え、シンプルなデザインを心掛けた。

プール棟は直径48m、高さ約18mの円形ドームで、平坦な地形に浮かび上がる象徴的な形態とした。ドームを形づくる構造体には大断面集成材による木造立体トラスを、屋根材はテフロン膜をそれぞれ採用し、木造の持つ優美で温かみのある質感と、膜を透過する自然採光をふんだんに取り入れた快適で明るい空間を目指した。

プール棟には利用形態に合わせ25m競泳用、リハビリ用、子供用、ジャグジーの４種類のプールが備えられ、その800㎡におよぶプールの水は豊富な地下水を使用している。熱源には安価な深夜電力を採用し、ランニングコストの低減に配慮した。

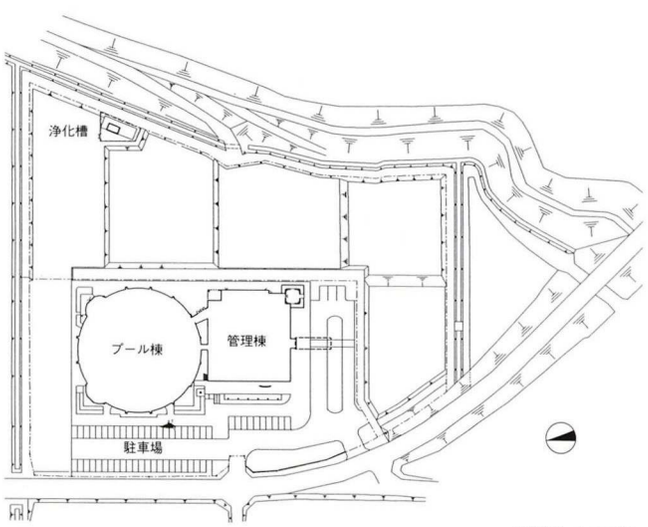
この美しい自然環境と調和した地域のシンボルとして、また、老若男女問わず楽しめる、1987年に策定した「スポーツの町」宣言にふさわしいスポーツ施設として、いつまでも町民に愛されることを期待する。

（小田義彦・清水祐治／伊藤建築設計事務所）

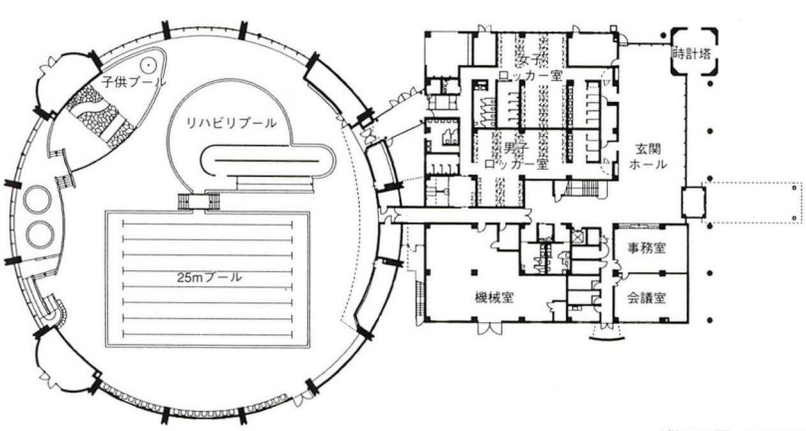


屋内プール


２階トレーニングルーム



配置図　１：3000



1階平面図　１：1000

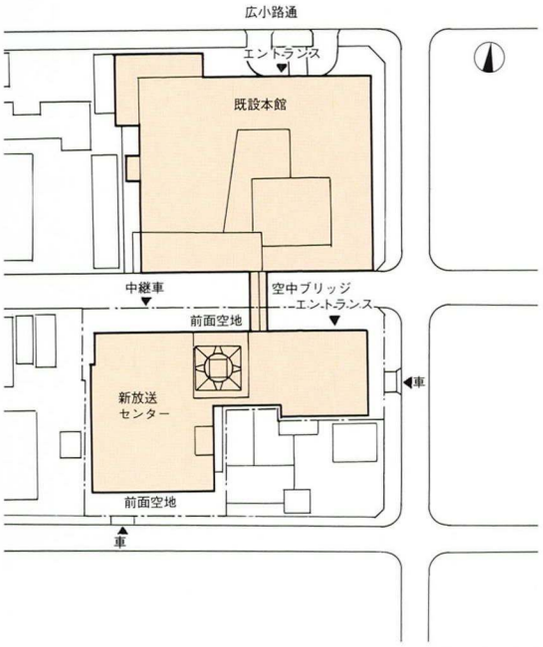

玄関ホール



北東面外観



航空写真（北東）



配置図　1：2000

CBC放送センター

設計施工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市中区新栄1-3-8
敷地面積　2,731.38㎡
建築面積　1,917.29㎡
延床面積　15,561.30㎡
構造規模　SRC（一部RC）、B2F、7F、PH1F
工　　期　1996年４月～1998年４月
最 寄 駅　地下鉄東山線新栄町駅
撮　　影　車田　保、SS名古屋

中部圏の放送を常にリードしてきた中部日本放送株式会社により、将来の放送デジタル化に対応できる情報発信基地として計画された。既存本館からラジオ、テレビの番組制作及び放送送出部門を新放送センターへ集約し最新の放送制作工場＝メディアファクトリーとしての機能が求められた。

敷地は既設本館の裏側に位置するため、存在感を高める目的で正面外壁を傾斜させインパクトのある外観とした。また、敷地周辺は名古屋の繁華街にほど近く雑多な環境であるが、セットバックによる前面空地と緑地を設け周辺環境の向上に寄与している。

新放送センターは、大別して下層階に３つのTVスタジオと上層階に４つのラジオスタジオ、そして中間階に両方の放送送出エリアを集約している。計画にあたり放送現場における“人、物、情報の流れ”の整理を行った。“人の流れ”の時間、距離の短縮を目的に各業務主体の一体フロアーとし、タテ導線を建物中央に配置する空間構成とした。“物の流れ”として報道関係の大型車両、TV舞台セット、放送機器等の搬入効率化を目的に大型駐車場や大型EVを配した。“情報の流れ”として、将来の放送デジタル化を考慮した大型シャフト、OAフロアー、システム天井などに最新技術を盛り込んだ。また、既存本館との間に空中ブリッジを設け一体的運用が可能なものとしている。

事務空間については“働く人がどう使い易くゆとりが持てるか”をテーマに十分な天井高さと開放感のある開口部、そして省エネを考慮した空調設備を完備した。

ラジオスタジオにおいても快適性を追求した。ラジオ放送は長時間番組が多いため、出演者及びスタッフにとっては居住空間としての性格が強い。そこで閉そく感が強い従来のスタジオスタイルを抜本的に見直し、開放感と一体感をテーマに音響性能を確保した上で視覚的に一体感が確保できる大きな開口部を設け、木質系内装材を多用し暖かみのある空間づくりを行なった。

（西崎徳房・広里成隆／竹中工務店設計部）



エントランス



グランドロビー



EVホール



事務室



ラジオラウンジ



ラジオスタジオ



明治電機工業株式会社本社ビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　近藤組

エレクトロニクス・メカトロニクス技術の総合商社として、製品やシステムを産業社会に提供している明治電機工業の本社ビルである。敷地は名古屋駅の北西に位置し、商住混在した地域にあり、既存の建物を取り壊して建設された。

計画においては本社ビルとしての品格、機能性、そして将来性をそなえ、耐久性の高い建物とすることを目標にした。

建家はコの字型をした敷地の西側に配置し、斜線制限等の範囲内で最大限の床面積を確保するため、地階と地上1・2階を北側境界いっぱいに設け、日影規制により3階以上の高層部は南側へ寄せている。また、東側と1階の一部を駐車場とし、平面駐車で附置義務台数を確保した。

平面計画は正面である南側にエレベーターロビー、階段、そして水廻りのコアを配置し、その北側に整形で将来の変化にも対応し易い大部屋形式の事務室を設けた。コアを南面にもってくることにより、執務空間においては前面道路の騒音が緩和され、西面も壁面とすることで日射による空調負荷が低減されている。また、東・北面の窓からの眺望はよく、均一な自然採光が得られ、執務環境の向上にも役立っている。

正面はコアで単調になりがちな壁面を、エレベーターロビーの縦カーテンウォールと壁面の凹凸、そして屋外階段を覆うルーバーによって変化をつけ、緩やかにカーブする道路と街並みに馴染んだファサードであるとともに、垂直性を強調したデザインは、企業の将来への発展をイメージした外観となっている。

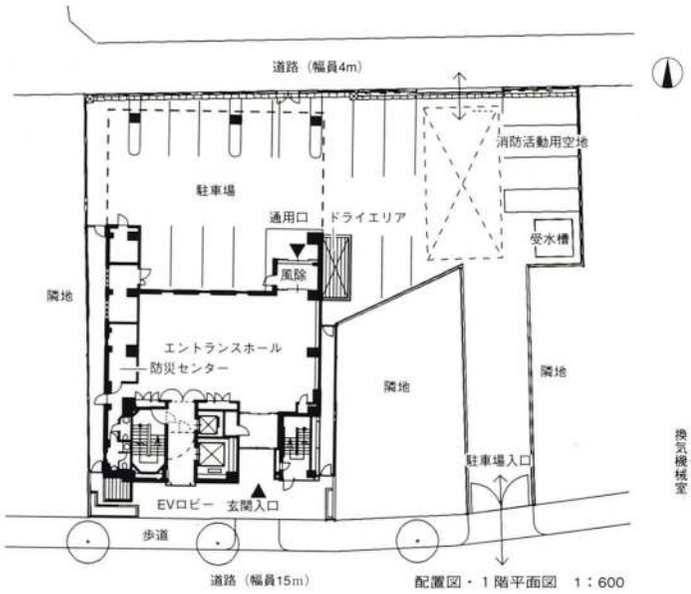
（岡田満弘・澤村喜久夫／伊藤建築設計事務所）



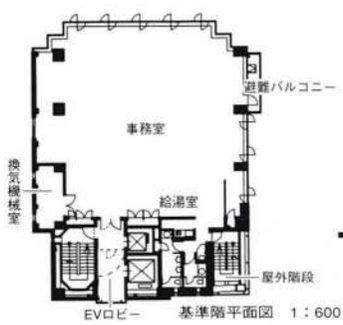
北東面外観


事務室（8階）

所 在 地　名古屋市中村区亀島二丁目1308番
敷地面積　1,085.78㎡
建築面積　502.30㎡
延床面積　4,224.66㎡
構造規模　S、B1F、10F、PH1F
工　　期　1997年10月～1999年2月
最 寄 駅　JR東海道本線名古屋駅
撮　　影　加藤敏明



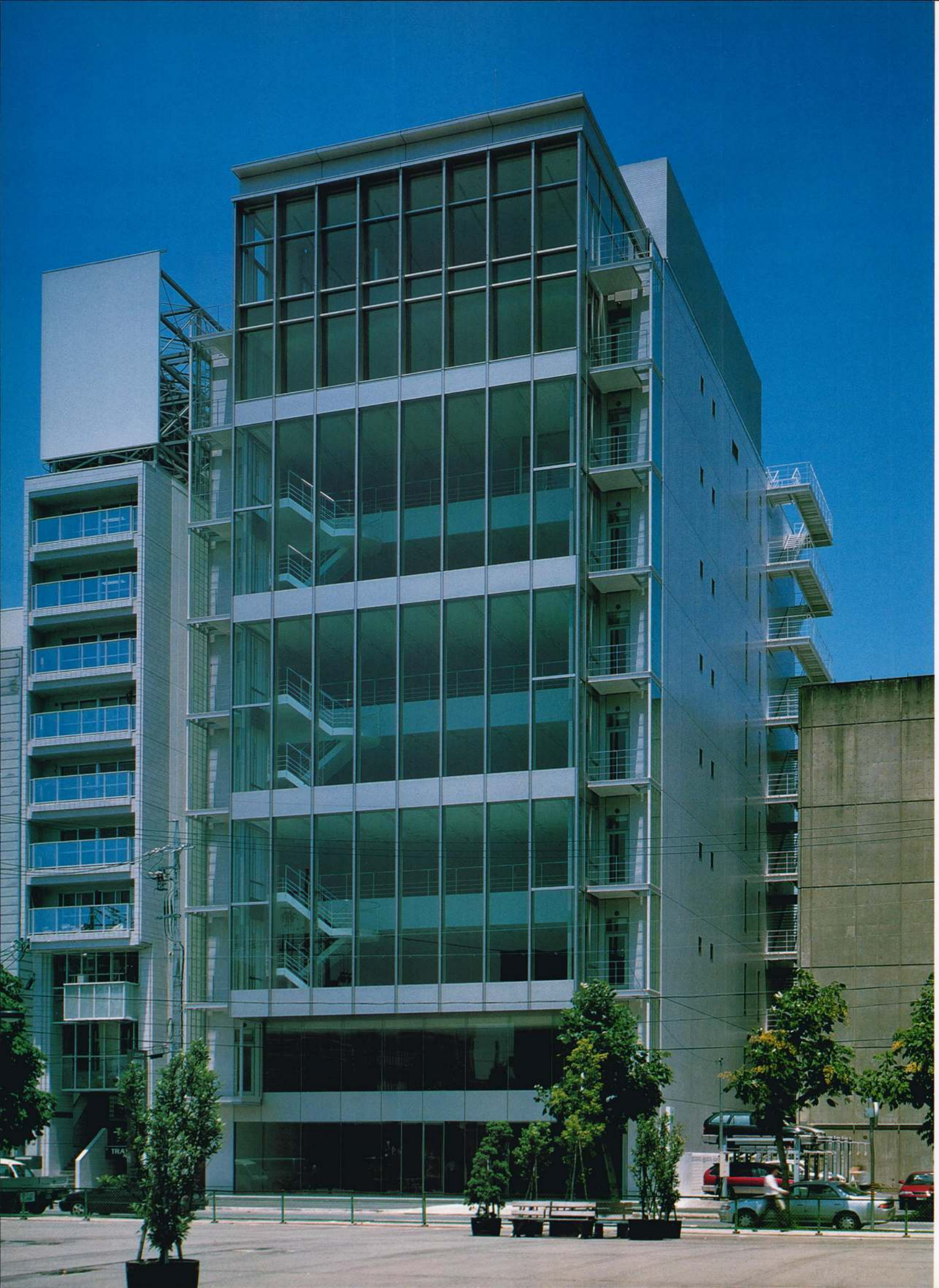
配置図・1階平面図　1：600



基準階平面図　1：600



断面図　1：800



名古屋大林ビル

設計施工　大林組名古屋支店

名古屋大林ビルは名古屋の中心、栄の将来ますます発展が期待される大変恵まれた立地環境に位置している。敷地前面には栄公園をひかえ、建物はその立地のメリットを最大限生かすべく視覚的に公園に開かれたオフィス空間をめざしている。建物前面はガラス張りとし、３～８階の執務階は、２層毎の吹き抜けとオープン階段により、上下２層を一体的に利用することも可能な明るく開放的なオフィス空間を創り出している。この吹き抜け竪穴区画には巾14mの布製ウォークスルー耐火スクリーンを使用し、シャッターの中間レールや避難扉の無い、使い勝手の良いオフィスを実現した。最も眺望の良い最上階には社員食堂を設けている。

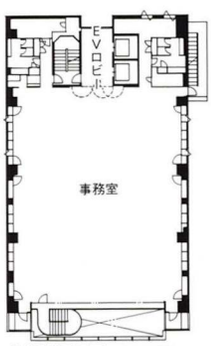
ファサードは２階分の高さの透明ガラスを使用して２層１単位の内部構成を積極的に表現する印象的なデザインとし、企業の先進性、透明性を街に向かってアピールすることと、都市景観の形成に寄与することを意図している。ガラスカーテンウォールにはヴェール状のロールスクリーンを降ろすことで簡易エアフローウィンドウとなる機構を設け、眺望確保と熱負荷遮断の両立を可能にしている。

構造は１階と地下１階の間に免震層を設けた中間免震構造とし、高い対震安全性を実現している。免震システムの減衰機構には新たに開発した新摩擦皿ばねダンパーを採用し、強風時の揺れを抑えて居住性を向上させると共に、想定以上の大地震により積層ゴムが変形限界を超えた場合にも皿バネが建物荷重を支えることで安全性を確保するよう計画している。

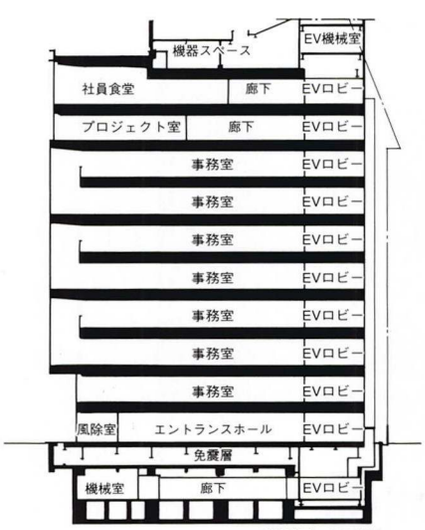
執務階の空調は床下空調方式とし、パーソナルな調整とフレキシブルなオフィスレイアウトを可能にしている他、躯体電磁シールド、太陽光発電、ハーベストアイス蓄熱、低温送風空調、天井放射冷暖房、インテリパックと言った様々な技術により最新のオフィス機能と省エネルギーを実現している。

（佐竹本次／大林組名古屋支店建築設計部）

所 在 地　名古屋市東区東桜1-10-19
敷地面積　1,603.82㎡
建築面積　754.98㎡
延床面積　6,976.07㎡
構造規模　S、B1、10F、PH1F
工　　期　1997年５月～1998年12月
最 寄 駅　地下鉄東山線栄駅
撮　　影　SS名古屋



基準階平面図　1：800



断面図　1：800

◀外観南東面


執務階吹き抜け


▲食堂

エントランス▼



メニコン枇杷島ビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　鹿島建設名古屋支店

所 在 地　名古屋市西区枇杷島二丁目625
敷地面積　1,732.34㎡
建築面積　900.60㎡
延床面積　6,023.36㎡
構造規模　SRC、8F
工　　期　1997年6月～1998年7月
最 寄 駅　名鉄東枇杷島駅
撮　　影　加藤敏明、SS名古屋



北面外観

『コンタクトレンズのメニコン』の営業と物流の拠点施設であり、オフィス、商品倉庫、研修センターにより構成されている。名古屋の中心部から北西に伸び、東名阪自動車道に接続する幹線道路に面し、自動車交通の便に恵まれた立地である。この付近は店舗付住居や集合住宅が多い住商混合地区で、建設に際しては、居住環境の保全と複合用途を明解に効率良く納めることが課題であった。

前面道路は東から西へ約1.5mの上り勾配で、北東角で構内へ乗り入れる敷地であった。周辺への影響を考慮してできるだけ造成を少なくして現状地盤を利用することとし、西側の集合住宅への日影や圧迫感を抑えるため建物を南東に寄せ、西側を駐車場と物流の搬出入スペースとした。

建物は許容容積一杯を利用し8階建として1～5階を物流部門の商品倉庫と関連オフィス、6、7階を営業部門のオフィスと明確に区分し、最上階は共用の食堂・ホールと研修センターとした。各階は東にコアをまとめ、西に約20×27mの整形な有効スペースを確保し明快な平面とした。商品倉庫には複数階にまたがる独自の物流設備が導入され、商品の入荷、ストック、出荷を自動化した効率良い物流システムが構築された。オフィス階は南北に開口部を設け自然の採光や通風を活用すると共に、氷蓄熱方式の空調システムを採用し省エネルギー化を図った。外装は耐久性に優れた磁器タイルとアルミサッシ、ガラスとし、明るい色調として、住環境との調和を心掛けた。

（鈴木慶智／伊藤建築設計事務所）



7階事務室



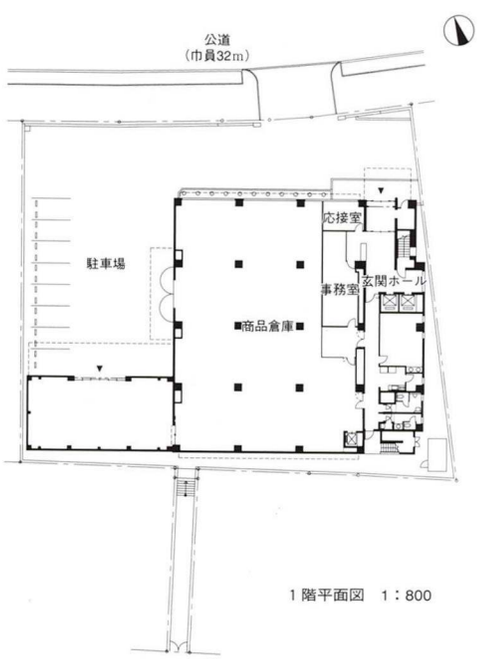
8階実技室（研修センター）



8階ロビー



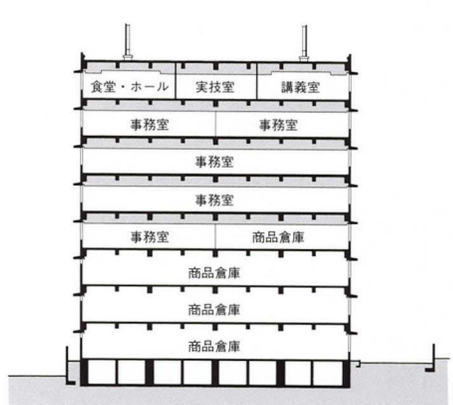
遠景



1階平面図　1：800



6階平面図　1：800



断面図　1：800

南東面全景▲

▼東面外観

デンソー善明製作所

設計施工　竹中工務店

敷地は西尾市東部、吉良町との境に位置し周辺に民家、工場の点在した田園地帯、既存樹林の斜面を多く持った小高い丘の上にある。

計画に当たり「環境・人・生産」をキーワードに21世紀対応最先端工場造りを目指し、設計コンセプトを「人と地球、地域に優しい、インテリジェント空間」の創出とした。

工場周辺に植樹を行い緑豊かな環境を創出すると共に、造成地での里山復元としてビオトープゾーンを敷地中央部ゲート横に設け、より積極的に自然環境に戻すことを計画した。

これらの共生環境は人々、地域に優しさを提供し地域に開放することで工場の従業員、来訪者、地域住民との交流空間として活用する事を目指している。

このような環境整備のなか、巨大な工場自体をマッスでシンプルな形状として、ランドスケープの一部と感じられるように外部計画をした。

（岩田茂幸／竹中工務店設計部）



配置図　1：10000

所 在 地　愛知県西尾市善明町一本松100番地
敷地面積　283,417.00㎡
建築面積　31,190.04㎡
延床面積　67,573.83㎡
構造規模　S、4F、P2F
工　　期　1997年1月～1998年2月
最 寄 駅　名鉄西尾線西尾駅
撮　　影　SS名古屋



ビオトープゾーン



2階工場



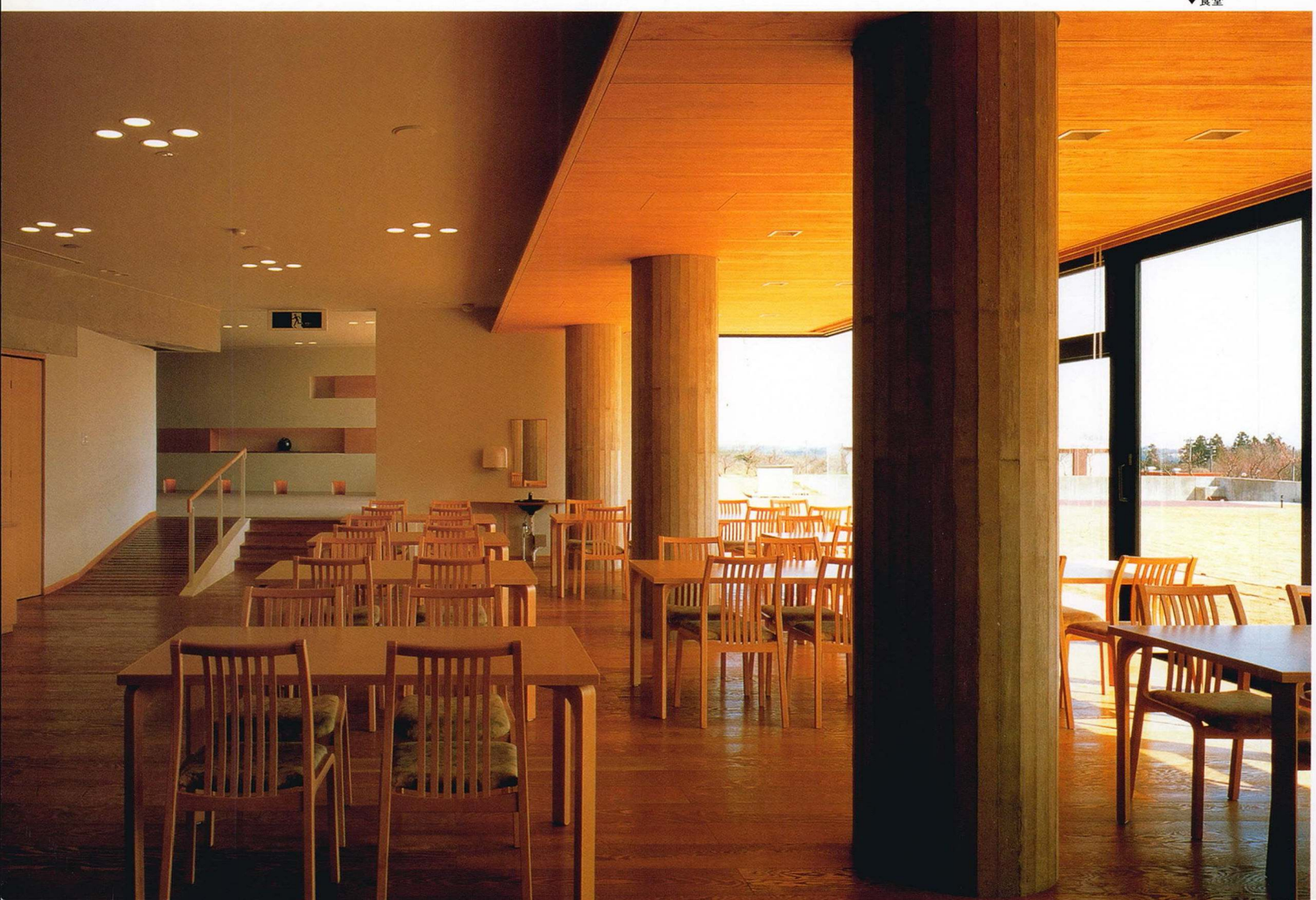
▲1階工場

エントランスロビー▼





全景▲



▼食堂

百五銀行研修所 “α”

設計監理　清水建設名古屋支店一級建築士事務所
施　　工　清水建設名古屋支店

銀行の本店から、車で30分ほどの田園地帯に、敷地は位置している。保養、ゲストハウスなどの機能を盛り込むのでなく、研修のみを目的とした研修所である。

地上４階建てで、下２層が研修室、上２層が宿泊室となっている。一つの大研修室と、五つの中研修室、約70名の宿泊が可能である。敷地の南北に約３メートルほどの高低差があり、したがって、メインエントランスは、２階からとなっている。

かつて、日本のいたるところで、“山裾に、民家の屋根が重なり合う”そんな田園風景が点在していた。そこには、ある種の存在感と、あくまでも、風景に溶け込むというコンセンサスがあった。

現代の銀行のその研修所も、塊は分割され、各々屋根で覆われ、田園風景の中に、一つの点景として溶けこむことを意図されている。

“学ぶ”ということに対する回答は、何なのか？一つは、知識を単に受身で吸収することではなく、双方向の議論、会話があって初めて成立する。それ故に、階段での雑談、夜の激論を演出する“場”を点在させ、そして、回遊するように意図した。そして、その“場”の在り方も、都会の箱に押し込まれた環境ではなく、足許から、光が入り、風景が、垣間見え、肌に触れるところは、自然素材としての木、コンクリート、ペンキで包まれ、その力と安らぎにより会話、思考が深まっていくことを期待している。

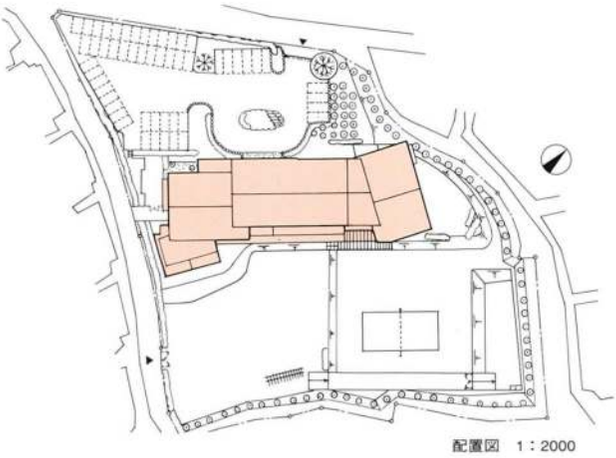
（榊原潤・石川雅英／清水建設設計部）



北側外観



ラウンジ



配置図　1：2000



▲コミュニケーションホール

研修室▼



所 在 地　三重県安芸郡安濃町大字草生字西相野
敷地面積　9,414.64㎡
建築面積　1,561.05㎡
延床面積　3,509.57㎡
構造規模　RC、S、4F
工　　期　1996年３月～1997年２月
最 寄 駅　近鉄（名古屋・山田線）津駅
撮　　影　新写真工房

南西外観

安城オートギャラリー

設計施工　竹中工務店

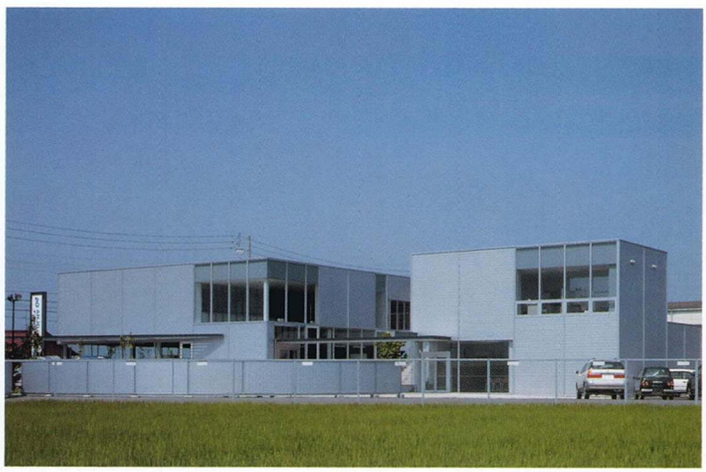
計画地は、静かな田園風景の中に置かれている。安城オートギャラリーは、自動車教習業を営むオーナーの、自動車販売所および整備工場である。過去の増築により分散していた建物を集約し、厚生施設を備えた、新しい活動の場として建て替えたものである。

施設は、中庭・テラスなどを効果的に配置したことで、周辺環境と応答している。室内は、必要な広がりと快適さを核として組み立てられており、内部と外部は、立体的に密接な繋がりを保っている。

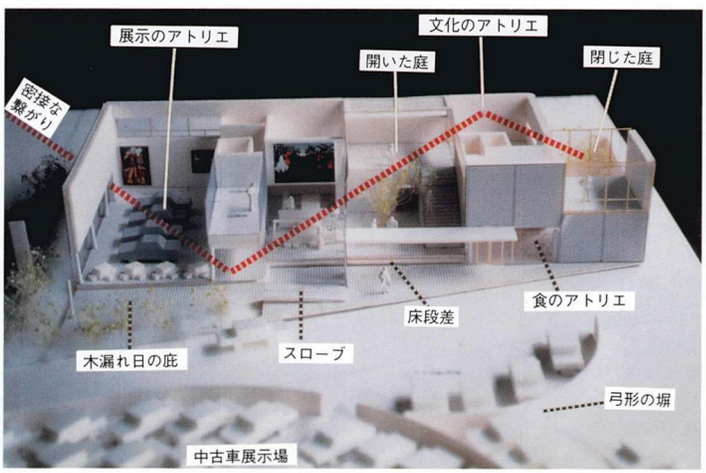
地域の人々へ絵画の展示スペースとして開放される新車展示エリアをはじめ、空間は、ひとのアクティビティーを増幅し、環境的な質が将来にわたり持続可能な仕組みを備えている。

（永岡　久／竹中工務店設計部）

所 在 地　愛知県安城市北山崎町北浦2
敷地面積　6,118.25㎡
建築面積　596.00㎡
延床面積　819.46㎡
構造規模　S、2F
工　　期　1997年7月～1998年2月
最 寄 駅　JR東海道線安城駅
撮　　影　加藤敏明



南より俯瞰する



空間構成

中庭より新車展示・事務エリアを見る



中庭



ルーフテラスより会議室を見る



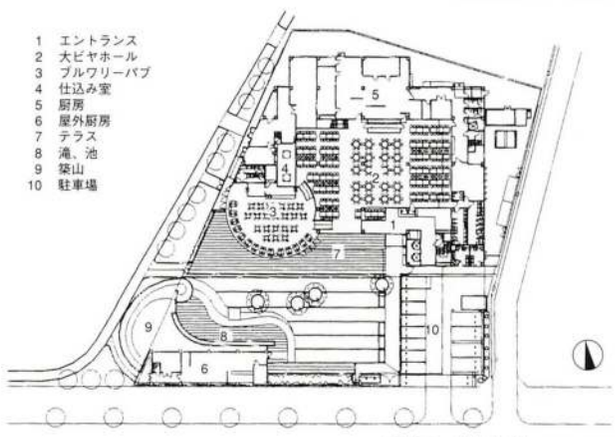
新車展示エリアから中庭を見る

南側外観・テラス夜景

サッポロビール名古屋ビール園　浩養園

設計監理　KAJIMA　DESIGN　NAGOYA

施　　工　鹿島・西松共同企業体



配置図・1階平面図　1：1000

豊富な井戸水に恵まれていたという「古井の坂」の近くに大正15年、サッポロビール名古屋工場が稼働を始め、昭和６年には、工場の接待所として日本で初めてのビアガーデンを開業した。これが「浩養園」の歴史の始まりである。

その60有余年の歴史を持つ浩養園が、近年の生活文化の多様化に応え、ミニブルワリーと大ビアホールや庭園を中心とした「サッポロビール名古屋ビール園　浩養園」として新しく生まれ変わった。

外観は古い煉瓦造の工場が持つクラフト感や家へのおもてなしという素朴さと暖かさが感じられるよう、連続した切妻屋根や土色のタイルで表情をつけている。

庭園は「浩養園」の歴史を継承し、滝、御影石と洗い出しのペイヴ、枕木のテラス等、自然の素材や選定された既存の樹木で構成され、開放的な外部空間を演出し、夜のライトアップとともに新しい都市景観を創っている。

内部には大ビアホールのほか、ブルワリーパブ、和風レストラン、数寄屋風の個室、宴会ホールなど、1,000席の客席が用意され、350席のビアガーデンとともに、ビールと食による様々なコミュニケーションが楽しめる構成になっている。

今回の「浩養園の再生」が、魅力的な都市景観の創造と潤いある生活文化形成への一助となればと願っている。

（柴野・深井／KAJIMA　DESIGN　NAGOYA）

所 在 地　名古屋市千種区千種2-16-15
敷地面積　4,113.45㎡
建築面積　2,225.83㎡
延床面積　3,888.17㎡
構造規模　S、3F、P1F
工　　期　1997年８月～1998年４月
最 寄 駅　地下鉄吹上駅
撮　　影　SS名古屋、松下電工


大ビアホール


仕込みタンク室からブルワリーパブを望む


ブルワリーパブ


和風レストラン


滝越しにブルワリーパブを望む


南面外観夜景

エントランス夕景

DORMITORY YAGOTO 大成建設株式会社 ドミトリー八事

設計　大成建設名古屋支店一級建築士事務所
監理　住宅・都市整備公団中部支社
施工　大成建設名古屋支店

八事は、店舗や大学などの賑わいと住宅地としての落ち着き、そんな二つの顔を持つ街である。約100室からなる当社名古屋支店の独身寮は、少し奥に入った静かな住宅地に位置する。敷地は周囲との高低差、不整形な形状、近隣に住宅が密集しているなど、幾つかの制約を抱えた計画であった為、この制約を整理する中で密度の高い快適な住環境を生む必要があった。そのため、建物のボリュームを抑えるよう、二棟の寮室棟と一棟の共用棟の三棟に分散し、前面の道路からゆとりを持って配置することで、周辺環境を意識し、街との接点を大切にした。また、敷地の高低差を利用して2階床部を「免震構法による人工地盤」とし、三棟をその上で三角形につなぎ一体化したことで、「安全性」と同時に、開放的な中庭を持つ住空間には「ゆとり」を生み出している。

独身寮の在り方として考えたことは、希薄になりがちな個人の関係も、価値観の違いも、建築が担える役割は、適正なプライバシーの確保と、個人の生活習慣を限定しない選択肢の確保との両立の中に、空間ののびやかさや魅力を引き出すことが大切ということ。当施設は、共用部を全て、この中庭のガラスの壁に面して配置している為、個室からひとたび出れば中庭を通して全ての共用空間を見渡すことができる。それは会社での縦の繋がりだけでなく、横の繋がりへと展開できるような独身者の“家”をつくる上での道具立てとして考えているが、ここでの生活秩序は、個人の距離感や領域を保ちながら、時間をかけてつくられている。

（大吉弘晃／大成建設設計部）

ロビーより中庭を望む

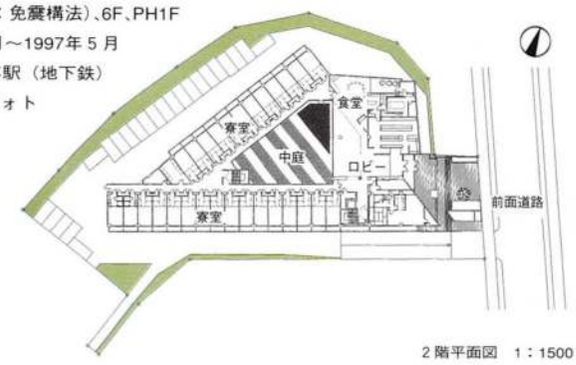


中庭よりロビーを望む



中庭より寮室棟の廊下を望む

所 在 地　名古屋市天白区弥生北岡109番地
敷地面積　3,586.11㎡
建築面積　1,623.62㎡
延床面積　5,482.69㎡
構造規模　RC（基礎：免震構法）、6F、PH1F
工　　期　1996年4月～1997年5月
最 寄 駅　鶴舞線八事駅（地下鉄）
撮　　影　センターフォト



2階平面図　1：1500

2Fロビー



▼2Fロビー



Tokai Sketch Book



愛知大学名古屋校舎図書館・研究館

設　　計　安井建築設計事務所
施　　工　鹿島建設
所 在 地　愛知県西加茂郡三好町大字黒笹字清水370他
敷地面積　201,530.61㎡
建築面積　1,807.90㎡
延床面積　6,038.31㎡
構造規模　RC、一部S、SRC、3F、8F
工　　期　1997年４月～1998年５月
最 寄 駅　名鉄豊田線黒笹駅



春日井市二子山古墳ハニワの館

設　　計　篠田川口建築事務所
施　　工　イリヤ建設
所 在 地　春日井市二子町2丁目
敷地面積　36,744.00㎡
建築面積　263.26㎡
延床面積　231.16㎡
構造規模　RC、一部W、1F
工　　期　1996年９月～1998年３月
最 寄 駅　城北線あじよし駅



桑名信用金庫員弁中央支店

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　安藤建設名古屋支店
所 在 地　三重県員弁郡員弁町笠田新田3番地
敷地面積　881.50㎡
建築面積　370.22㎡
延床面積　610.61㎡
構造規模　S、2F
工　　期　1998年４月～1998年10月
最 寄 駅　近鉄北勢線楚原駅



コレツイオーネ東山

設　　計　ウッドフレンズ設計室
施　　工　日本国土開発名古屋支店
所 在 地　名古屋市千種区東山元町4丁目67番
敷地面積　1,249.00㎡
建築面積　387.33㎡
延床面積　1,479.66㎡
構造規模　RC、B1F、3F
工　　期　1996年６月～1997年７月
最 寄 駅　地下鉄東山線東山公園駅



コレクション高峯（分譲住宅９棟）

設　　計　ウッドフレンズ設計室
施　　工　ウッドフレンズ
所 在 地　名古屋市昭和区高峯町13番1他
敷地面積　172.20㎡～265.49㎡（各）
建築面積　51.42㎡～ 76.38㎡（各）
延床面積　150.01㎡～212.68㎡（各）
構造規模　RC、B1F、W、2F（各）
工　　期　1997年８月～1998年２月
最 寄 駅　市バス名古屋大学前



スーパー銭湯みなと花の湯

設　　計　城設計室
施　　工　フジタ・鈴中工業JV
所 在 地　名古屋市港区品川町1-1-4
敷地面積　12,336.85㎡
建築面積　1,460.89㎡
延床面積　1,405.49㎡
構造規模　S、1F
工　　期　1997年２月～1997年７月
最 寄 駅　市バス本宮新町

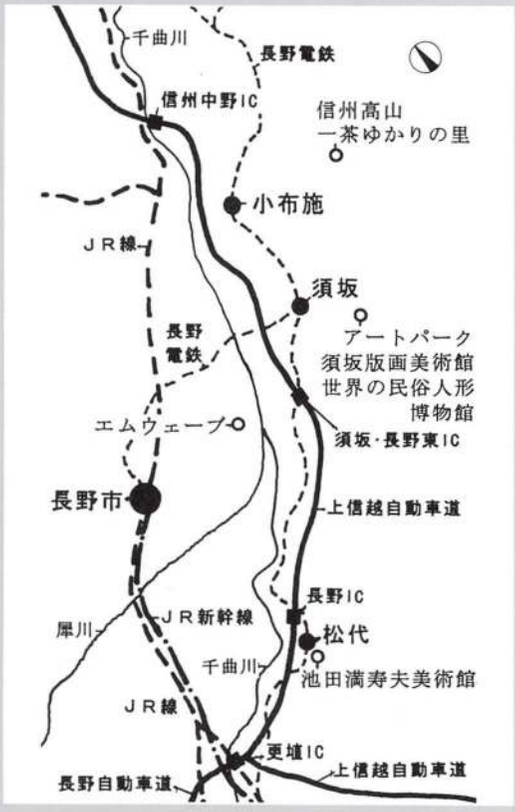
特集　北信濃―街並み修景と地域文化の再構築

東海特集の地方シリーズも「伊勢」「飛騨・美濃」「遠江」「金沢・能登」「信州」と続き、今回で6回目になります。東海地域とその周辺と言うことは、一回りしたと言う意見や肝心な愛知・名古屋が抜けているなど様々な意見が出て、今後の方向性を模索している状況です。これまでも単なる地域の施設紹介に止まらないように「風土」や「文化」更には「産業振興」「地域の活性化」などをテーマにし、取り上げてきた積もりです。地方シリーズは、もう少し続けることになりましたが、「街づくり」や「建築」との関わりを強調したものに出来ないかと考えています。

そこで今回は、前回の「信州」の隣りである「北信」の地域を対象に「街並み修景」の手法と「地域文化」の関係を探ることにしました。

北信地域はご存じのとおり長野の中心に位置し、記憶にも新しい98冬季オリンピックが開催された地です。オリンピックに建設された巨大施設の維持管理が取りざたされています。オリンピックによる「まち」近代化が、静かな山沿いの「まち」を変貌させようとしています。

松代・須坂・小布施等の街並み保全、修景の事例を通し、地方の文化と地域活性化への思いを探り、これまでの観光色の強い街並み保全から、地域の生活や文化・歴史に根ざした街づくりの手法を探ぐることにした。　（東海支部特別編集委員会）



【街並み修景とその意義】
地方の文化と建築／宮本忠長（談話）
長野市のまちづくり-心うるおう都市景観をめざして-／田川延次
松代における伝統的環境の保全／近藤　守
すざか・蔵しっくシティー／永井由枝
須坂の町並み運動／青木廣安
修景事業がはぐくみ続ける「生活文化」へのまなざし／木下　豊

【地域の作品紹介】
一茶ゆかりの里／岡田新一
竹風堂松代店・池田満寿夫美術館／十日市昭二・藤田純也
世界の民俗人形博物館／大森みどり
須坂版画美術館・平塚運一版画美術館／桐岡　栄
長野市オリンピック記念アリーナ／小野　威

【あるく・さがす・みつける】
小布施・須坂・松代の街並みを探る

【オリンピック施設とその後の活用】
オリンピック施設の後利用及び管理運営形態について／島田政行

小布施修景プロジェクトでめざしたものとその背景

宮本忠長



東京と長野を振り子のように

――私は長野県須坂市の生まれで、小学校、旧制中学校まで育って、昭和20年から東京に出て行きました。その後、仕事が縁で地元に戻り、今では振り子のように長野と東京を行ったり来たり繰り返しをして40年になります。両者には、ものの見方に違いがあります。日本の中心である首都・東京のものの見方と、長野という極端な地方都市のものの見方との違いがと言うことになります。長野というのは、まさに文化発するところもあれば、自然の里山とか農村とか、一部に都市があってもほとんどが農村とか山村という、いわゆる地域で、地方なんです。両者には、日常の生活もそうですが、衣食住のすべてにわたって違いがあるんです。

東京の言葉が通用しないのと同様に、東京で考えている建築の常識が長野では通用しませんでした。一例を挙げると、当時の地方では建築家を専業として捉えている人が誰もいないのです。建築家の社会的な評価が別に特権的ではなくて、専門的な職能としての業務内容が通用しませんでした。大規模なものは東京の建築家が来て行うことが多いので、地方に居ますと発注者も設計者も小さなものしか出来ないという気持ちになってしまっていたようです。

昔は。父の時代の設計事務所は

――私の父親が逓信省を辞めて、設計事務所を開設したのが昭和9年です。その当時、長野県には設計事務所は9軒くらいしかありませんでした。当時、設計事務所を開くには一級建築士制度というのが無かった頃なので、まずクライアントからの信頼が得られなくては成り立たなかった。民間で設計者に設計を頼むという概念があまりなかった頃です。ただ、官公庁には伝統的にそういった概念がありまして、公共建築、当時の木造の学校建築などは設計事務所に頼まなくてはなりませんでした。ただ全体量が少ないので県下で9軒の設計事務所で事足りると言うことだと思います。

――当時の設計事務所の業務内容は、立派なことをやっていました。私が子供の頃、父の仕事を手伝っていたのでよく覚えているんですが、青写真などは全部自分のところで焼いていました。トレーシングペーパーに烏口でインキングをして、太い額縁に図面を貼って、陽に当てて露光するのです。夏の太陽光の強いときは5分程度、冬は15分、でも雪が降っているときは反射があるので8分くらい……。そんなことを体で覚えた。待っている間、ぼーっとしながら図面を見ているわけで、自然と木造の矩形図や平、立、断面図とかの名称は中学一年の時に覚えてしまいました。現場監理も大変で、私も所員の人と一緒に自転車に乗って、よく現場を見に行きました。

――その頃の設計図書を、今では学術的に貴重だと思って保存しています。当時は仕上げ書と仕様書が一緒で、それに内訳明細書、寸法、金額、手数料などが加わっていました。

そうした金額明細が入った設計書をクライアントに提出して、入札するわけです。設計者はそんなことまでやっていました。だからクライアントは図面を見ると同時にその工事にかかる費用の明細も知るわけです。中には「数量書だけ欲しい」「お金は施工者が入れる」という場合もあったとは思いますが……。段々、それが当たり前になってきて、今では、専門の積算事務所に依頼するところが多くなっています。

私は、工事費概算書、設計図、数量書、単価が揃って始めて設計図書になると思っています。クライアントが安心して「この金額でいける」となるわけで、今その構図が問われていると思います。設計は設計図でやり、工事費はおおざっぱなとらえ方しか示さないのでは、クライアントの信頼は得られません。



栗の小径（小布施）

中央は視点、地方は目線

――建築をつくることは、必ず経済的行為が背景にあります。そうしたことが地方に居るともろに出てくるんです。佐藤武夫先生の事務所にいた頃は、市庁舎や市民会館の仕事が多く、私自身、中央から地方を見ているケースがあったと思います。どうしても「中央の視点」で地方を見てしまいます。ちょうど上から下を俯瞰するという感じです。

私が長野に帰って来て仕事をしてわかったことは、地方には「水平の目線」が必要だということです。上から下を見るとものの陰になっていて見えない部分がいっぱいあります。そこでデータとか資料に頼ってしまう。それが水平の目線だとわりとよく見え、資料に頼ることが少ないのです。地方の建築をする場合、地方の建築家には、水平思考が出来る特権があるんです。それなのに水平思考をせずに、下から上を見るようになるのはなぜかを思うのです。建築家だけでなくクライアントもそうなんですが、雑誌を見たときや東京に行ったとき「ああしたものを造ってみたい」と考えたりします。

――私はあくまでも水平の姿勢でやってきたんですが、クライアントの方々は「宮本は新しいモダン建築の設計は出来ないんじゃないか」とおっしゃるのです。そんな時「古いもののどこが悪いんだ」と言ってやるんですが。事実それで仕事を断られたケースが結構あります。地方の学校とかの場合などで「既存の校舎を壊さなくても、痛んだ土台とか柱脚を付け替えるだけで再生できますから、このままでいきましょう」などと言うと、「あんたは鉄筋コンクリートの新建築の設計は出来ないんだろう」とか言われるのです。私は、そうじゃなくてせっかく使えるものを取り壊すのはもったいないじゃないかと考えるわけです。地方に居る若い建築家に「なぜ水平で見ないのか」と言うと、彼らは「水平でやると仕事が来ない」と答えるんです。そうした構図を基本的に直していかないとだめだなと痛感しています。

――地方の文化とか建築とかは、水平で見てもらうと必ず見えてきます。上から見下ろすと文化は見えず、それは文明的思考になってしまいます。その地域の風土・文化を意識してやるのが、私の建築手法なのです。「後ろを見て、前に進もう」というのが私の主義です。「後ろ」というのは「先人がしてきたこと」という意味です。フランス語の古い諺にもあるんですが、土地の持つ文化、土地の人の生活の魂にある物語性などを見ながら、近代建築技術をきちんと把握し主張していなければならない。確かに古いものには、防災上、危険なものもあります。しかし、これからの建築は構造的にも安全性が高いし、素材的にも、そして環境保全とかにも配慮されています。そうした点で「後ろ」をみながら前に進むということが大きなターゲットになると思います。

むかしの風景。再現はしにくいが守ることが

――東京時代は全然そうしたことは考えなかったのですが、長野に帰って仕事をしていると、長野というのは、いろんな集落とかいろんな通りが拡大して成り立っていることが分かってきました。建築というのは広いところからの影響より、向こう三軒両隣という局地的な影響を受けると思うんです。

「信州は寒い」と言っても地域的に随分と異なります。同じ信州の雪でも飯山と菅平と松本では雪質が違います。屋根の庇とか、壁の引き戸とか、凍結深度とかがすべて違うのです。局地気候が大事



小布施堂傘風楼笹のひろば



小布施堂傘風楼レストラン

だと思うと、局地的に周りが見えてきます。すると固有のものというか、地霊というか、精霊というか、その土地の魂が宿っていてしっとりとした場所が集落の中にあるんです。例えば鎮守の森とか、寺の墓地とか、旧家とかに精霊があるような気がします。そうしたところは、今で言う伝統的保存地区ですが、そこにある共有のものをつかみたいと思います。それは、郷愁とかノスタルジックなものと違って、魂との会話をしているような魅きつけられるものがあると思います。そうした歴史的な物語性、共有の言葉、ディテールを大事に拾い上げ、まちをつくり、家をつくる。それはひとつの記憶の風景に結びつく。行き着くとこは、育った土地にある記憶の風景。例えば小学校時代にあった風景。再現はし難いが守ることが大事だと思います。当初、「修景」という言葉がなかったので「記憶の風景をつくっていく」、それが地方の建築として出来ればいいなあと思っていました。最近は植物とか動物と人間などが皆で同じように棲んでいく「同棲」していく思想が大事で、それが「修景」ということになると思います。ただし、大都市ではそうした意味での同棲的な景観保全は別だと思います。大都市は規格化された文明的な尺度で造るのが正しいんじゃないかと思います。

間、ものとものとの緊張感

――小布施では「間」を中心に環境整備をしていこうと思いました。ことの起こりは住宅の「間取り」から来たんです。間取りとは、空間をいかに具体的に使って部屋と部屋の関係性や緊張感を保つかということ。そして、芝居でいう間、すなわち俳優同士の無言の対決とか、そうした、ものとものの緊張感をうまくとりあうことが大切です。生活環境の場では建物と建物の「間」の緊張感を考えなければならない。

私の地割りは、東西と南北に道があって、建物と建物の間がないとすれば、建物をずらすことによって建物の間が生きてくるように配置します。小布施では、水平思考で建物と建物の間を意識すれば見えてきます。建築家は自分に与えられた敷地の中だけは一所懸命設計するが、よその敷地との間の関係についてはあまり考えません。私自身、東京で仕事をしている時にはあまり考えることはありませんでした。路地というのは建物と建物の間の緊張感を取るもので、塀で仕切らないで官と民の境界をとると、人間一人がすれ違う空間であり、広場なんです。例えば小学校時代、先生からもらった通信簿の成績が良ければ大通りを晴れやかに歩いて帰るが、成績が悪い時は路地を通って誰にも会わないようにして帰る。まちは、大きな広場に、表通りと路地がなければ成り立たない。ここを復活していこうというのも修景のひとつで、小布施ではむしろ建築が脇役で、こうした空間が主役の場合がままあります。これをクライアントに説明すると信頼を受けた。いままでそうしたことは敷地の外なので気づかなかった。それを飛躍させて「ソトはみんなのもの、ウチは自分のものだから思い通りに好き勝手にやる」、それが小布施のまちづくりの合言葉になって発展しました。

間をとりながら中から、表に出てきたまち、小布施

――小布施の一番の原点は北斎館の周辺です。修景プロジェクトになったあたりは、先達の魂とか精霊の宿っているような場所です。旧家があり、酒造りの家があり、庄屋があり、江戸時代には市が立ち栄えたところでまちの中心的なところだったのです。そこを修景すると効果があって、今まで死んでいたところが甦ったわけです。



北斎館（小布施）



緑艸舎（小布施）

まちづくりは表通りより中の環境整備で、中から変えていった。間をとりながら表に出てきた。最近のまちづくりは、表のまちなみだけをやって中は手をつけない。奈良町なんかその例だと思います。

――小布施の場合は景観条例が平成２年にでき、それを推進していくために「まちづくりデザイン委員会」が、町長の諮問機関としてできました。委員会は、議会の代表、行政、建築士、商工会、有識者など十数人で構成され、私がずっと会長を務めています。このデザイン委員会で「ソトはみんなのもの」という意識を浸透させています。

須坂市では景観条例やデザイン委員会はなく、行政の働きかけもない「まちなみの会」というボランティア団体が景観賞を出して啓蒙活動を行っているようです。

ただ、小布施においてもすべてが賛同しているわけではありません。例えば、北斎館の向こう側は手がつけられていません。相談はあるんですが、そこに住んでいる人たちの機が熟していないのです。まちづくりによって、以前より満たされる生活環境になるという気に住む人がならないと駄目です。まちづくりは、みんなの理解と協力の上で成り立つもので、押しつけは出来ません。

――今、困っていることは、商業資本で小布施を自分自身のマニュアルによって造り変え、観光地化しようという動きです。こういった場合、デザイン委員会に出席してもらって説明しても「解りました」と言うだけで、出来上がったものは小布施のまちなみとは異質のものだったりする。私達が「デザイン委員会の方針のように作り直して欲しい」と言っても、その設計者は「そこまで強制できるんですか」と逆に開き直り「いつまでも和風の建築じゃなくて、新しいスタイルを取り入れた建築をやらないと駄目だ」と言うんです。水平の目線で見ながら進むという思想を持ってくれたらと思います。最終的には設計者のモラルだと思います。今ほど設計者のモラルが欠落している時代は無いんじゃないでしょうか。

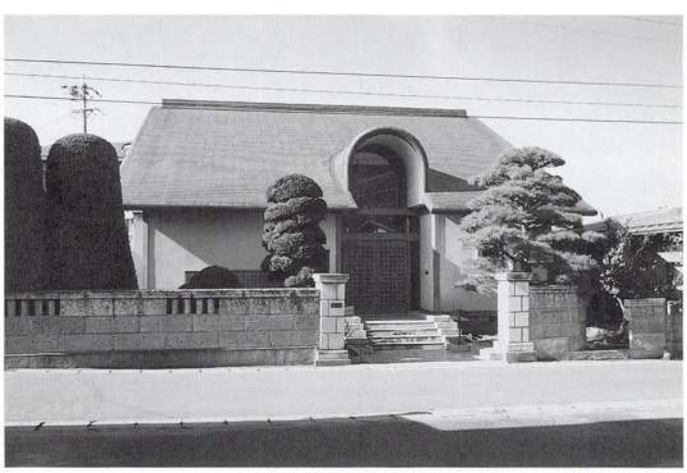
――このようなことは、どの地方の人も悩んでいることだと思います。設計者は地域の人から信頼してもらうことが大切だと言うことをわかってほしい。地方に居る人は、東京を見ないで水平思考の哲学を持てば、もっと恵まれると思うんです。

――私は、まちなみの修景は表通りだけを整備するのは危険だと思います。生活環境や住宅などを陽当たり、通風、防災的にいいということで整備するのがまちづくりの基本だと思います。うまく間をとればいいまちになります。それと建築家は「人より目立ったことをしないと設計した意味がない」と思う本能を持っています。私自身も多少そうしたところを持っていますが、そうした自己主張が、都市のスケール・尺度や都市・町・村の持つ造形的な遺伝子を探り出し、それが私の設計手法に結びついています。今、松本市の美術館の設計をやっていますが、私の提案は松本に数多くある古い蔵を解体移築して、美術館の要素としての蔵なみを造り、松本の市民の共有の財産として、蔵をとおして通じ合う新しい美術館をつくるというコンセプトです。それが新鮮だということでプロポーザルコンペで採用になりました。近代建築を造ることは決して悪いことではないんですが、そうした場所性というか、風土の遺伝子、物語性、共有の風景を合成できるかといったことが重要ではないのでしょうか。こうした地味なことを大切にしたい。

(昨年11月21日、ホテル　ナゴヤキャッスルで行った宮本忠長先生へのインタビューを紙面の関係から談話風にまとめたものです。お忙しいスケジュールのなか、名古屋での時間をご用意頂いた宮本先生に改めて感謝致します。　聞き手／東海支部特集編集委員　松本・福田)



小布施中学校体育館



個人住宅（小布施）　写真：支部特別編集委員会撮影

長野市のまちづくり

-心うるおう都市景観をめざして-

田川延次

よりよい都市景観をめざして

長野市は、昭和63年２月に都市景観形成基本計画を策定し、平成元年５月には、建設省の都市景観形成モデル都市の指定を受け、さらに、平成４年６月長野市の景観を守り育てる条例を制定しました。

21世紀の長野市は、新たな変革の時代を迎え、これまでの施策の成果と時代の潮流を的確に据え、市民福祉の向上と新たなまちづくりの指針として、また、将来に向かって世界の人々が交流し、更に潤いと活気あふれるまちづくりを目指しています。

(1) これからの都市づくり

誰もが快適に、楽しく安心して住むことができるような「都市の環境づくり」であり、私達が誇りに思い、愛着の持てる長野市の創造であり、人々の多様な価値感や社会情勢が都市に求めているものを見すえ、これらに応えられるような、質の高いサービスのできる都市空間を創造すること、そして、自然を愛し歴史を大切にした、人間味にあふれる都市景観の形成が必要である。

(2) 計画の目的

市民、事業者、行政が一体となってすぐれた都市景観を形成していくための指針とし、数多くのまちづくり施策の関連性を明確にし、連携、総合化する役割を担わせ、また、都市景観形成のための新たな施策を起こす原点にしていきたい。

都市景観形成への目標

都市景観とは、都市に住む私達一人ひとりの心の現れであり、市民文化を最も象徴的に映し出しているものです。より快適で潤いのある生活環境の実現と、市民にとって愛着と誇りの持てる長野市の創造のためにあり、豊かな自然に恵まれ、長い歴史の年輪が刻み込まれている。

長野市が持っている良さをいかに生かし、無いものをいかに創造していくかにかかっている。都市景観の形成に向けて次の４つの目標を定めた。

1.個性のある長野市をつくる　2.親しみの持てる長野市をつくる
3.美しい長野市をつくる　4.わかり易い長野市をつくる

都市景観形成への計画

すぐれた都市景観は、ただ単に美しい建物や公園を造るとか、古いものの復元だけに価値がある、といった考え方からだけでは生まれてこない。自然と街、蓄積されてきたものと新しいものとの調和であり「必要なものが、必要なところにある」ように工夫し、全体として個性的な雰囲気をかもし出して、はじめて生まれてくる。

ここでは、都市景観形成のために次に示す６つの計画を考えたが、これ等もバラバラに考えるのではなく、地域に最もふさわしい景観とは何かを把握し、組合わせていくことが必要である。

1　豊かな緑の展開

大切な緑を守り育て、何時でも何処でも緑に接することができる長野市にする。

(1)　自然地域の緑を守り育てる

長野市のイメージ的景観資源となっている自然地域を守り、更に緑の量を増やして次の世代へ継承していく。

(2)　自然に親しめる場所をつくる

市内の自然地域には、レクリエーション地帯となっているところが多く、飯綱山（**写真１**）、茶臼山皆神山、裾花峡などその代表にあげられる。また周辺の丘陵地帯にも遊歩道があり、ハイキングコースとして親しまれている。中でも飯綱は、春のワラビ狩り、

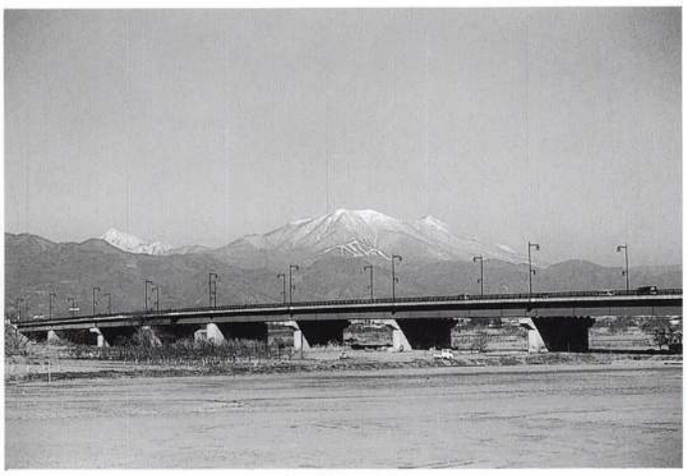


写真１　冬の飯綱山



写真２　善光寺

夏のキャンプ、秋のキノコ狩り、冬のスキーといったように、四季を通して市民から親しまれ、広く他府県からの観光客にも人気の高いところになっている。

景観形成の手だてとして、レクリエーション地帯の整備、未開発の地域は自然との調和をはかり整備する。

(3) 農業用地の緑を守り育てる

長野市のイメージ的景観の一つとして、農業地景観のゆとりや素朴さを大切にし、育てていかなければならない。

(4) 公園や緑地を増やし、道路の緑化を推進し、市街地に緑を増やす。

2 魅力ある水景観の創出

長野市には、海や湖といった大きな水面こそありませんが、雄大な流れを持つ千曲川と犀川をはじめ、背後の山々にその端を発する河川が数多くあります。これらの河川は善光寺平を肥沃にし、豊かな実りを恵み、地域のシンボルとして親しまれてきた。特に千曲川と犀川は、長野市の原風景となっている。これ等の河川を緑とともに生かし、水に触れ、水と親しめる空間づくりをしたい。

3 歴史と文化の表現

長野市は、善光寺（**写真2**）を中心とした門前町と、松代（**写真3**）にひらかれた城下町、この2つの大きな都市に近郊の農村集落群という形で発展した。これ等の歴史文化は、今も隆盛し長野市の代名詞となっているもの、史跡として伝統あるいは伝承して残っているもの、世の中の変化に埋もれてしまったものと様々である。

一方で、信濃美術館周辺や県民文化会館周辺など、新しい文化ゾーンの形成と共に、野外彫刻（**写真4**）による街角芸術空間の創造は、過去26ヶ年間にわたる「彫刻のある街長野」を表わし、その蓄積は新文化の象徴となっている。

歴史文化を現代の都市の中にとどめ、生かしながら、新しく創造される文化を育み、そしてこれ等が調和する長野市にしたい。

景観形成方針として、①歴史の核に合わせた街並みをつくる、②歴史的遺産を守り活かす、③新しい文化ゾーンを育てる

4 美しい眺望景観の誘導

長野市の周囲には自然景観が美しく広がっています。私達がつくり出す街並みもこの美しい自然景観に調和した、長野らしく美しいものでありたい。美しい眺望景観は、まちへの親しみを深く感じさせてくれ、訪れた人達に長野市をより印象深いものとしてくれる。

景観形成方針として、①背景の景観を守り活かす、②市街地の構成を美しくする、③眺望点をつくる

5 にぎわい空間の演出

景観形成方針として、①商店街の魅力づくり、②安全で楽しい歩行者空間をつくる、③街並みを美しくする

6 おちついた住環境の創造

道路や公園などを含めた住区全体の環境をとらえ、楽しくうるおいがあり、落ち着いた住宅地づくりへ目を向け、地域に親しみを持ち、愛着を抱くようにしてゆく。

景観形成方針として、①住環境を整える、②家並を整える、③道路空間を整える、④公園、広場を確保する

都市景観の形成に向けて

都市景観を形成していく上で、市民意識の高揚を図っていくことが先ず大切なことであるとともに、縦割り行政と言われている現在の行政組織の体制を見直し、組織を横に結ぶシステムをつくり出すことが必要と考えている。

（たがわ　のぶじ／長野市都市開発部都市計画課都市デザイン室）



写真3　松代（旧真田邸）



写真4　野外彫刻

松代における伝統的環境の保全

近藤　守

城下町「松代」

城下町松代は、川中島合戦で名高い武田信玄が北信濃攻略の拠点として、永禄３年（1560）に築城された「海津城」が始まりとされている。武田氏滅亡後は、織田・豊臣・徳川方と中央政権の交替とともに城主はめまぐるしく入れ替わり、「待城」「松城」と名称も変わっている。城下町としての形成は、元和８年（1622）に真田幸村の兄である信之が上田から移封された頃には、ほぼ骨格ができていたとされる。真田氏は、江戸時代の終わりまでの約250年を、北信濃十万石の大名として松代藩を治めたが、正徳元年（1711）の３代藩主「幸道」の頃には、名称を松代城と改め、ほぼ今に残る町の区域が形成されていたと思われる。

江戸時代末期には信濃の国最大の人口を擁する松代町ではあったが、明治になって北方の善光寺町に県庁が置かれてから、政治経済の中心から取り残される結果となり、幸いにしてというべきか、城下町の面影を今にとどめることができている。現在整備事業が進められている国史跡の松代城跡をはじめ、新御殿跡（真田邸）、旧文武学校、重要文化財の真田信之霊屋、旧横田家住宅など、藩政時代の数多くの文化財が残されている。また、大正11年（1922）に河東鉄道（現長野電鉄）が敷かれ駅前を中心として多少の道路網の変化はあったものの、ほぼ城下町の頃と同じ道路網や区割が保たれ、古図を片手に町を散策すれば、往事の面影を十分しのぶことができる。とはいえ、明治以後、特に近年において、町の基本構成である武家屋敷は徐々に姿を消してきており、景観として目で見える場所は少なくなってきている。

庭園都市「松代」

松代の武家屋敷は、テレビ等で見る江戸の武家屋敷とは違って、重要文化財の横田家住宅（**写真１**）のように屋根材はほとんど茅葺き（藁葺き）の主屋であり、柱なども細い質素な造りである。道路に面する門・塀は、粗壁の板葺きという粗末な造りで、白壁に腰板、瓦葺きという造りは、ごく一部の上級武士の屋敷だけであったようだ。その敷地は、間口より奥行きが大きいのが普通で、道路側は建物の敷地、後背地は地方の城下町でしばしば見られる自家用の野菜などをつくる広い畑としている。建物敷地は、門から玄関までの前庭、建物の南側には庭園、台所の脇は農作業や家事のための作業空間というように三つに分けられているのが一般的であったようだ。

生活するに不可欠な水は、城下町の東側には湧水があるが、西側には湧水もなく井戸によっても良質な水が得られないためか、城下町形成時に計画的な水系が造られたと思われる。町の水路は、宿場町のように道路の中央を流れ洗濯などに使われた「カワ」、畑の灌漑用の「セギ」、庭園の池と池を結ぶ「泉水路」（**写真２**）の用途別の三つ（**図１**）が設けられている。泉水路は、庭園の観賞用としていただけではなく、文化８年（1811）町年寄り日記八田家文書に「呑水に付き惣て不浄につかまる間敷事」と記されているように飲用としても使っていたようである。

このような松代を、東京大学工学部教授の大谷幸夫先生を会長とする「長野市伝統的建造物群保存対策協議会」の調査報告書（昭和



写真１



写真２

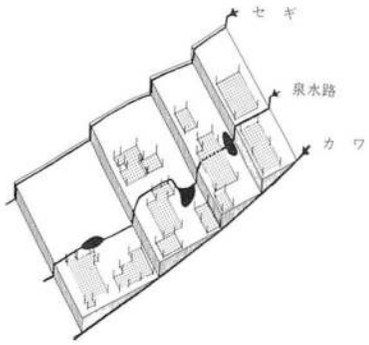
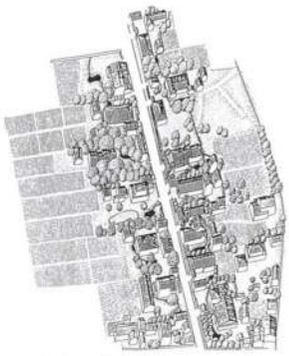
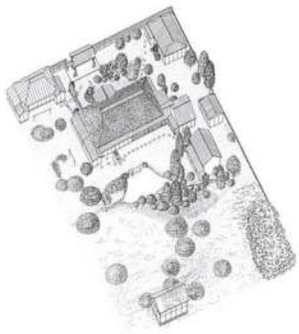


図１　カワ・セギ・泉水路の模式図（馬場町）



松代の基本構成（その１）



松代の基本構成（その２）

57年　長野市教育委員会）で、町の特質を「庭園都市」と呼び、「庭園とは単なる野ばなしの自然なのではない。主屋や周辺の家々、周囲の山々との調和を考えて人々の手によって整えられたひとつの文化財なのである。」と記されている。

基本構成である武家屋敷の保全

報告書を受けた長野市では、伝統環境保存条例を昭和59年に制定し、武家屋敷としての景観が残る松代町の表柴町・馬場町・代官町の武家屋敷地の三町を指定地区として、住民の協力のもと、伝統的環境の保存に努めてきている。報告書ではいくつかの提案をいただいているが、主に実施してきたのは、街路から見える門・塀・前庭の部分の景観の保全で、保存条例にもとづいた補助を行っている。**（表１）**

塀は本来粗壁であったろうと思われるところも、維持の難しさと建築費とを考慮して、国史跡の新御殿跡の塀のデザインを模して造るよう住民の皆さんにお願いしている。従って、厳密な意味での伝統的環境の保全ではなく、新たに造られた松代における現代の伝統的な景観となっている。**（写真３）**

指定文化財においては、専門家による綿密な調査に基づいた修理を行う復元であるが、指定地区がすべて江戸時代における空間になることが保全になるのではなく、報告書に述べられているように「調和をとる」ことが、松代の庭園都市としての伝統を引き継いでいくことになると考えているからである。しかし、視察や見学に訪れた方に、昔からの姿を伝えていると思われがちであり、説明の仕方に苦慮をしているのが実状である。

住民参加の環境保全へ

当市では、以上述べてきた伝統環境保存条例にもとづく事業だけではなく、国史跡指定旧文武学校修理工事（昭和48年～53年、平成４年～７年）、重要文化財旧横田家住宅修理工事(昭和63年～平成３年)、国史跡松代城跡修理工事（平成７年～15年）、市指定文化財旧白井家移築保全工事（平成10年～11年）など、主としてハード面での整備を行ってきている。都市計画部による歴史的道筋支援事業なども始まった中、今後は、時代とともに生活の仕方が変化していく中で、地域の伝統的環境を愛する人を育て、後世に伝えていくことができる、いわばソフト面への支援事業もより積極的に進めていきたいと考えている。

その第一段として、「泉水路」の復旧を計画している。調査報告書には、「泉水路が発達した地区では慣行水利権が認められ、地域の人々は泉水の経路を詳しく知っており、泉水の管理にはなみなみならぬ注意が払われている。」と記されている。が、駐車場のために泉水（池）をつぶさざるを得なかったり、土地の細分化により埋め立てられたり、家庭雑排水が流れ込んだりして、一部の水路を除いて「なみなみならぬ注意」が薄らいできているのが実状である。水量が減り汚濁の進んだ泉水路を復旧することにより、泉水路維持のために住民相互の活動が高まって伝統的環境を愛する人が増え、新たなる町づくりになることを願っている。

（こんどう　まもる　長野市教育委員会社会教育課）

表１　伝統環境保存事業（昭和59年～平成９年の補助対象事業一覧）

No	年度	施工内容	町名	No	年度	施工内容	町名
1	５９	犀根瓦葺替	代官	21	3	門改修一基　塀	代官
2	５９	土塀改修	表柴	22	3	門新築一基	馬場
3	５９	浚渫　石据え直し	馬場	23	3	門新築一基　塀	代官
4	６０	石積排水漏水止め	代官	24	4	塀	代官
5	６０	土塀改修、門一基	代官	25	4	門改修一基　塀	馬場
6	６０	屋根葺替	表柴	26	4	門新築一基　塀	代官
7	６０	門改修一基	馬場	27	5	離れ改修	代官
8	６１	門改修一基	代官	28	5	塀新築	代官
9	６１	塀改修	馬場	29	6	塀新築	殿町
10	６１	塀改修	馬場	30	7	塀新築一基　塀	代官
11	６２	塀	馬場	31	7	門新築一基	代官
12	６２	塀改修	殿町	32	7	屋根茅葺葺替	馬場
13	６３	長屋	馬場	33	8	塀・門新築一基	馬場
14	６３	門	代官	34	8	塀・門新築一基	代官
15	６３	土蔵	馬場	35	8	泉水修復	表柴
16	元	塀	表柴	36	9	土蔵修復	代官
17	元	塀	馬場	37	9	塀・門新築一基	代官
18	元	塀	代官	38	9	泉水、泉水路修復	殿町
19	2	屋根葺替	代官	39	9	庭園新築（泉水）	表柴
20	2	門改修　一基	代官				



写真３

すざか・蔵しっくシティー

永井由枝

須坂市は、長野県の北東部善光寺平の東部に位置し、上信越火山帯を背景に百々川、松川等によって形成された、東から西へ緩やかに傾斜する扇状地上に位置しています。

江戸時代には大きく須坂藩と松代藩によって治められ、現中心市街地は交通の要地として、明治維新までの250年間堀家一万余石の領地として賑わいました。

今ここには、多くの“土蔵造り”と呼ばれる建物が残り、それらは生活の場、あるいは商店等として活用されています。これら「蔵しっくシティー」の柱となる“土蔵造り”の建物は、製糸業全盛期の遺産であるといえます。

須坂の製糸業は江戸後期に芽生え、地理学的要因、経済基盤など、さまざまな発展要因が指摘されていますが、明治政府の殖産興業政策の追い風もあり、明治８年には既に器械製糸場を設立していた、青木甚九郎、遠藤万作らによって全国初の製糸結社「東行社」が設立され、須坂や周辺地域の基幹産業として大きく発展しました。

このことは、須坂の中心市街地では商業の発展をもたらし、千曲川右岸、河東地区全体を含めた周辺農村では、製糸工場の労働力を支え、蚕種業・養蚕業が大きな収益をもたらしました。この周辺農村の生産力こそが、製糸業発展を支えた大きな柱になりました。

当時の社会全体に視点をむけると、製糸業を支えたのは蚕の種を作る者（蚕種業）、繭を作る者（養蚕業）、繭を売り買いする者（仲買人）、そして製糸工場で糸をとる労働者（工女・工男）です。そして製糸業に支えられたのは呉服、小間物、金物などの商業と糸枠製造などの工業、さらに劇場、映画館、料理店などのサービス業でした。

また、製糸業が栄えた明治から昭和初期、特に明治後期から大正期には電灯・電話の架設、鉄道・上水道の敷設、そして都市公園の整備、全国初の新民謡の導入、学校施設の整備など、製糸業で蓄えた大きな経済力を背景に、周辺市町村にさきがけた事業が行われています。これらはすべて製糸業に直結しており、また公共事業も製糸業を軸に計画されました。

「煙突から出る煤煙と繭を煮る匂い」に包まれた町、『蔵の町須坂』は糸と関わり、生活してきた多くの人々が生み出した資源とも言えるかもしれません。

現在須坂市は、人口約55,000人、平成８年に高速道路も整備開通し、豊かな自然環境を背景に蔵の町並みを生かした「蔵しっくシティー」のまちづくりに向け、事業を進めています。

蔵造りのまち

昭和60年４月から地方新聞社が「歴史をしのばせる古い民家や江戸時代からの老舗の商家の町並み。そして、生糸全盛時代の遺産で特色ある蔵造りの建物がつぎつぎと姿を消していく。今、保存の手を打たなければ。」そんな思いから100回にわたり市内の民家と町並みの美しさ、その背後にある歴史や生活などを紹介し、多くの市民がその歴史的な重みを知ることになりました。

これをきっかけに、市民有志が「須坂の町並みに先人の心意気と創造性を見出し、学び、個性と誇りあるふるさと須坂の文化的都市を目指し、心豊かな町づくり、住み良い生活環境、産業振興に寄与する」ことを目的として「信州須坂町並みの会」を昭和61年に結成しました。

「町並みかわら版」「町並み案内絵図」の発行や、市民を対象とした町並みフェストなどの見学会が行われ、その努力が蔵の町並みをひろく評価させました。

行政においても「歴史的町並み調査（昭和63年）」「伝統的建造物群保存対策調査（平成元年）」を行い、客観的評価として次のような



小公園整備　平成７年度



太子町公衆便所改築　平成８年度



須坂地区歴史的景観保存対策事業　修理修景基準

特徴があることがわかりました。

1　土蔵造りの町屋の主屋だけでも60棟以上ある。

2　土蔵造りの建物は色彩・意匠・屋根の形などの変化に富み、非常に魅力的である。

3　明治・大正時代の洋風建築が町並みに接した場所にある。

4　江戸時代の神社・寺院建築の優れたものがある。

5　須坂藩の武士の住まいも残っている。

6　緑と水に恵まれた住みよい町である。

市民の間に蔵を残そう、直そうという気運が盛り上がり、市は行政と市民が連携した町の活性化を目指した施策を打ち出しました。

歴史の脈打つまち　～まちなみ保全と住環境の向上～

まちなみ保全は単にその古い眺めを保存するのではなく、優れた居住環境としての条件を備え、活発な生業の場であらねばならない。そのために歴史的な建物をどのように修理していくのか、また、近代的なものに改築されている店舗をどう調和させ修景し、商業活動が可能な店舗づくりを進めるのか等々を考慮し、「須坂市須坂地区歴史的景観保存対策事業計画」を策定しました。

実際の事業を実行するに当たり、具体的な内容検討を進めていくうえで、下記の4点について有識者の方々からアドバイスを受け、市単独の事業として「須坂地区歴史的景観保存対策事業」の補助金制度を平成5年度からスタートさせました。

(1)　区域の設定は「歴史的町並み調査」「伝統的建造物群保存対策調査」の行われた中心市街地の33ヘクタールとする。

(2)　対象建物の範囲はそれぞれの調査の対象となった建物。

(3)　補助額は、修理500万円、修景300万円とする。

(4)　基準は歴史的建造物の保存・修理を図る。

国の町並み環境整備事業が平成5年度に創設され、当市の須坂地区歴史的景観保存対策事業も対象となり、うるおいとゆとりのある環境を整備するために、地区施設（小公園整備、公衆便所設置等）の整備事業を合せて進め、平成7年度から48ヘクタールに対象区域を拡大しました。計画は10年計画（平成7年～16年）とし、補助金制度も国の制度にあわせ補助率を改正し、より地域住民との合意を得る中で取り組みを進めています。

まちづくり協定の推進

歴史的建造物の修理・修景事業も6年目になりましたが、48ヘクタールという広い対象区では年間5,000万円を投入しても点在的になり、事業の効果が目に見えず、住民とさらに綿密な連携をとるため、区域内を15地区に分けることにしました。

行政の一方的なリードではなく、地区住民の自発的な創意工夫を反映させていく方向に事業の取り組みを変更しました。

改めて各地区の住民の皆さんと、どのようなまちづくりをしていくことが地域を豊かにするのか、本音で話し合いを持ち、会を重ねるうちに、地域住民が非常に町に対する愛着を持っていることがわかりました。

「何かをしなければ、今のままではいけない、行政を批判し理屈をこねていても、自ら動かなければ良くはならない。」との意見があり、人と人とのつながりの大切さを感じ地区協定を締結してまちづくりを進めようとの意識が高まり、15地区のまちづくり協定が締結されました。

その協定では、蔵の町並みの保存活用を目的とし、建物の修理・修景については、町並み景観に調和するように定められています。

地区協定が締結されたことで、点的整備であったものが面的整備として進み、地区住民の関心がさらに高まり、花づくりを進め街角に並べたり、先進地視察等を積極的に行ない、市街地活性化への大きな力となっています。

まちの活性

この事業区域の中心に地区活性化の起爆剤として、須坂市は厳しい財政の中、祇園祭に巡行する全国でも貴重な二段幅額（もこう）の笠鉾を展示する「笠鉾会館ドリームホール（鉄筋コンクリート、三階建延床面積約1214㎡、事業費6億6千万円）」、豪商・製糸家の元牧新七家（都市計画道路関係として買収）を利用した「須坂クラシック美術館」を設置しました。

また、財団法人「豪商の館・田中本家博物館」の開館、百々川沿いの緑地自然林を利用した須坂アートパーク内に「須坂版画美術館・平塚運一版画美術館」、同敷地内に「小池千枝コレクション世界の民俗人形博物館」を建設、また蔵の修理・修景が済んだ店舗をミニ博物館（個人展示）等として設置を推進し、「人と人、人と芸術、人と自然とのふれあいの場」としてまちづくりを進めています。

（ながい　よしえ／須坂市まちづくり推進部）

須坂の町並み運動

青木廣安

原風景が消えていく

善光寺平にある須坂市は、かつて信州において岡谷市につぐ二大製糸業都市であった。昭和50年代は、須坂市の住宅地の外延的拡大によって中心市街地のドーナツ化現象がすすみ、居住人口の減少や空き店舗、旧町家の更地化など空洞化が頂点に達していた。

「ふるい民家や江戸時代からの老舗をほうふつさせる商家の町並み、それに製糸全盛時代の遺産である特色ある土蔵造りの建物が、姿を消しつつあった。昭栄製糸の煙突が消え、中町交差点の元須坂郵便局跡の商工会議所が取り壊されて駐車場と化した。今、保存の手を打たなければ、須坂の近代を築いた先人のエネルギーが見えなくなる。」そんな思いを誰もが強くしている時代であった。

たまたま地元の「須坂新聞」社から郷土欄の連載記事の依頼があり、仲間の美術教師を誘い、スケッチ入りで『須坂地方の民家と町並み』シリーズを始めることができた。初回は1985年（昭和60）の4月から、4年間100回にわたった。

行動に移すと、共感者が現れる。5回目あたりになると「須坂って、本当に土蔵造りが多いんだね。」顔見知りのおばさんから励ましの言葉がかかる。10回目ぐらいには取材先の老舗の若い主人から、「蔵の町並みで、商店街の活性化したいですね。」と声がではじめる。1年目は毎週の連載で約50回、取材申し込みで断られたことはない、快く迎えられた。2年目の8月には4、5人が集まって発起人会の準備をはじめる。1986年11月ついに発足総会にこぎつけた。市内に国道期成同盟会があったので、刺激を避け「信州須坂町並みの会」とした。出席者が130名に上ったのは、会への期待の大きさの反映と肝に銘じた。

自己啓発と他力開発

「須坂って、どこ？」「小布施町の隣の市です。」市民とすればここ10年、屈辱感にさいなまれてきた。小布施町が北斎館を建設し、歴史と文化の町づくりで脚光を浴び、その影に埋もれていたからである。それだけに市民は誇れるものを求めていたのである。

広い市民層が集まる。年齢に格差があり職種も違う。先ずは互いを知りあい、須坂の蔵の町並みの特性を学ぶ。会員自らの自己啓発がはじまった。月例会には町並みウォッチングと懇話会、講演会などを企て、市民に広くよびかける。見学会には市民の参加者も多く、会員が着実に増加した。まもなく250名ほどになる。歴史・文化芸術・匠・デザイン・広報宣伝・女性の部会制を敷く。

実践活動こそ会員の結束と住民啓発につながる。2年目87年の秋に町並み美術展を開催して100点近い応募を見た。これをフェストに移行すれば、内に向かって市民啓発、外に向かってはＰＲになる。そんな確信から、3年目から5年計画で『市民への誘い―信州須坂町並みフェスト』を開催した。これが“お庭開放・お座敷拝見”を軸とし、町家開放を含む市民ぐるみの町並み運動の特色となった。今年は11年目、12回になる。

町並み運動では、行政との関わりが欠かせない、土蔵造りの実態調査をしたい、貴重な製糸の町の歴史遺産の建物が壊されそうだ、古民家も壊さずに保存したい。大金が必要になる。行政との連携なしで運動は進まない。市教委の文化課に相談にいく。環境文化研究所の太田博太郎博士のご紹介で、大河直躬教授による祇園祭の屋台調査をてはじめに、3年間トラスト調査。そのつど報告書の刊行で全国の研究者に知れていく。



マップを片手に町並みウォッチング


花嫁衣装を飾ったお座敷開放

壊される運命にあった町家の価値が認識されて現状保存となったり、移築することで解体保存された。のちにこれらがアートパークに移築民家園として再建され、須坂版画美術館や世界民俗人形博物館とともに輝きを見せている。市も町並み推進室を設け、中心市街地の活性化に取組む機構改革をした。そのなかでミニ美術館条令や町並み修景事業条令を制定して、町並み再生への助成活動が進む。手入れの美、磨きの美も輝かせたい。

取り組んで見えてくる

実践すると、足りないものが見えてくる。フェストを実施して、見処のポイント化・体験実習の場の確保・ガイドマン養成が必要になる。特色ある食文化やみやげの地場産品もほしくなる。

見処、ポイントづくりは意外に早いかにみえた。1989年古須坂の代表的町家の豪商牧家を市が買収でき、町並み案内処・本会事務処を兼ねて内部開放する。93年3月には豪商田中本家が常設博物館、95年に笠鉾会館がオープン。しかし当初から開放した塩屋・綿幸・浦野酒舗をのぞくと、商家の開放が少ないのが課題であった。修景事業の助成後、近年ようやく増えている。住民の自主的参画はやはり10年かかる。

ガイドマン養成は88年、公民館の郷土史講座と共催し、97名が資格取得。今は市民学園の町並みコースに発展し、全面的な協力をいただいている。フェストの機織り体験が元になり、今は“須坂紬”の小物みやげのほか天蚕糸入り反物まで直売する。食では紫米を栽培、市内の料亭で紫米料理が提供されている。

古い民家の保存・修景には住む人の関心を高め、職人の伝統的技法の習得が必要になる。「町並み景観賞」が今年は9年目、すでに24軒ほどの受賞者があり住民・職人の関心も高まりつつある。

機関誌は会員の心をつなぐ。月1回「町並み通信」を出し続けて今月は142号。2月末に「赤米シンポジウム長野大会」が須坂で開催のこと、99町並みフェスト準備会を報じている。

「馬車よ　ゆっくり走れ!」

須坂の町並みの会は走った。発足2年目、松阪大会で全国町並み連盟に加入した。その秋、連盟幹事会を招聘して、地元をはじめ全国の関係者に認知されるところとなった。以来、「全国ゼミを須坂で」を目標に上に見たような活動をし、94年には全国ゼミを須坂で開催した。大会宣言に「会と市が円熟した関係を持って…」と評価されたが、それは市民をはじめ行政の支援を頂戴して走りつづけた結果であった。案の定、会は疲れて中だるみした。

昨年、十周年記念に東山魁夷画伯揮毫の上記銘文の詩碑が建立できた。碑文は中世の道化ティル・シュピーゲルの寓話にちなむという。原点に立ちかえって、ゆっくり、だが確実な足取りで再生をめざすためであった。記念事業はもう二つ。会員はじめ市民の学びの手引に、来訪者には案内書としての『よとくらい　蔵の町』を発刊。原料から一貫生産で須坂紬が織れるように、地元に残る養蚕農家と本会が図って「須坂天蚕研究組合」を結成した。

今、本年の5月22・23日のフェストにむけて、地域住民の主体的参加・参画ができるように、地元商店街や各区に設けられている地域活性化委員会とどう連携していくかを検討しているところである。「町並みづくりは、地域住民自らが快適に住むために、自らそれを築くこと」が原点なのだから。ゆっくりがいい。

（あおき　ひろやす／信州須坂町並みの会）



移築民家園（製糸家別邸の黒門、江戸末期の茅葺き曲屋など）



「馬車よ　ゆっくり走れ」の碑

修景事業がはぐくみ続ける「生活文化」へのまなざし

木下　豊

小布施町並み修景事業の本質

小布施の町並み修景事業の本質はどこにあるのだろうか。

この事業が行なわれたころから、国内では「景観」という言葉が行政やまちづくり、あるいは商店街活性化の大切なキーワードになってきた。「景観づくりの成功した町」として、小布施には全国から視察団が訪れている。

この町に暮らす住民の目から見るとき、景観についての考え方や姿勢が、小布施の修景事業と全国で流行のように展開されている「景観づくり」とは、本質的なところで違うのではないかと感じる。

小布施の修景事業の本質を私は「住民の生活文化を質的に向上させること。そのための住環境づくり」を目的にしていることに、見る。

表通りをきれいに仕立てて表面的なイメージを高めたり、それによって商店街を活性化させる（集客＝売上増）ことを第一義の目的とする景観づくりが、全国で展開されている。一方、修景事業の結果として、小布施町には来訪者が確実に増えている。しかしそれは結果であって、第一義の目的はあくまで、土地の主人公である住民の生活文化にある。

修景事業を象徴する「外はみんなのもの、内は自分のもの」という言葉は、住宅など私有の建築物であっても、外観の公共性を認めて設計を行うという、住民の姿勢を表している。しかしこの言葉も、まずは「外も内もともに快適な住空間を楽しんでいる住民の存在」を前提にしているのであり、公共性ゆえの犠牲を個人に強いているのではない。

住む人・働く人の日常的な潤いのある環境づくりを目指した修景事業であったからこそ、訪れる人々は小布施に「非日常」ではなく、日常生活の延長としてのすてきな「新日常」を感じ、リピーターとして訪問を繰り返してくれる。リピーターは町やレストランの雰囲気の変化を見ている。小布施が好きな人々であり期待が大きい分、その目は厳しい。リピーターの目によって、心地よい緊張感が町にただよい、経済・文化両面の効果がもたらされていく…こうした「刺激の循環」ともいえる理想像を求めていることが、小布施の修景事業の目指すところである。

修景事業の概観〜キーワード「潤いのある町並み」の誕生

1983年から87年にかけて、北斎館の北西に位置する約1.5ヘクタールの土地で、官民５者の共同体による面的整備が施された。この町並み修景事業は、効率優先の都市整備ではなく、種々の目的や機能をもつ建築が混在し、路地というあいまいな境界によって相互に緩やかに結合する町並みを、造成ではなく再生によって形づくるというものであった。この「群居の思想」はあくまで住民の生活の快適さ・豊かさを主眼とするが、そこに暮らす人々の姿を含めた一帯の景観を、来訪者は歩いて楽しむことができる。

この事業は中央で高い評価を受け、全国的に脚光を浴びた。調査研究や報道のために来訪する人々が増え、住民は「わがまちの修景事業」の成功を実感するようになる。「外はみんなのもの、内は自分のもの」という精神が徐々に町に浸透し、住民がそれぞれに外（装いのかたち）と内（より快適な住環境）のあり方を模索しはじめた。

この流れを受けて、町では86年に「環境デザイン協力基準」を策定、ついで90年には「まちづくり条例」を施行している。いずれも行政が住民に対して課するものではなく、「みんなのもの」である住まいの外観や植栽、屋外広告物などを、小布施らしい「潤い」や「豊かさ」の表現へ高めたいという住民の願いを明文化したものである。町並み修景は「事業」から「運動」へ進化し、現在も町に浸透し続けている。

展開の特質

1960年代の小布施は、観光資源ゼロ、したがって観光客もゼロと







写真左より

- 主要道路に面して栗の木々が茂る（小布施堂栗林）。
- 町並み修景事業の南東角に立つメタセコイヤの大木。ランドマークになっているこの木の下で、ビールや栗のアイスクリームを楽しむ。木の右は北斎館。
- 栗の小径。町の公道だが両サイドは小布施堂の私有地。路地空間を住民や来訪者が行き交う。

いう北信濃のありふれた農村であった。それが現在では、人口12,000の土地に年間100万人の来訪者を迎える観光都市となっている。過去30年間は、小布施の激変期であったといえよう。

小布施のまちづくりとその結果としての観光資源は、「葛飾北斎」と「小布施栗」に「潤いのある町並み」が加わり、3つのキーワードが出そろうことになった。ここでそれらの成立過程を振り返ってみたい。

キーワード「葛飾北斎」

幕末の絵師・葛飾北斎は、80歳を過ぎて数回にわたり小布施に滞在し、肉筆画を残している。観光都市としての小布施の起点は、22年前、1976年の北斎館の開館にある。そのきっかけとなったのは、10年を遡る1966年、この信州の一寒村が突然国際的に注目を浴びた出来事であった。この年、旧ソ連の首都モスクワの国立美術館で「北斎展」が開催され、小布施で個人が所有する北斎の肉筆画が数点、海を渡り、初めて披露された。

小布施の行政や住民は驚きつつも、わが町のもつ財産の偉大さを知った。町内の私邸に散在する北斎の肉筆画は、個人の家宝などで終わるものでなく、町や国をも超えた世界的な宝だったのである。

北斎館設立の目的は、大きく3つ。まず、宅地開発により増加する新住民への対策。北斎という共通文化をシンボルとして打ち出すことにより、新・旧住民の意識のズレを克服し、町をひとつにまとめあげる考えであった。つぎに、町内の各戸に散在する北斎の肉筆画という文化遺産を、専門施設に収蔵することによって破損と散逸から守ること。町を特徴づけるような「観光」施設を持ちたいという希望は、三番手の目的であったという。

開館当初、一面の田畑に囲まれた北斎館に対して地元の目は冷ややかであったが、その文化的価値は次第に認められてきた。初年度5万人の入館者も83年には10万人と倍増し、いまや年間35万人が訪れる小布施観光最大の目玉となっている。

キーワード「小布施栗」～「見る＋食す」6次産業の原点

北斎と並んで観光のシンボルとなったのが、小布施栗である。

品質の高さで知られる小布施栗は、栽培農家と栗菓子産業が一貫してその質にこだわり続けることで、小布施人に誇りを抱かせ、町の食文化の発展をリードする存在となった。北斎館を訪れる人々へのもてなしに、最もふさわしい素材でもあった。

北斎館の開館に前後して、町の栗菓子店はレストランを開店するなどして、来訪者が滞在できる場を生んだ。北斎館を訪れる人々を上質の栗菓子でもてなすという形で、北斎と町の主要産業とが連携を取りあい、小布施は「北斎と栗の町」として名を広めた。

小布施町政のテーマに「6次産業の育成」がある。1次×2次×3次＝6次という意味だが、栽培農家（農業）と栗菓子産業（食品加工業とサービス業）の相乗効果が小さな町で循環している点に、もっとも身近なモデルを見ることができる。

住民すべてを主役にのし上げた町並み修景事業

北斎と栗。芸術と食文化それぞれの分野で高い評価を受ける二つの柱は、小布施の知名度を高め、住民の誇りとなっていった。しかし振り返れば、この二つには、まちづくりという観点から見るとき、共通する「もの足りなさ」があった。

まちづくりには、その土地に暮らす住民ひとりひとりの盛り上がりが欠かせない。行政や住民のリーダーが意欲的に推進しようと思っても、全員をいっしょに盛り立てることが困難であり、どうしても「バスに乗り遅れる」集団ができる。批判ややっかみ、足の引っ張り合いが生まれる。住民の中に生じる「私は関係が無い」というちょっとした思いが、火種になっていく。

北斎と栗は、小布施を代表する文化と産業ではあるが、狭い見方をすれば「関係者」はごく限られている（北斎の絵をもっている旧家と北斎館に勤めている人、栗農家と栗菓子会社など。）「私は関係が無い」という思いが生じる素地は十分にあった。

町並み修景事業はこの二つと違う。町並みを構成する要素を考えればその理由は容易に知れる。建築物・道路・庭・生け垣・看板…窓辺に花を飾る・たばこの吸い殻や紙屑を拾う。これらは住民ならばすべてが主役になれる。「関係無い」とは言えない。道行く人や車も町並みの要素である。ジャージにサンダル履き、汚れた車で外出していた人が、洗いざらしのジーンズにスニーカー、きれいに水洗いした車でスーパーに買物に出かけるようになることさえも、修景・景観への参加になる。

私は町並み修景事業の効果の一つを、まちづくりに欠かせない住民の参加意識・当事者意識をかきたてた点にあると考える。北斎と栗によって醸成された住民としての誇りが、修景事業によって具体的なうごきへとつながっていった。ここに修景事業の展開の特質がある。

昨年、修景事業推進などの功績で日本建築学会文化賞を受賞した市村次夫氏（株式会社小布施堂社長）はインタビューで次のように語っている。

「（町並み修景事業による）情報の流入量は激増の一途。多くの建築家やデザイナーが訪れ、膨大な情報が蓄積されました。こうした貴重なソフトウェアを、今後の修景事業に生かしていきたいと思います。やはり、究極的な楽しみは、刺激的な人と会ってとことん話をすることですからねぇ」（「建築画報」272）。

修景事業の一帯に集積されてきた飲食の場やプチホテル「ゲストハウス小布施」（第三セクター㈱ア・ラ・小布施が経営）、観光案内所と喫茶室をかねた町立のガイドセンター…。これらは住民同士や住民と来訪者が交流する場として、貴重なコミュニケーションツールになっている。

誘客による直接的な経済効果を目的にした商店街の景観整備がなされても、そこに日々営まれている人々の暮らしに刺激が無く、面白い生活文化が育まれていなかったなら、目的を継続的にかなえるのは難しいように思う。

「住民の生活文化を質的に向上させること」を目指した修景運動が、これからも小布施町で定着して進められるかどうかは、私たち住民ひとりひとりの課題である。まちづくりも修景事業も、「どう生きたいのか」を自身に問い続けることを、私たちに求めているように思う。

（きのした　ゆたか／小布施町　編集者・文屋　代表）

一茶ゆかりの里

岡田新一

建築の設計には様々な要素がからんでくる。何を建てるか（目的）、誰が建設するか（建主）、どのような費用で建てるか（予算）、どのように運営されるか（運営方針、維持管理）、目的に対する機能性（平面計画）、訪れる人にどのような雰囲気を与えるか（空間、美的表現）、時代をどのように反映させるか（時代感覚）、時代のデザインをどう把えるか（コンセプト）、環境をどのように把えるか（自然と風土）、それらの背景（歴史）……等々挙げればきりがないが、それら多くの要素を統合するのが設計であると考えている。それらの要素を幅広く取り上げるほど良い。

一茶ゆかりの里の主要施設である一茶記念館も特殊な解であるが、上記の手順を踏んで設計したものである。なかでは屋根の形態に特徴があり、これに関して多少言及しておきたい。

先づ新建築1997年３月号に発表した文章を再録する。

長野駅で下車して高山村へ向かう。

善光寺平から松川扇状台地へ入るにしたがって上り坂になり、松川渓谷に至ると東西に山脈が迫ってくる。この山野に囲まれた地、高山村に一茶はしばらく滞在したことがある。旧家である久保田家が茅葺きの離れ家を一茶に提供し、そこに一茶は晩年のある時期に滞在したのであるが、この離れ家が高山村へ寄附されたことによって“一茶ゆかりの里”の記念事業が発足した。

建物の設計が記念館の展示内容と密接に関連しながら進められたことはいうまでもない。しかし、ここでは建築の設計について述べてみたい。高山村を過ぎて少し行くと山田温泉がある。ひなびた温泉宿であるが都会の騒音を離れた、落ち着いた雰囲気の町並みである。このような高山村（高山村、山田村が合併されて高山村となった）の家並みと自然のもつ佇まいは、一茶の頃より連綿と続き今日に脈絡しているものであろう。高山村から善光寺平を振り返ると、淡い霧に煙る風景が茫洋として拡がっている。

一茶は65歳の生涯を終えるまで、北は東北から、西は四国、九州までほとんど全国を縦断するような足跡を残している。俳諧指導の行脚の旅、そして、弟との遺産相続争い、また52歳を過ぎてから世継のないことを憂い妻帯して子づくりに励むというような、世俗的な粘性の濃い生活を送っている。しかも、妻が早逝し、子が育たぬことにもめげず妻帯を繰り返すような人生への執着を見せる生活から、一茶の人間性が伝わってくる。

建築のデザインは土地に固有の地霊、そして、そこに生活する人々の人霊（ここでは一茶その人となるが）を併せ、そして今、高山村が遭遇する時代をも表現するものでなければならないと考える。

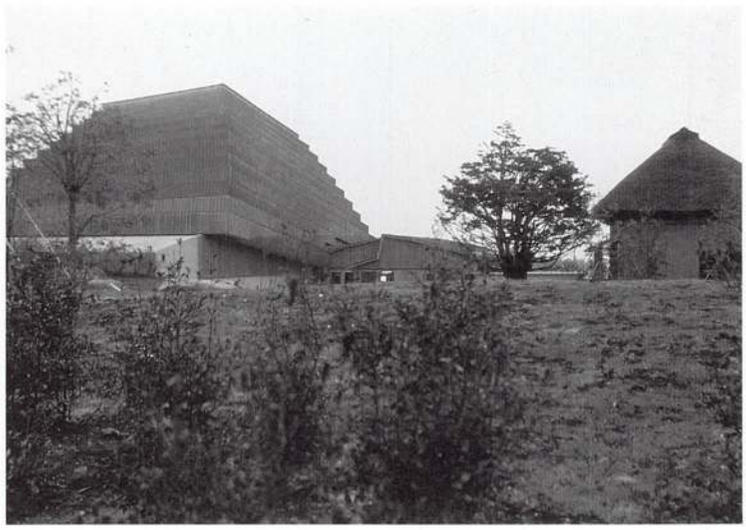
一茶記念館は旧家に残された茅葺きの離れ家と共に「一茶ゆかりの里」を構成する。新しい建物が単に伝統的な和風建物では地霊、人霊、現代社会などを併せ表現することにならない。そこで茅葺き屋根と対になる館の屋根に特徴を持たせることを考えた。そして、新しい館と向かい合う離れ家の前面のタタキの上では昔、一茶が子供達と遊んだであろう、そのような面影を残したいと考えた。

ゆがんだ屋根の形態を“傾（カブキ）”とみる人もいる。

年齢を加えて枯淡に達する老境に対比して、一茶の晩年は世俗な、存在に対する執着に充ちたものであった。そのような生涯が一茶の句の背後にあることは私の心を動かすことであった。

その感動が一茶記念館の異型の屋根を生んだ。さきに述べた数多くの要素が屋根に凝縮されている。

（おかだ　しんいち／㈱岡田新一設計事務所）









竹風堂松代店・池田満寿夫美術館

十日市昭二・藤田純也



美術館全景　右手前はかつての三の堀を復元したもの



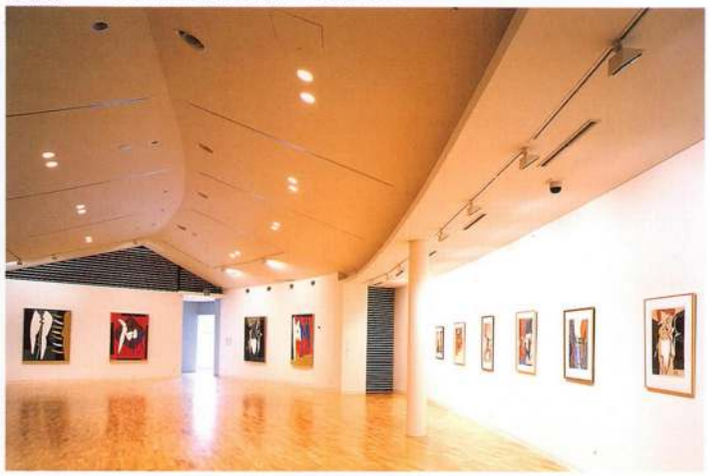
店舗棟　瓦葺きや土壁・白壁で構成している



展示棟　かつての外堀の形態を土壁仕上に写し取っている



中庭　外堀を暗示する池庭。池田氏が選んだ2つの景石が置かれている



2階展示室　外堀の形状が展示室のボリュームに写し取られた

長野市松代は真田十万石の城下町として江戸時代に栄えた街で、長野市の奥座敷とも呼ばれています。現在でも、真田邸や文武学校、旧横田家住宅をはじめ数多くの武家屋敷などが、三方を山に囲まれた自然豊かな環境のなかに往古の趣きを静かにとどめています。街の北側には千曲川や神田川が流れ、水をめぐる環境にも恵まれています。泉水と呼ばれる町中の水のネットワークもこの松代をよく特徴づけています。こうした街がもつ豊かな自然環境や史跡、生活に残る伝統行事など、その高いポテンシャルにもかかわらず、われわれが街を初めて訪れた時の印象では、うまく焦点の定まらない散逸的なものにも感じられました。街のシンボルとなりうるはずの松代城も明治維新の廃城令により取り壊されたままで、わずかに本丸の石塁だけが残るのみでした。

平成７年より、川中島の戦いに備えた武田信玄の出城としての起源をもつ松代城の大規模な復元整備工事が、長野市により着手されたことを契機として、現在は街としての活性化が目指されつつあります。同じような街づくりの先駆としては、松代の北方に位置する小布施町が年間100万人の観光客を集め、大きな成功をおさめていることはつとに有名です。この小布施町に本店を構える栗菓子老舗の竹風堂が、松代店に併せて長野市を郷里とする池田満寿夫氏の美術館を建設することとなり、平成６年の初夏から設計を開始しました。

敷地は松代城に隣接した街の中心にあり、建築物の在りようがこれからの街の様相に大きく影響をあたえうる場所です。さらに、松代城の大御門跡を中心とした遺構跡にもあたり、長野市埋蔵文化財センターによる全面的な発掘調査の結果、大御門や外堀、三の堀、石垣積みなどの位置がほぼ特定されました。土地のもつこうした江戸時代の「記憶」に合わせ、敷地内にはエンジュ、エノキ、モクレン、柿などの樹木が数多く残り、豊かな松代の緑のネットワークの一部を形成していました。

設計にあたって第一に意識したのは、豊かなコンテクストをもつこの風土のなかでは、建物が自立的な形象や独善的で強い象徴性を主張することはふさわしくないということです。今ある松代を特徴づけている地域的・歴史的様相の延長上に美術館と店舗があり、さらには、この場所のもつ魅力をさらに高められるような建物の在りようを目指すべきだということでした。具体的な設計作業は、周辺環境を形成する既存建物のボリュームや街全体の緑や水のネットワークを調べ、建物の位置づけを常にそのなかで意識しながら進めることとなりました。あわせて、近接する松代城や向背する山々との応答関係をもたせることも強く意識しました。

多くの既存樹木の残る敷地への具体的な建物の配置は、かつてあった松代城の遺構の「記憶」を地として意識することから設計を始め、遺構のなかでも特に重要な大御門の遺構跡や既存樹木を極力さけた位置にボリュームをまず配置しました。このなかで、かつてあった外堀の形状をそのまま展示室のボリュームに写しとりました。分節して配置したボリュームごとに、店舗、美術館エントランスホール・展示室・ラウンジ・収蔵庫といった機能をあたえ、周囲の風景に合わせ、それぞれに屋根をかけた全体構成としました。

展示棟の放物線を描くニッケル合金葺きの屋根や北信濃地方特有の蔵に見られる置屋根の形式を現代的に架構した収蔵庫の屋根など、さまざまな屋根の形が周囲の屋根並みや山並みなどとあいまって新しい風景を作り出すことをここでは意図しています。外壁や屋根の材料についても、地域をよく表徴しうる材料を用いることとし、土壁や白壁、瓦、銅板等により構成しています。

外構においては、かつてあった城跡の遺構を記号的に表現することを試みています。大御門跡と推定される場所に、古図に残る柱割そのものを白大理石柱列21本で表現したほか、礎石が残る西石垣土台石の視覚化、三の堀の復元、外堀のあった場所への池の配置なども行っています。こうした遺構への配意が、平成14年の完成を目指して復元されつつある松代城の城廓との間にピンポンのような呼応関係を成立させていくことを期待しています。

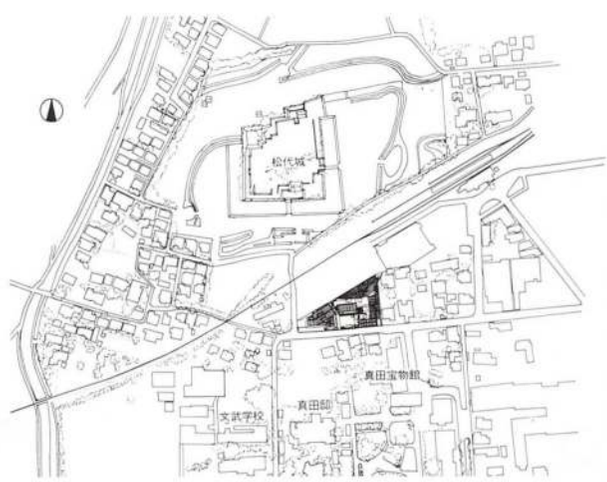
さらに、美術館が地域の特性によく対応していることは、そこに置かれる美術品が置かれた特定の場所との関係性によって、さらなる意味をもちうるのではないかと考えました。美術館の閉鎖的になりがちな展示空間の合間に、松代の屋根並みや背後の山々を垣間見ること、あるいは「天女乱舞」の大コラージュを松代の光とともに庭池に感じることの豊かさ、池田満寿夫氏の作品を、四季折々に豊かな様相をみせる松代という場所で見ることにより、さらなるその意味の深まりがあることにわれわれは大いに期待を寄せています。

（とうかいち　しょうじ・ふじた　じゅんや／竹中工務店設計部）

所 在 地　長野市松代町殿町城跡
設計施工　竹中工務店
敷地面積　3,220.66㎡
延床面積　2,073.25㎡
構造規模　RC、SRC、S、3階
竣　　工　1996年



１階平面図　１：1000

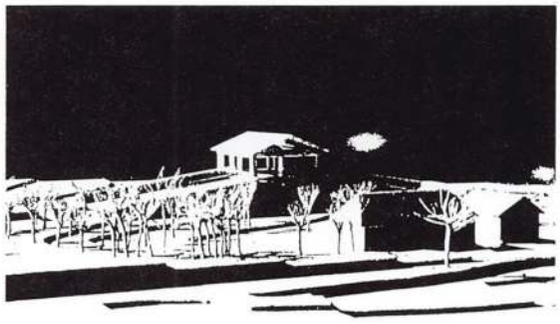


配置図　１：80000

小池千枝コレクション 世界の民俗人形博物館

大森みどり

世界の民俗人形博物館は、長野県須坂市にある須坂アートパーク内に建設された博物館である。敷地の周辺には、千曲川の支流である百々川沿いの緑地公園や自然林、りんご畑といった豊かな自然が広がっている。当博物館は、既存の版画美術館や移築された古民家群とともに、自然を生かした芸術ゾーンを形成するための中核施設として計画された。



当地出身で、多くの優れたデザイナーを発掘して育てられてきたことでも知られる、文化服装学院名誉学院長の小池千枝氏が収集された世界50数カ国の民俗人形およそ1,400体あまりを須坂市に寄贈されたことから、人形博物館としての計画がスタートした。

実施設計に先立ち、学生を対象としたアイデアコンペが行われ、海外を含めて300点以上の応募作品の中から入選案が選ばれた。入選案は、外観のイメージを“丘の上にある家”とし、大屋根の下に展示室を、その上に喫茶室を設けるというものであった。建設を前提としたコンペであったことから、計画はこの案をもとにすすめられた。

外観はコンペ入選案を生かした形態としたが、喫茶室の形状は、同じ敷地内に既に建設されていた版画美術館の大きなRの壁画との調和や大屋根とのバランスを考慮して半円形に変更した。また、須坂アートパークが西に北アルプスや北信五岳を望む好立地にあることから、2階の喫茶室は展示鑑賞後の休憩スペースとしてだけでなく、展望室としても機能するよう計画した。その為、展望喫茶室は西向きとならざるを得ず、西日対策及び大ガラス面の結露対策として、Low-E複層ガラスを採用した。

諸室としては、人形を展示するだけではなく、企画展示や衣装文化に関するゼミナール、教室、ミニファッションショー等を行えるように、アトリエと展示ホールを計画した。これは、土地土地の民俗衣装を身にまとった表情豊かな人形たちを通じて、各国の文化や歴史、風土への理解を深め、ファッションの原点である民俗衣装の素晴らしさを広く知ってもらいたいという小池氏の願いを受けてのことである。

動線計画の特色としては、スロープの採用があげられる。すべての人々が一緒に展示を楽しめる博物館にしたいという、小池氏の強い要望により、比較的小規模な施設ながらエレベーターを採用せずに、スロープで各展示室が自然に連続していく構成とした。当初、スロープの採用には懸念もあったが、オープン日当日、ベビーカーを押しながらエントランスを入ってこられた家族連れがそのまま自然に展示室のスロープを上って見学されているのを目の当たりにして、バリアフリーが当たり前のことだという認識を新たにした。

館内のインテリアは、人形のカラフルな衣装が映えるようにと、白を基調とした美術館のようなシンプルな空間を意図した。外観も白で統一したが、壁面の汚れ対策として吹きつけ材の選定に注意を払う他、サッシのシールも外部と内部を使い分けるという配慮をしている。また、テーマカラーに赤を採用し、エントランスの壁面や展望喫茶室のテーブルにアクセントとして用いた。館内のサインは、小池氏のご令嬢である陶芸家の小池頌子氏のご協力により、人形をモチーフにしたデザインとした。人形の館らしい雰囲気づくりに一役買ってくれているのではないかと考えている。

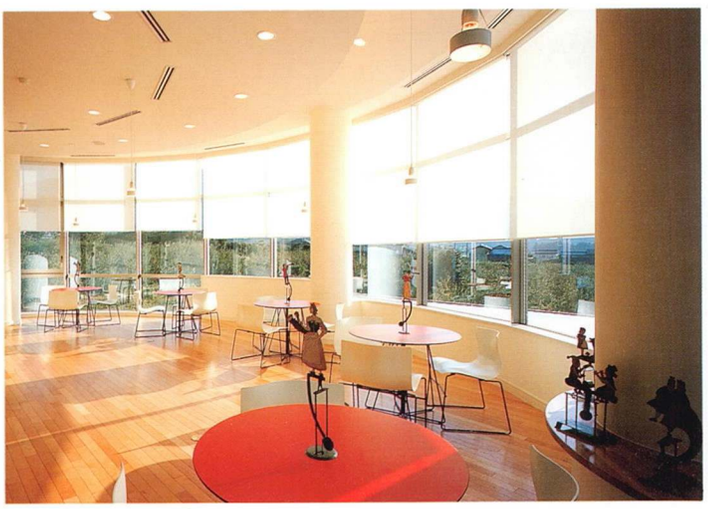
（おおもり　みどり／森ビル㈱）





所 在 地　長野県須坂市大字野辺1367番地１　須坂アートパーク内
設計監理　森ビル設計研究所
施　　工　新南商会、タマキ、藤澤電気、丹青社
敷地面積　19,738㎡（アートパーク全体）
延床面積　　950㎡
構造規模　ＲＣ、２階
竣　　工　1997年







写真提供：丹青社

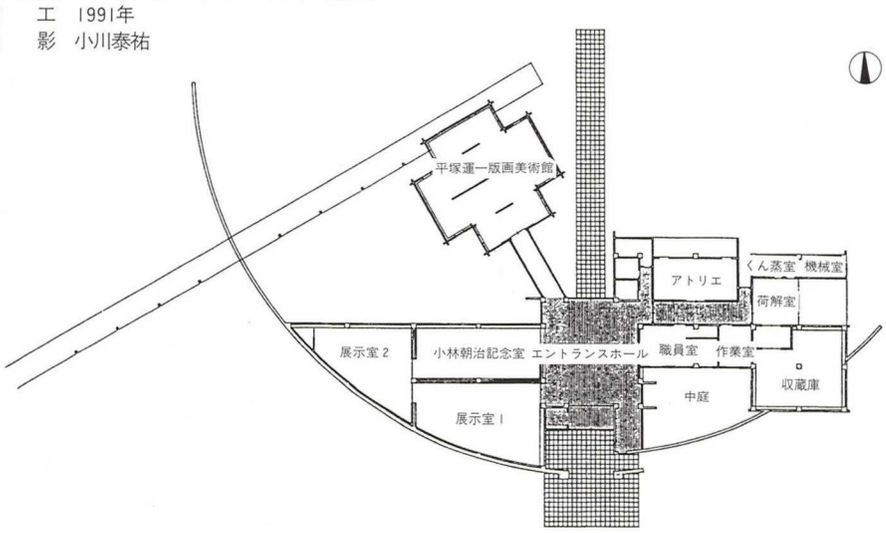
須坂版画美術館・平塚運一版画美術館

桐岡　栄

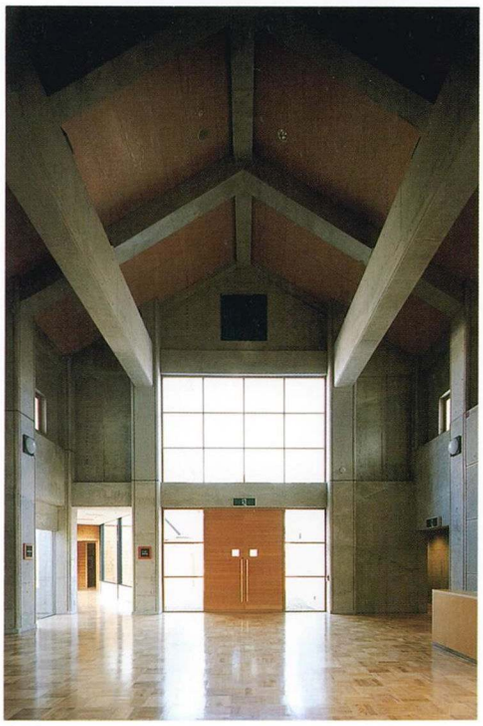


全景

所在地　長野県須坂市大字野辺1386番地8
設計監理　乃村工藝社
施　工　北条組
敷地面積　21,244.37㎡
延床面積　863.45㎡
構造規模　RC、一部W（ログハウス）平屋建
竣　工　1991年
撮　影　小川泰祐



平面図　1：800



内観

正直に申し上げて、須坂という街をそれまで知らなかった。長野駅から長野電鉄で20分程、その２つ先が小布施である。当時、小布施は宮本先生の功労により、既に大変有名な場所でまだそこに行ったことのなかった私は仕事のついでに見学ができるなと思った。

さて須坂である。須坂は、そこそこに田舎な街であった。長野オリンピックへ向けて高速道路の建設が進み、りんごやぶどうの生産がさかんで古くは生糸産業と街道の要所として栄えていたそうである。そうであるからして見所ある土蔵造りが散見される街であった。市はその散見される土蔵をたよりに「蔵のまち須坂」を標榜し街並を整備したり、そのための補助金を出したりしていた。

計画に当っての市からの要望は「蔵のまち須坂にふさわしい版画美術館の建設」というものだった。何故、版画美術館なのかといえば、地元に小林朝治という本業（医師）のかたわら版画を制作した作家がおり、また、当地で版画を教えたことのあるアメリカ在住の版画家、平塚運一（1997年11月18日没）の多くの作品を展示することが可能となっていたからだ。



二人の名前はそれまで知らなかったが、作品を眺めてみると、そのシンプルで力強く時に繊細な表現にはぐっとくるものがあった。そしてそのことは、計画上のよりどころに充分なり得た。版木から写しとられて作品が成立するという制作過程から、ＲＣ造による打放し仕上がすぐに想起され、これは思いの他すんなりと市にも受け入れられた。そしてデザインの方向性は、シンプルで力強く時に繊細にだ。

「蔵のまち須坂にふさわしい」という点については、多くの解釈があると思われた。美術館である以上、収蔵という機能が最優先されるのだからこれは蔵に他ならない。機能としての蔵が成立すれば、形態はどうであっても蔵を造ったことになるのではないか。即ち美術館の建設は、そのこと自体が須坂にふさわしいということができ、よってその形態はいわゆる蔵風から開放される、はずだったのだが、これは受け入れられなかった。美術館は蔵の意匠をまとうことになった。

しかし、思えば日本国中、蔵なのである。私が関わっただけでも、栃木、鹿沼、川越と九州の浮羽、全て蔵をテーマにおいている。とりあえず蔵風に造っておけば、多くの人の賛同を得られるであろうことは容易に想像がつくが、なんだか安易な気もする。建物が建築されれば、景観を形成するのだから万人に受け入れられることは重要だ。しかしそれだけのために行政担当者や設計者が計画を進めているとしたら建築の進歩も刺激もないだろう。技術伝承や町並保存の観点からいえば刺激などなくても良いという理論もあろうがモノづくりとは常に新しい事象への挑戦だ。蔵の意匠をまとおうがそうでなかろうが問題はその挑戦する姿勢なのであっていつもそのことは忘れないようにしているつもりだ。私の中にも和なるものへの思いは確かに存在し、蔵と言われればそれなりの形を提案するにやぶさかではなかったが、伝統的な須坂の蔵を忠実に再現する気もなかったし、そんな自信もなかった。

敷地は市内を流れる百々川（どどがわ）の河川敷であり山あいの街だからやたらと細長い場所に櫟や落葉松が生い茂っていた。増水に備えて築堤し、その内側が与えられた土地であった。建設に当り、木々を伐採しなければならず、自然破壊に対する自責の念を少し感じたけれど、何しろ美術館の設計である。一生のうちにそうあることではないから仕方がない。できるだけ多くの木を残そうと思いながらも、実際にはバタバタと切り倒して行った。それでも建物は、林の中に沈んで欲しいと願ったから、最高の高さを落葉松の高さに合わせてみた。

仕上げ、デザインの方向性、建物高さといささか順不同に決まって行ったが、残る問題は２つ。細長い敷地ゆえの長いアプローチをどう処理するかと、蔵の意匠をどうまとうかであった。思案することしばし、１つの形態がうかんできた。

それは建物を塀で隠すということだった。完全に隠してしまったのでは何だかわからなくなるから、蔵を感じさせる部分が塀からのぞけばよい。蔵と言えば切妻だ。塀越しに屋根を見せれば、須坂の蔵を忠実に再現する自信のない私にでも、皆さんに蔵を感じてもらえるだろう。長いアプローチも、林越しに見える塀によって美術館の存在を主張し、「何かある。行ってみよう。」という気持を起こさせることで処理できるに違いない。そして、その塀は閉ざされたものとして存在させたのでは意味がない。敷地の奥へと人々を引き寄せて、そのむこうにある何かを予感させるための装置でなければならないと考えた。

それで、塀は大きな弧を描いて配置し、開口を用意した。それから、そこを貫通するように列柱を立てた。列柱は遠くの山並へ向って並べられ、視線を誘導する。同時に、敷地内における環境演出として機能するようにと考えた。

塀に開けられた開口部は、むこう側の風景を切り取って見せる。切り取られた風景は、アプローチを進むにつれて変化して行くはずだし、季節や天候によっても、様々な表情を見せるだろう。それが、塀に掛けられた一枚の絵画となって欲しかったのだ。

そうなることによって、建物を隠す目的で考えられた塀は、今や、蔵の意匠からも遊離し、林に置かれた一つのギャラリーとして存在することになる。

版画や蔵という言葉から発想された形態が最終的に全く違った意味も持つことによって単なる、蔵の意匠を越える。越えないまでも多様性を獲得するということに、興味があったし、挑戦したい事柄であった。伝統的な須坂の蔵を忠実に再現するつもりはないと言ったのも、そういう意味においてである。

こうして、須坂版画美術館・平塚運一版画美術館は計画された。シンプルで力強く時に繊細なというデザインの方向性は生かされ、特徴的な塀を持つ美術館となったと思う。

（きりおか　さかえ／㈱乃村工藝社）

長野市オリンピック記念アリーナ ～エムウェーブ～

小野 威/久米・鹿島・奥村・日産・飯島・高木設計共同企業体



外観



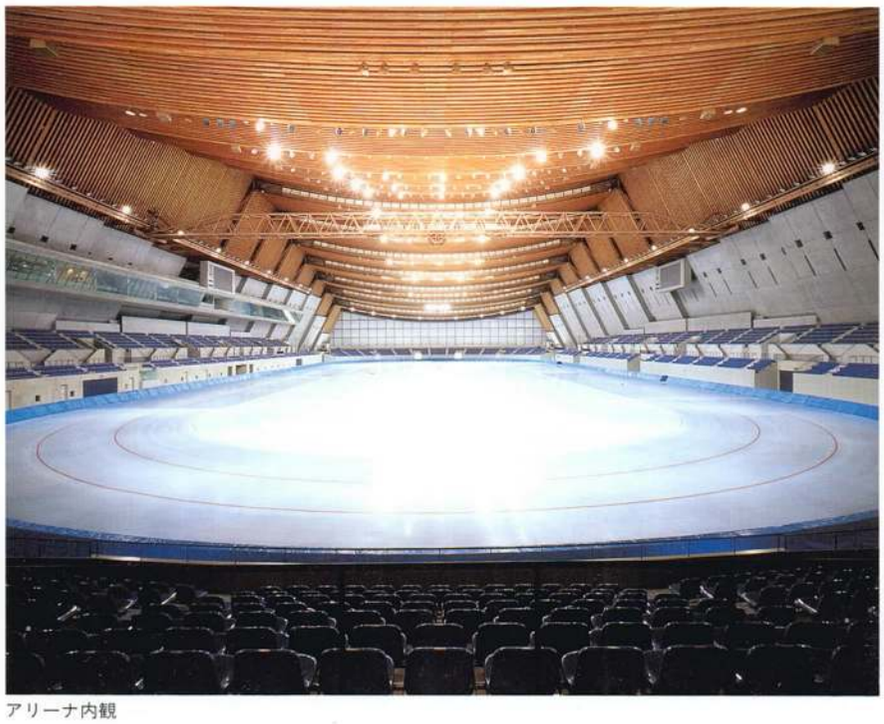
天井詳細



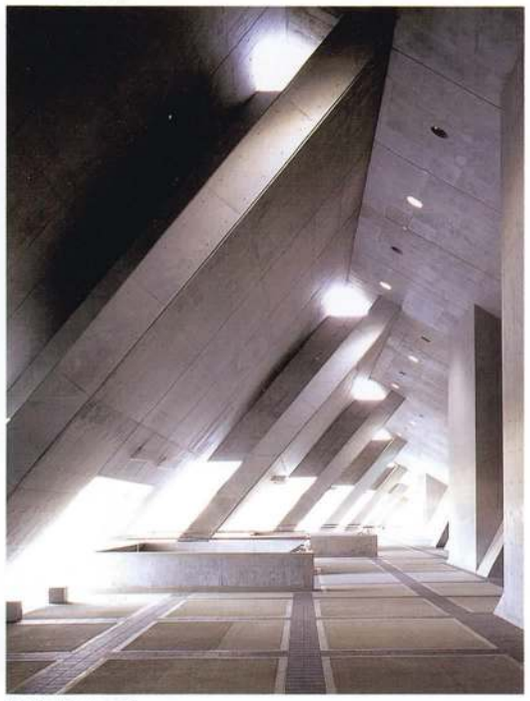
屋根重なり



夜景



アリーナ内観



外部コンコース

スピードスケートのメッカとして機能するだけではなく、通年の市民開放利用も含めた、小規模から大規模にわたる各種スポーツ、文化、産業イベントにも対応しうるフレキシビリティを有することがこの施設のテーマであった。

現在400mトラックの屋内スピードスケート施設は世界にも少なく、日本では初めてのアリーナである。

設計に当たり、今までのドーム建築の既製概念を打破し、オリンピックという世界的イベントにおいて、長野を世界に印象づけるユニークな建築とすること、長野の伝統や文化と調和すること、人と地球に優しい建築であることを念頭に置いた。

敷地周辺に見渡せる山々の連なりをイメージさせる外観は、信州産からまつ材の集成材による半剛性吊屋根により形作られている。30cm角の、集成材と鋼板からなるリブを60cmピッチに配して80mのスパンを架け渡すハイブリッド構造は大スパンを覆う架構体としてはシンプルで繊細である。

吊屋根とそれを支える斜壁により構成されるM型の断面形状、ヒナ段状に中央部から長辺方向端部に向かって背の低くなる内部空間は、木の連子格子と相俟って既存のドームイメージを払拭し、構造的合理性と日本文化、及び伝統美をも表現している。また、この形状は空間量を減らして空調負荷を低減すると共に、音を乱反射させ音響特性を向上させることにも寄与している。

雁行する板状の斜壁によって構成される半外部のコンコースは、その壁のずれと天上高の変化によって非日常的な空間体験の場を創造している。ここは光・風を効果的に取り入れた、アリーナと外部広場をつなぐ緩衝帯である。

長軸方向に移動する一対の円弧状可動スタンドはアリーナを小さく囲い込む、いわば空間分節壁の役割を持つ。照明・音響・設営用の走行バトンが分割された空間に応じて移動し、セパレートカーテンとあわせて、イベントや収容人員にあわせた空間を設定する。これはともすれば小回りの利かなくなる大空間の利用上の自由度を向上させると共に、イベント時の臨場感の向上、最大限の空間利用をも可能にするものである。

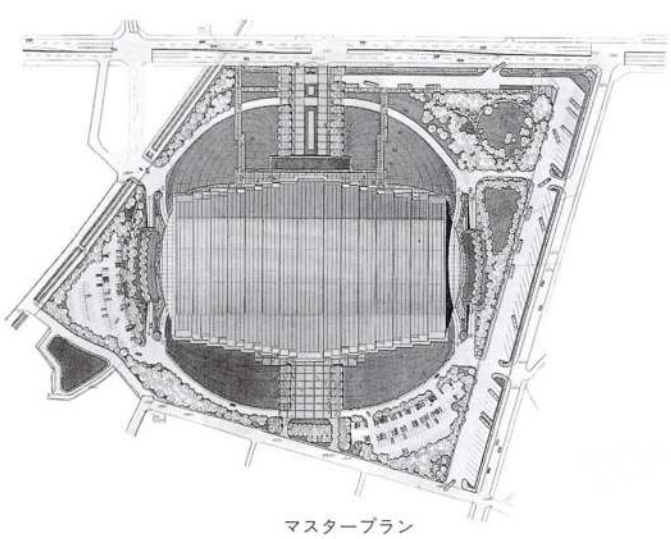
東西の両妻部分には電動開閉式のポリカーボネイト製大型ジャロジーを、屋根の段差部にはハイサイドサッシュを設置し自然採光・自然換気を図っている。また、屋根段差部は照明・音響・吊機構を集中させたキャットウォークともなっている。

アリーナは敷地のほぼ中央に、長軸を北側前面道路と平行に配置され、その周りを取り囲むように周回道路を配した。駐車場を建物地下に集約することにより得られた広大な森や緑地を巡り、格好の散歩道、ジョギングロードとなっている。周回道路内部の緑地は建物に向かって緩やかな勾配のマウンドを形成しており、丘の上に立つアリーナをイメージさせると共に、建築形態との連続性と融合が図られた。建物北側中央に設けられたメインエントランスへのアプローチは、並木とカスケードを持つ緩やかな上り坂となり、会場への期待感を高揚させる演出とした。

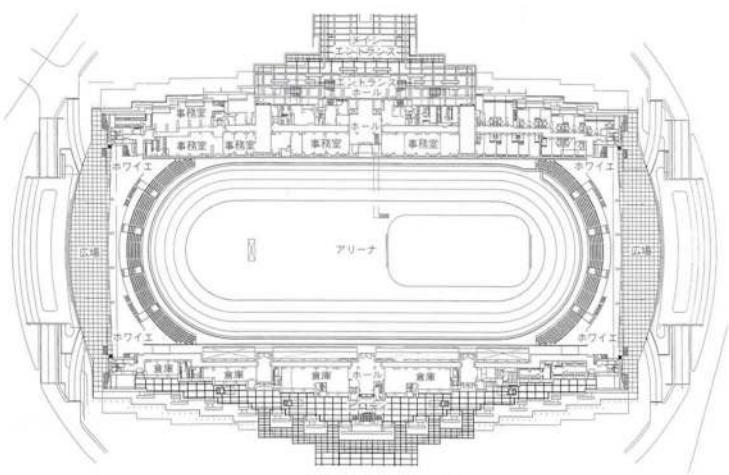
見る場所によって様々に変化する外観は、利用目的により多様に変化する内部空間を象徴しているともいえるだろう。

（おの　たけし／㈱久米設計）

所在地　長野県長野市北長池195番地
設　計　久米・鹿島・奥村・日産・飯島・高木設計共同企業体
監　理　久米設計
施　工　鹿島・奥村・日産・飯島・高木ＪＶ他
敷地面積　約111,500㎡
延床面積　約 76,100㎡
構造規模　上部：大断面構造用集成材による半剛性吊構造
　　下部：RC、S　地上3階、地下1階
竣　工　1996年

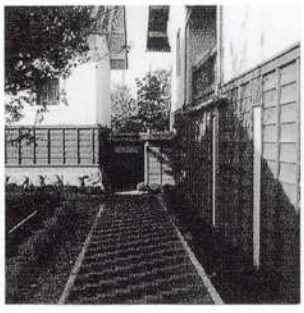


マスタープラン

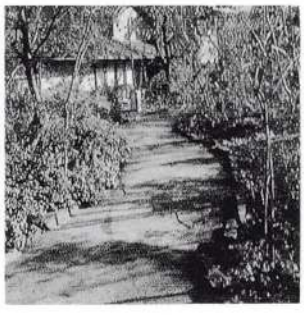


1階平面図　1：3200





小布施・須坂 松代の 街並みを探る

列を組んだ観光バスが駐車場に入って来る度に、美術館前に人の行列が出来る。数年前、春の連休に訪れた時ほどではないものの、12月に入った観光シーズンでもないこの時期に何故と少し戸惑う。これが小布施の第一印象。▶「あるく・さがす・みつける」と題し、取材に出かけたものの、歩くことはできても、何を探し、何を見つけたらよいのか。まずは写真をと思って撮った写真をメインに、思いつくまま列記することとした。

あるく・さがす・みつける












小布施の街は、我々、建築に携わるものの眼には、北斎館と芝公園、栗の小径、幟の広場などの限られた範囲（小布施堂界隈）が注目する街と言うことになるだろうが、小布施の街全体を眺めると、前述の小布施堂界隈以外にも日本のあかり博物館を中心とした地域、それに国道沿いや周辺の名所旧跡があり、大きく３つの地域に分けることが出来る。▶誰かに確認したわけではないが、小布施の街づくりには、二つの地元企業と、地元商店街の手によるものの二通りあるように思われる。二つの地元企業の街並み整備との関わりをよく知らないが、古いものをそのまま活用しながら再生しようとする姿勢と、新しい美意識の元に古き良きものを再構築しようとする姿勢に分かれ、その情熱には優劣は付けがたい。▶我々の関心は後者に偏りがちで、さほど興味を持たないと見落としがちになる日本あかり博物館界隈も味わい深い。▶観光客の動きをみると、お店が多い地域では、お店の壁に触ったり、建物全体や側面までゆっくり眺める光景が見られる。一方、北斎館側では、芝公園を背景に記念写真を撮り、遠目に傘風舎や塩蔵を眺めているだけで、見学者によそよそしさが感じられる。▶中町南の交差点北側におぶせガイドセンター「ア・ラ・小布施」があり、マップや小布施の資料を見ることができる（喫茶店でもあり、コーヒーを飲みながら見学コースのチェックに最適か）。

昔の面影を残す蔵の街「須坂」は、駅から東へ徒歩で1、2分の古い街区に広がる。豪商の館「田中本家」がある。▶聞くところによると、古くからイギリスのオープンガーデン風に年一回、庭や座敷とか蔵の公開が町全体で行われており、その目玉だった田中本家の公開が、地元の人々の要請で常設化されたのが豪商の館「田中本家」で、典型的な収蔵庫美術館と言える。▶蔵づくりと言われる古い店舗や屋敷が点在し、笠鉾会館ドリームホールなど蔵風にデザインされた新しい建物もあるが、多くは古くなった店舗や住宅を瓦と漆喰により蔵屋敷風に修復したものも多い。中にはフラットのRC造3階建てのビルを改造し、ファサードだけを蔵ビル(こんな呼び方があるか知らない)にしたものもある。▶蔵の街とは少し違うが、須坂で特記すべきものとして、▶世界の民族人形博物館と須坂版画美術館がある。世界の民族人形博物館は、学生コンペの最優秀作を具体化させたものと聞く。吹き抜けの大空間をスロープによりいくつかの小空間に区分けする手法は、人形と言う小さな展示品に配慮した手法と言える。また、版画美術館のコンクリート打ち放しの大きな円形擁壁と吹き抜けの大きな玄関の構成は、静粛な美術鑑賞の空間を創出している。ただ博物館や美術館の生命線とも言える再館者にどう魅力を感じさせるかという点では企画も含め、やや配慮に欠けた感じがし残念。▶アートパークとしての構想は分からなくもないが、須坂の市民とそこを訪れる人々の共有施設として、また蔵の街の核として(客寄せ……)計画出来なかったのかと思う。なぜ、この場所にと感じるのは我々だけだろうか。











あるく・さがす・みつける

真田城の城下まちである「松代」は、池田満寿夫美術館の誕生により、新しい魅力的な歴史的街並みへの再生の鼓動が感じられる。近代的にアレンジされた美術館の薄い土色の壁をみたあと、宝物館や文武学校の土壁を見ると、とてもモダンにみえる。▶城下の武家屋敷跡では、瓦屋根の付いた門と漆喰の塀がやたらと目に付く。多くが市の助成金を受けての整備と聞く。本来は鳥居門と板塀であったらしい。板塀では魅力もなく誰も積極的にはならないが、見栄えの良い瓦を乗せた門とか塀になると、競って整備に協力してもらえるとのこと。▶旧横田家住宅は商店街の外れ、住宅地の中にあるが、茅葺き屋根に庭越えの畑を含めての保存に、当時の武家の牧歌的な日常生活が垣間見られ、心を和ませてくれる。▶善光寺参道横に外苑「西之門」がある。酒蔵の公開広場になっている。広場の奥に明治の様相を感じさせるレストランがある。蔵の白壁とブラウンの窓枠に大きなガラス窓が妙にマッチする。広場のオープンカフェーの帆布のパラソルの下でお茶を飲みながら、広場を囲む大小の赏の蔵群を眺め、また古い酒蔵が若者ごのみの広場に生まれ変わっている様子のコントラストが良い。▶古い酒蔵に連続して、近代的な酒造工場が新築されていた。地元の設計事務所の手によるものとのことだが、漆喰風の白壁に瓦を乗せ、窓も蔵風にしつらえてあり、周辺の古くからの街並みへの思いが感じられる。また、広場を囲む蔵の中に、蔵の外壁を残しガラスと打ち放しコンクリートで構成された店舗とオフィスが目に止まる

●思いつくままに 1999.1.10 林金之・松本壮一郎・中村嘉男











オリンピック施設の後利用及び管理運営形態について

島田政行

長野市では、長野オリンピック競技施設の大会後の有効活用について、「長野市冬季オリンピック施設の有効利用に関する市民会議」及び「長野市オリンピック施設運営検討委員会」を設置し、報告及び提言を受ける中で、次のとおりそれぞれの施設の後利用及び管理運営形態を決定し、既に一部は委託を行い残りの施設については、委託等のための準備を進めています。

・

・平成４年５月　「長野市冬季オリンピック施設の有効利用に関する市民会議」設置（30名）
……平成４年５月報告書提出

・平成６年９月　「長野市オリンピック施設運営検討委員会」設置（24名）……平成７年７月提言書提出

・平成８年９月　オリンピック競技施設（開閉会式場を含む）の後利用と管理運営形態について、長野市オリンピック施設運営検討委員会からの提言を尊重の上、それぞれの施設を３つのタイプに分類し後利用と管理運営形態を決定

市民サービス型

市民の一般利用中心の施設を「市民サービス型」と位置付け、多くの市民の方に利用いただくことによりスポーツの振興を図るとともに、競技力の向上と体力の増進につなげたいと考えています。

(1) ホワイトリング（フギュアスケート、ショートトラック会場）

今年度は、１月に第54回国民体育大会、第48回高校総体のフギュアスケート競技が開催されたことからアイスリンクとして使用し、平成11年４月以降は既存の体育館に代わる総合体育館として、各種大会を始め観賞型のスポーツイベント及び市民スポーツの振興に利用してまいります。

(2) アクアウイング（アイスホッケーＢ会場）

既存の屋内プールが老朽化したための改築に伴い一時的にアイスホッケーＢ会場として使用したもので、現在、屋内プールに改修中でありまして平成11年５月には通年型の屋内プール（50m、25m、飛び込みの公認プール）としてオープンし、各種大会、選手育成及び市民スポーツの振興に利用してまいります。

(3) 開閉会式会場

長野市の総合計画で位置付けされた、南長野運動公園の中に野球を中心とした多目的競技場として建設した施設で、現在、外野スタンド等の改修工事を進めており、平成12年春にオープンし、観賞型のスポーツイベントを始め市民スポーツの振興に利用してまいります。

なお、公園内にはオリンピック時に選手のトレーニング会場となった体育館及び温水プールあり、大会後は一般に開放しております。

・

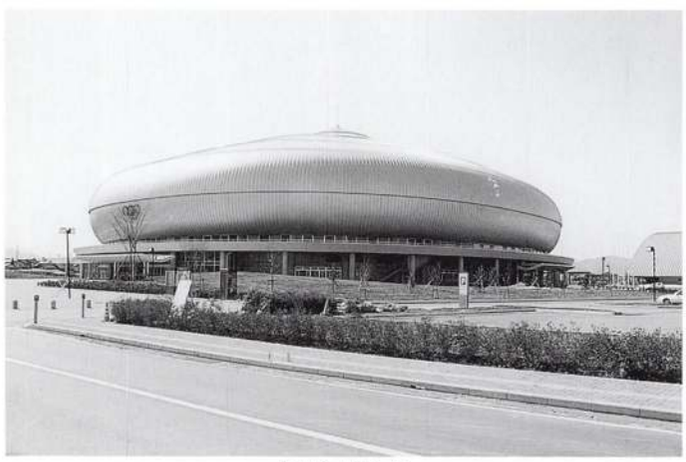
これらの３施設の管理運営は、オリンピック開催都市として、また、スポーツ宣言都市としてスポーツの積極的な振興を図る立場から、平成11年４月以降年次計画に沿って順次財長野市体育協会（42競技団体加入）へ委託をしてまいります。

集客型

施設維持のための収益を図っていく施設を「集客型」と位置付け、収益を図るためイベント、各種集会や大会、展示会、見本市、スポーツ大会などのコンベンション誘致を積極的に行い、大勢の皆さんに長野にきていただくことにより、地域経済と産業の発展につなげたいと考えております。

(1) ビッグハット（アイスホッケーＡ会場）

隣接する若里文化ホール（オリンピック時メインプレスセンター



ホワイトリング



ビッグハット

として使用）と連携し、コンベンション施設としてスポーツやイベント、展示会、各種大会・集会など多目的に利用してまいります。管理運営はコンベンション誘致、支援及び企画を行う推進母体として設立された㈶長野市商工振興公社へ昨年４月から委託をしております。

⑵　エムウェーブ（スピードスケート会場）

冬期は世界有数の屋内アイスリンクとして国際大会をはじめ国内大会等に利用するほか選手育成やスケート人口の底辺拡大につなげるとともに、冬期以外は大型の多目的ホールとしてイベント、展示会、見本市、スポーツ大会等に利用してまいります。

また、施設内にはオリンピック一周年の２月７日に、長野オリンピックの開催を記念し、大会の感動と遺産を永く後世にとどめるための「長野オリンピック記念館」がオープンいたしました。この記念館では大会に関係する数々の物品の展示や映像をごらんいただくことにより、来館者がオリンピックを思いだし、新たな発見ができることを期待をしております。

なお、管理運営は民間の経営感覚を生かした効率的な運営を目指し、資本金３億円（長野市が50%、長野県10%、民間40%）の出資による第三セクターの「株式会社エムウェーブ」を昨年６月に設立、７月から管理運営を委託し、第三セクターの特性を生かした会社運営に向けスタートいたしました。

中間型（スパイラル…ボブスレー・リュージュ会場）

市民サービス型、集客型のどちらにも属さない施設を「中間型」と位置付け、冬期はアジアで唯一のボブスレー・リュージュ会場として競技大会や選手育成に、また、夏期についても選手育成を中心に活用してまいります。

しかし、現在、国内のボブスレー、リュージュ、スケルトンの３種目の競技登録人口は約350名と少なく、今後は競技連盟の協力を得て競技人口の拡大に努めるとともに、国際大会等の誘致も積極的に進めてまいりたい。

なお、この施設の一般レジャー用への活用について、レジャー用ボブスレーなど種々検討してきましたが、安全性、採算性の両面から具体的な利用方法が決定してない状況でありますので、管理運営は当面市が直営で行い、今後、製氷期間、財源の確保、有効活用等について更に検討の上、管理運営の委託についても検討してまいります。

管理運営費の財源について

これらの５競技施設と１運営施設が全て完成した後の管理運営費は、12億６千万円と試算されており市財政への負担が心配されるところですが、管理運営費につきましては、平成元年の政府閣議了解において、これら施設の将来にわたる管理・運営費については地元の責任と負担を主体として行われることが決定されており、原則的には長野市の負担において対応すべきものであります。

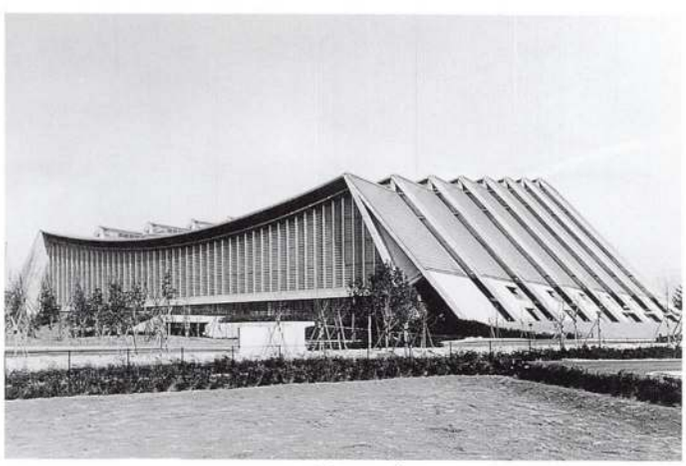
しかしながら、これら競技施設の中には、アジアで唯一のボブスレー・リュージュ会場（スパイラル）と、世界有数規模の屋内スピードスケート会場（エムウェーブ）があり、両施設がオリンピック後も万全な体制で管理運営され各種大会や選手育成に利用されることが、スポーツ振興の上から必要であるとの考えから、国におきまして平成９年度から調査研究が進められておりますナショナルトレーニングセンター構想の中で、当然にこれらの施設につきましては、トップレベルの選手が競技力向上に使用できる施設でありますので、その構想の中で指定をいただき、選手育成のための施設として御支援をいただくよう文部省へお願いをしておるところです。

次に、昨年５月の通常国会で成立いたしました「スポーツ振興投票法」は、新たな財源の確保によりスポーツ振興政策を進めるものであり、収益金の３分の２が地方公共団体やスポーツ団体に配分されることになっておりますので、長野市では大型オリンピック施設への御支援をお願いしてまいりたいと考えております。

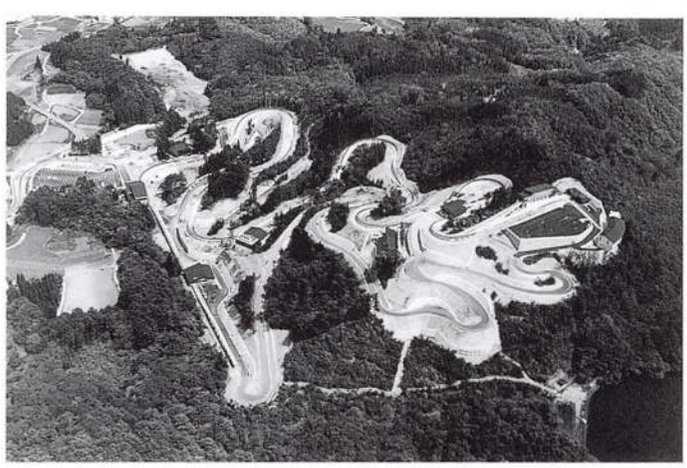
また、長野オリンピック記念基金を活用したオリンピック施設を利用した事業への助成についても、同基金の設立趣旨に沿った事業に、より多くの支援が得られるようお願いしているところです。

いずれにいたしましても、大型オリンピック施設については、市民の財産として有効に機能し、それぞれの利用目的に沿って有益で無駄なく活用されることが、市の財政負担をする中においても市民の理解が得られるものと考えております。

（しまだ　まさゆき／長野市総務部オリンピック施設活用推進室）



エムウェーブ

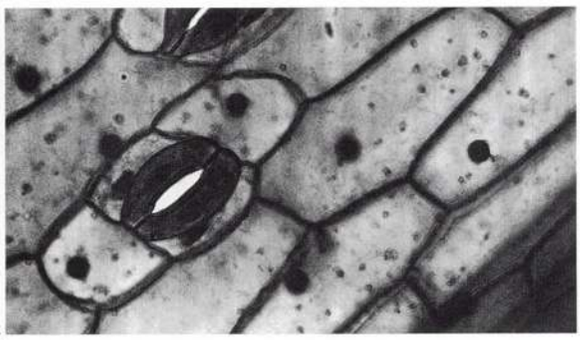


スパイラル

表層

亜鉛メッキより

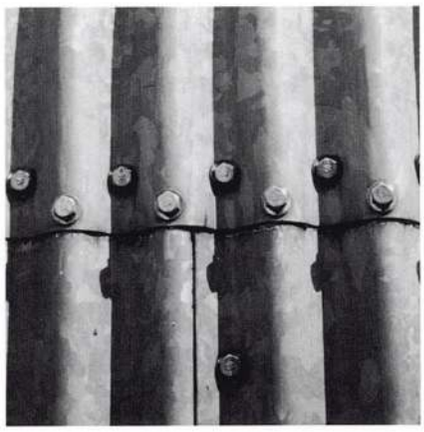
遠藤秀平
Endo Shuhei
遠藤秀平建築研究所



素材をとらえ直し建築を新たな側面から考える試みとして表層に注目してみたい。自然界の表層においては様々な場面で多様な現れ方をするが、均質化する人工的素材の中で変化を有する表層を取り上げてみた。溶融亜鉛メッキは我々を取り巻く広い範囲で利用され、外部環境において目にすることが多いが、人為における多様な表層の可能性を示すものとして新たな明示をここから試みてみたい。
（「素材と技術が生み出すdesign」幹事会）

可能性としての表層

溶融亜鉛メッキはガードレールに代表される土木資材によく使用される仕上げであるが、身直にはブリキのバケツなどによく見られたものである。近年は塗装の仕上げや樹脂の素材などにとって替わられあまり見ることがなくなった。色はまさに鉛色でさえないイメージであるが、良く見ると様々な結晶が集合しており、実に多様な表情を持っている。また、当初はシルバーの美しい仕上がりであり、外気に暴露されると徐々に輝きを失うが経年変化は味わいのあるいぶし銀へと変わってゆく。溶融亜鉛メッキは単に金属の表面にわずか70ミクロンばかり付着するだけの均質的な工業生産品であるが、人工の表層が有する表情の変化は魅力ある可能性をものがたっている。





表層の原点

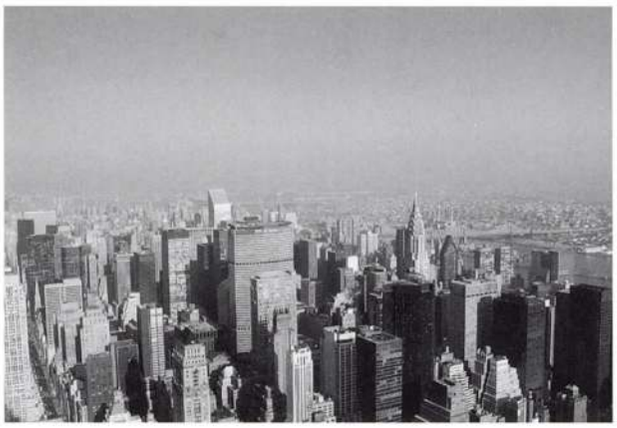
地球の姿を写真や映像であるにしても、目にするようになったのは僅か半世紀に満たないものであり、我々の時代になってから実に薄っぺらな地表に張り付いているものだと思わされたことになる。青い海と白い雲のコントラストは実に美しいものであるが、大気の厚みはみかんとその皮の関係以下だと言うことには驚かされる。しかも、この薄い大気の層が時事刻々と変化し、地球上の生命に多様な刺激を与えている。そして、地球上の生命体は人間の皮膚や植物の樹皮に見るように、表層により覆われているものがほとんどであると言える程、薄さの関係が生み出す臨界作用により成立している。

表層の多様性

自然界の多様性はその環境の固有性により生み出されていることが多いが、同じ環境下にありながらも生命の多様性は違った現われ方を示す場合がある。同じ森のブナの樹皮に寄生する植物の地衣類であるが、同じ様相は2つと存在しない。生命は様々な場面で表層的に現れてくるものである。この多様な表層性の多くは複数の地衣類が混生することにより生み出されるものであり、ブナの樹皮の共有が前提となっている。



表層都市



人工的営為の端的な結果を示す都市の姿も実に表層的である。我々が日常活動する都市であるが、平面的な広がりに対し高さ方向への伸びが圧倒的に弱い。また、そこで行われる多くの活動が情報交換としての経済活動であり、記号化された価値観の追及はさらに表層性をさらに加速するものである。
どこにでも見い出すことのできる表層性であるが、都市に登場する人物が様々に入れ替わろうがその全体像は全く変わるものではない。一方的に膨張しつづけてきた都市像であるが、そろそろ成長速度は弱まり表層にあらわれない、つまり見えない皮膜下でコミニュケーション手段の変化に伴う新たな表層化が進行しつつある。

表層として表れる概念

碁とは実に単純で多様なゲームである。終局に近付くころ、多くの思考の痕跡を留め盤の表面は白と黒の碁石により埋められている。生命とは直接結びつくことのない脳の快楽が示す表層化の一旦である。概念は本来目に見えるものではないが、モニターに表れる数式や文字のように表層的な視覚化により確認され有効性を認められる。
碁が示す表層性はコミュニケーションの可能性を示す相互行為であり、言語は記号化し定着し均質化するが、この表層化は相互介入による多様な展開を示す。

表層の快楽

「メッキが剥がれる」とはなんとも悲しい表現である。本来堅固にあるものがなんらかの偽りによりその虚偽があらわになる悲しい瞬間を言い当てて妙である。しかし、この薄っぺらさに可能性を見い出してみたい。それは、我々を取り巻く現在が表層的であり、目に見えない実在感のない情報が優位を席巻していることそのものだからである。価値には様々な側面があり、まさにメッキではない金が兌換性の高さゆえにその地位をゆるぎないものとしてきたが、情報化する現代においてなにより速度が価値を生み出すものとなっている。
物質(金)が重量をもって不変的に存在することと正反対に、より早く移り変わる情報網こそが優位である。価値生産を追求し加速する情報は社会そのものを均質化へ向かわせている。
この試みは溶融亜鉛メッキから始めてみたが、人工の技術であり精製により生み出される金属を原料にしているが、この多様性は温度や湿度など外部環境との相互作用により発生するものである。外部の状況を取り込み様々な表情を見せる、つまり外部に介入される弱さを持ちながら耐候性を持つ溶融亜鉛メッキの有り様は実に魅力的である。コンピュータによる様々なコミュニケーションも高度なインタラクティブな状況を可能にしつつある。しかし、建築は悲しいかな排他的に相変わらず存在しつづけているようだ。重力の影響を逃れられないのは仕方ないにしても、コンクリートや鉄骨・集成材などを利用する技術に限界があるのか。まして、地震の多い日本の杭や地中梁の保証には必要以上に自己を強化し外部の影響力を介入させない排除への偏向を感じさせられる。この重力と保証の呪縛を逃れるところに表層の快楽を求めてみたい。そして、常夏の国には建築は必要無いかと問われれば否と答えたい。建築行為が生み出すものは仮想現実としてデータの中にあるのではなく、我々が共に経験する空間にある。
表層の快楽は近未来において、大きな強度を有する材料と高度な解析を可能にするコンピュータ環境が整ったときに実現するものであろうが、既に多くの萌芽が身近に散らばっている。

建築物の耐震改修計画前・後の 耐震性能と増設壁等の量

篠﨑正幸
(財)兵庫県住宅建築総合センター理事長

関東大震災（1923年）から阪神・淡路大震災（1995年）までの72年間に、日本列島においてマグニチュードが6.0以上で、家屋の全・半壊数が1,000以上の大被害をもたらした地震は20回、この間約3年半に1回の割合で発生している。

われわれは、このような発生状況から、いつ、どこで起こるかもしれない震災から人々の生命及び財産を守るため、昭和56年（1981年）以前に設計、建設された建築物を耐震診断して、改修が必要な場合は耐震改修を行うよう努めなければならない。

このため、兵庫県住宅建築総合センターは、特定建築物（学校等多数の者が利用する建築物で、階数が3以上で、かつ床面積の合計が1,000m²以上）の所有者が、当該建築物の耐震改修計画を所管行政庁へ認定申請する場合、その内容が法（平成7年施行）に基づき建設大臣が定める基準に適合する水準にあるか否かについて評価を行う専門機関を、平成9年5月に設置した。

この専門機関により評価された150棟の建築物（以下「評価建築物」という）の耐震改修計画前・後の耐震性能を調査・分析して、これらの結果をまだ耐震改修を行っていない特定建築物等の所有者等に情報を提供して、建築物の耐震改修の促進を図る。

評価建築物の耐震性能判定方法

評価建築物の耐震改修計画前・後の耐震性能の判定は、「兵庫県耐震判定基準」による。

その判定は、当該建築物の各階及び直交する2方向（X—桁行方向、Y—梁間方向）それぞれの構造耐震指標比（R）及び保有水平耐力に係る指標（q）をもちいて、**表1**のようにRとqの値によって5段階に区分されている。

表1　Rとqの値による耐震性能区分

区分		建物の被害等の程度
A	$R \geqq 1.5$かつ $q \geqq 1.5$	大地震動後も構造体の補修をしなくて建物の使用が可能であり、人命の安全確保と建物の機能確保が図られている。
B	A欄を除き $R \geqq 1.25$かつ $q \geqq 1.25$	大地震動後も構造体の大きな補修をしなくて建物の使用が可能であり、人命の安全確保とおおむね建物の機能確保が図られている。
C	A、B欄を除き $R \geqq 1.0$かつ $q \geqq 1.0$	大地震動で、構造体の部分的損傷は生じるが建物全体の耐力低下は小さく、補修で再使用ができ、人命の安全確保が図られる。
D	A、B、C欄を除き $R \geqq 0.5$かつ $q \geqq 0.5$	大地震動により、建物が倒壊し、または崩壊する危険性があるため、詳細に再診断をし安全性を確認するか、または耐震補強が必要。
E	$R < 0.5$または $q < 0.5$	大地震動により、倒壊し、または崩壊する危険性が高いため、早急に補強する必要がある。

表1中のR（構造耐震指標比）は、I_s（構造耐震指標）とI_{so}（構造耐震判定指標）との比であり、qは、建設省の指針に規定された各階の保有水平耐力に係る指標である。

評価建築物の耐震改修の要否等

評価建築物のうち、構造耐震判定が一つの階または複数の階で耐震改修が必要（表1のD）または早急に改修が必要（表1のE）なものは、150棟中142棟である。

表2に、建築物の用途別に耐震改修の要否等の内訳を示す。

表2　評価建築物の耐震改修の要否等　単位：棟

建築物の用途	改修の要否			階数							構造			
	要	否	計	1	2	3	4	5	6	計	RC	S	RC+S	計
学校の校舎	101	8 [8]	109 [8]	4	17 [4]	54 [4]	30	4	0	109 [8]	105 [8]	4	0	109 [8]
学校の体育館等	18	0	18	3	12	3	0	0	0	18	3	4	11	18
官公署	19	0	19	1	7	5	5	1	0	19	19	0	0	19
老人養護施設	3	0	3	0	0	2	0	1	0	3	3	0	0	3
事務所	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1
住宅	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
その他	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
合計	142	8 [8]	150 [8]	8	36 [4]	64 [4]	35	6	1	150 [8]	131 [8]	8	11	150 [8]

＊表中網かけの数値は、改修不要の建物で内数

耐震改善項目、142棟の部位別改修工法及び耐震改修前・後の耐震性能の移行

1）耐震改善項目

耐震改修に当たっては改善の対象となる主要な項目として、下記のものがあげられる。

(1) 経年指標の改善
(2) 形状係数 Fes の改善
(3) 保有水平耐力 Qu の増大
　・耐震壁の増設　・袖壁の増設　・柱、梁のせん断補強
(4) 靱性指標 F の改善
　・耐震壁の増厚補強　・袖壁の増設　・柱、梁のせん断補強
(5) 基礎の補強

2）142棟の部位別耐震改修工法

改修工法は、**表3**に示すようにX方向はRC壁の増設、採光等を考慮して鉄骨枠ブレースの増設、RC壁と鉄骨枠ブレース増設併用が多い。また、Y方向ではRC壁の増設、柱、梁の補強が多い。

表3　評価建築物の部位方向別耐震改修工法　単位：棟

部位		壁						
工法		1. RC壁増設	2. RC壁増打	3. 鉄骨枠ブレース	4. 鉄骨ブレース	左の[1.+2.]	左の[1.+3.]	左の[1.+3.+4.]
方向	X	47	3	39	11	4	32	2
	Y	22	1	8	5	3	5	0
部位		床	屋根	柱、梁	基礎	その他		
工法		床面鉄骨ブレース	屋根鉄骨ブレース	柱梁補強	基礎補強	継手仕口補強	スリット施工	建物の重量軽減
方向	X	1		9	4	1	21	
	Y	0	3	20	5	3	1	18

3）耐震改修計画前・後の耐震性の移行

表4に示すように耐震改修前における142棟の耐震性能は、方向別では、X、Y方向ともDランクが多く、特に評価建築物の中に学校の校舎が多いことから、X方向のDランクが多い。

また、階別では1階にD、Eランクが多い。耐震改修計画後は、

表 4　耐震性能の移行（142棟）　　単位：階の棟数

X方向								Y方向							
階	移行	A	B	C	D	E	計	階	移行	A	B	C	D	E	計
1	前	8	6	21	90	17		1	前	64	25	19	26	8	
	後	49	72	21	0	0	142		後	92	40	10	0	0	142
2	前	13	14	25	63	19		2	前	72	16	18	22	6	
	後	47	72	15	0	0	134		後	85	39	10	0	0	134
3	前	23	11	25	38	5		3	前	62	12	10	14	4	
	後	48	45	9	0	0	102		後	71	25	6	0	0	102
4	前	16	3	11	11	1		4	前	25	6	3	7	1	
	後	24	14	4	0	0	42		後	30	10	2	0	0	42
5	前	3	1	1	1	1		5	前	1	1	1	4	0	
	後	3	3	1	0	0	7		後	1	5	1	0	0	7
6	前	0	0	0	1	0		6	前	1	0	0	0	0	
	後	0	0	1	0	0	1		後	1	0	0	0	0	1
	前	63	35	83	204	43			前	225	60	51	73	19	
計	後	171	206	51	0	0	428	計	後	280	119	29	0	0	428

方向、階別ともすべてCランク以上に改善されている。

学校校舎耐震改修計画の各階床面積当たり増設壁等の量

学校の校舎（表2－109棟）の中から平面形状が、L形、T形、凹形のような不整形の建築物を除いた評価建築物の中で、耐震改修計画前の耐震性能がDランクで、改修後の耐震性能がBまたはCランクに移行した69棟について、**図1**の耐震改修前（a）から耐震改修後（b）のように改修した場合、X方向における階数別の増設壁等の各階床面積当たりの水平長（L）の平均値は**図2**のとおりである。

なお、昭和46年（1971年）に建築基準法施行令が改正され、柱の帯筋間隔が強化されたため、上記のDランクからBランクへ移行した評価建築物60棟を昭和45年以前竣工（31棟）と同46年以降竣工（29棟）に分けて耐震改修計画の増設壁等の各階床面積当たりの水平長（L）の平均値を算出すると、**図3**のようになる。

この図の4階建てのグラフで昭和45年以前と同46年以降を比べてみると、同46年以降の増設壁等の水平長（L）は同45年以前を1.0とすると、1、2階で約0.7程度、3、4階で約0.85程度となり、柱の帯筋間隔が強化された効果がうかがえる。

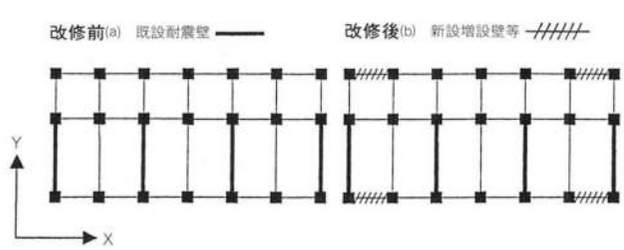


図1　耐震改修前・後各階柱・壁・床伏図

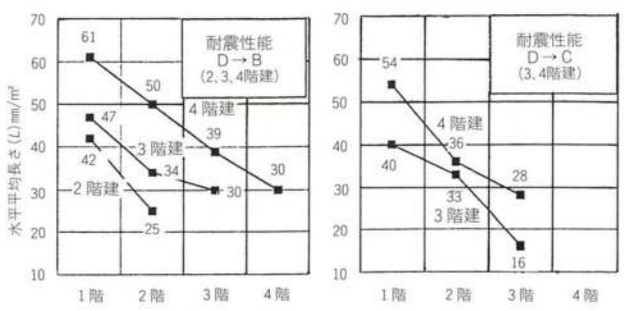


図2　各階床面積当たり増設壁等の平均水平長さ(L)

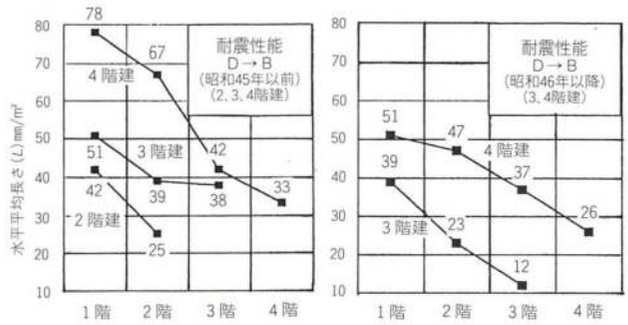


図3　竣工年が昭和46年前・後による各階床面積当たり増設壁等の平均水平長さ(L)

まとめ

阪神・淡路大震災の死者数は、地震の発生が未明であったことから古い木造住宅内での圧死や窒息死がほとんどであったが、もし、あのような大地震が昼間に起きていたとしたら、さらに特定建築物内での死者が多数出ていたものと推測される。

本稿での150棟の建築物の耐震診断結果では、142棟が建築物のいずれかの階の直交する2方向か、いずれかの方向において表4に示すようにD、Eランクであり、耐震改修の必要がある。

大地震後の建築物の耐震改修に当たっては、建築物の所有者が、もう、あのような大地震は兵庫県南部では起こらないだろうとの思いや、耐震改修工事費の問題、そして改修による建築物の機能性の低下等に対する抵抗があるものと思われるが、いつ、どこで起こるかもしれない大地震に対して、われわれは、人々の生命及び財産を守るため、住宅はもちろんのこと、特定建築物の耐震改修の促進に努めなければならない。

今後とも、評価された建築物のデータを分析し集積する予定であるが、本稿が、耐震改修の関係者にとって今後の耐震改修の促進の一助になれば幸いである。

参考文献
(1) 国立天文台編：理科年表（1997年版）
(2) 兵庫県編：兵庫県耐震判定基準同解説
(3) (財)日本建築総合試験所既存建築物の耐震研究会編
RC造およびSRC造建築の耐震診断マニュアル（案）

（しのざき　まさゆき）

BOOK STATION
ブックステーション

ゾーニングとマスタープラン
アメリカの土地利用計画・規制システム

福川裕一 著

学芸出版社
1997.5.10刊
A5判　384頁　本体4000円



ゾーニング、マスタープランを軸にした米国のシステムの検討から、日本の制度の問題点と改革の方向を探る。

パートナーシップによるまちづくり
行政・企業・市民／アメリカの経験

秋本福雄 著

学芸出版社
1997.3.20刊
A5判　296頁　本体3500円



日本に先行するアメリカの市民参加・民間活力活性化を考える好適の書。

英国都市計画とマスタープラン

中井検裕・村木美貴 著

学芸出版社
1998.3.10刊
A5判　320頁　本体3500円



イギリスの都市計画マスタープランを主題に、経済優先でもなければ、物的な環境の向上のみを目的とするのでもない、新しい都市計画のあり方を示す。

イギリスに学ぶ成熟社会のまちづくり

高見沢 実 著

学芸出版社
1998.10.10刊
A5判　240頁　本体2700円



同時代的に進むイギリスの現場の動きをリアルに描き出しながら、成熟社会のまちづくりの３つの手掛かり（制度基盤、行政・専門家の役割、市民社会のあり方）を提示。

現代アメリカ都市計画
土地利用規制の静かな革命

大野輝之 著

学芸出版社
1997.4.25刊
A5判　224頁　本体2500円



60年代の公民権運動、70年代の環境保護運動を契機に、大きく前進したアメリカ都市計画の改革のプロセスを体系的に描く初めての書。

市民のためのまちづくり入門

吉野正治 著

学芸出版社
1997.10.20刊
四六判　208頁　本体1500円



都市計画について、これから始めようとする人などに、まちづくりの考え方・ポリシーを伝え、都市計画をはじめとする制度・技術の大略を分かりやすく解説。

図説　日本庭園のみかた

宮元健次 著

学芸出版社
1998.6.10刊
四六判　192頁　本体1900円



洲浜、築山など庭園を構成する要素を図解するとともに、厳選48庭園を紹介。見どころを平易な文章と多数の図版で解説した入門書として庭園の魅力発見を助ける。

防災と市民ネットワーク

三船康道 著

学芸出版社
1998.12.25刊
A5判　207頁　本体2300円



阪神大震災を契機に様々な住民・企業・行政のネットワークが生まれている中、ハード面のみに頼らず、真に災害に強い地域社会をつくるための新たなまちづくりのあり方を先進例にさぐる。

CFRP 製構造材の現況と可能性

杉崎健一　清水建設㈱技術研究所主席研究員・工学博士
野口法康　東レ㈱技術センター主幹
大西　博　東レ㈱技術センター主幹

軽量・高強度・高剛性を生かして

筆者らは、21世紀に向かって新素材を主要構造材とした新しい空間構造の開発／適用に取り組んでいる。われわれが特に注目した新素材に、CFRP（Carbon Fiber Reinforced Plastics、炭素繊維強化プラスチックス）がある。CFRPは、身近なものではゴルフシャフトやテニスラケット、最近では航空機やF-1の車体などに使われている。これらに適用されている理由はCFRPのもつ軽量・高強度・高剛性、そして優れた耐蝕性・耐久性にある。さらに従来高いとされてきた製造コストが、大幅な改良努力により他の材料と十分競合できるレベルに下がってきたことがその大きな要因となっている。

これらCFRPの優れた特徴を生かした建築構造材料が必ず出来るはずであると考え、われわれが1991年に取り組んだプロジェクトが**図1**、**図2**に示す空中立体都市構想「TRY2004」である。この立体トラスを形成する構造体（直径12mの巨大中空パイプ）にCFRP製構造材を適用しようと計画し、われわれは共同で研究開発を開始したわけである。このプロジェクトについての記述は紙面の都合で省略するが、興味のある方々はぜひ筆者らに問い合わせ願いたい。

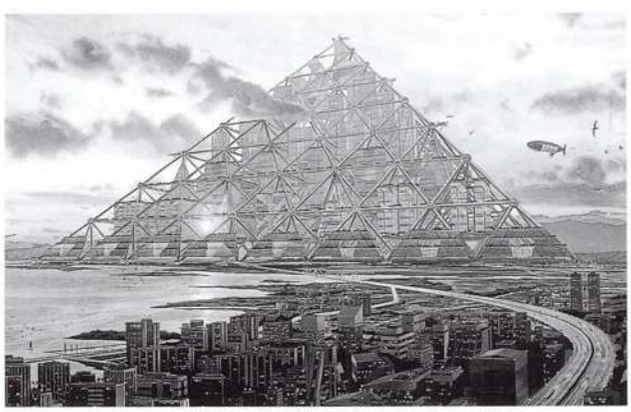


図1　空中立体都市構想「TRY2004」外観

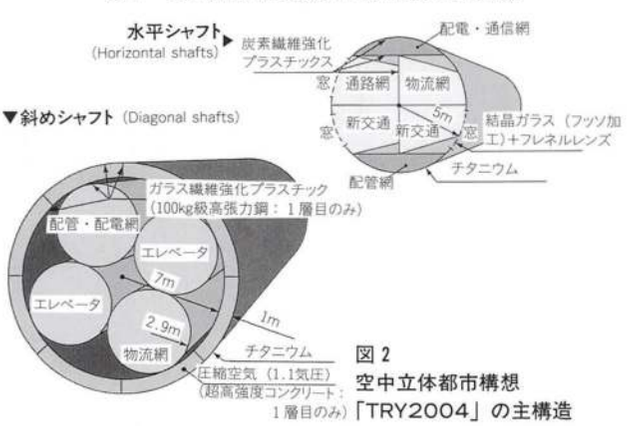


図2　空中立体都市構想「TRY2004」の主構造

ここで、CFRP製構造材の最も顕著な特徴である軽量・高強度・高剛性について説明してみたい。

この特徴を表すときによく使われる比強度・比弾性率（単位重量当たりの強度、剛性）の値を鋼材、アルミ合金、木材などと比較してみる。**図3**に主な構造材料の比重を、**図4**に比強度／比弾性率を示す。図3に示すようにCFRPの比重は約1.6であり、鋼材の約1/5、アルミ合金の約1/2となる。図4に示すようにCFRP一方向材料の比強度および比弾性率は鋼材やアルミ合金の数倍となり、強度や剛性を同一とした場合、CFRP製構造材を用いれば鋼材等を用いた構造と比較して大幅に軽量化できることは直観的に理解していただけるはずである。

実際の設計では、自重に加えて風荷重や積雪荷重などの付加外力の影響や座屈などの構造挙動を考慮して、躯体重量が鋼材と比較して約20%～30%に軽量化されると予測している。

CFRP製構造材を用いた空間構造システムは種々考えられるが、われわれがすでに実用化に向け着手しているものをいくつか紹介する。

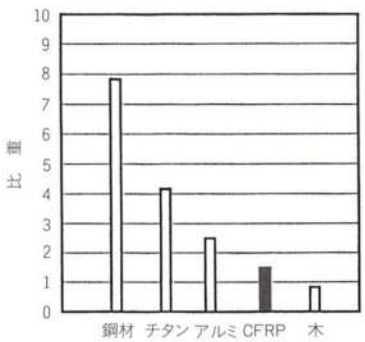


図3　主な構造材料の比重

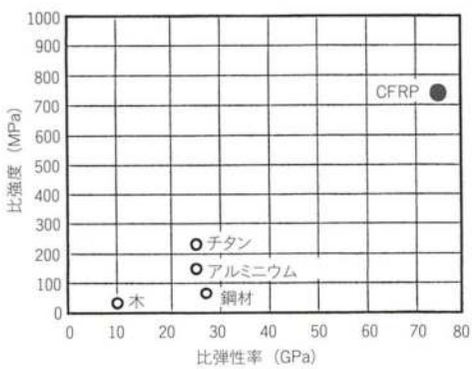


図4　主な構造材料の比強度、比弾性率

CFRP製構造材を用いた立体トラス構造

筆者らは、CFRP製のパイプを主構造材とした複層立体トラス構造を開発し、現在までに個別建設大臣認定を取得した2件の案件に適用している。**図5**にCFRP製立体トラス接合部の概要を示す。CFRP製パイプと、耐久性の高いアルミ合金やステンレス鋼材などを組み合わせたハイブリッド構造である。

本構造は、東レ㈱愛媛工場カフェテリアの屋根に適用している。**写真1**にその内観を、**写真2**にトラス組み立て施工を示す。

本構造では軽量を生かした簡易・短工期施工を第一のねらいとした。スパン13m×27m（面積351m²）の立体トラス屋根は約600部材で構成され、地上での組み立ては職人4人で6日間という短工期で

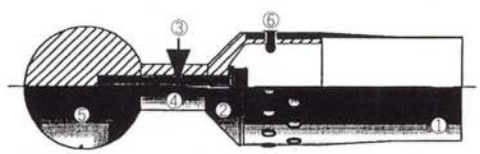


図5　CFRP製立体トラス接合部の概要

①CFRP製パイプ
②ステンレス鋼製ノーズコーン
③高張力鋼製ベアリングボルト
④アルミニウム合金製カラー
⑤アルミニウム合金製ハブ
⑥ステンレス鋼製ブラインドリベット



写真 1　東レ㈱愛媛工場カフェテリアの内観

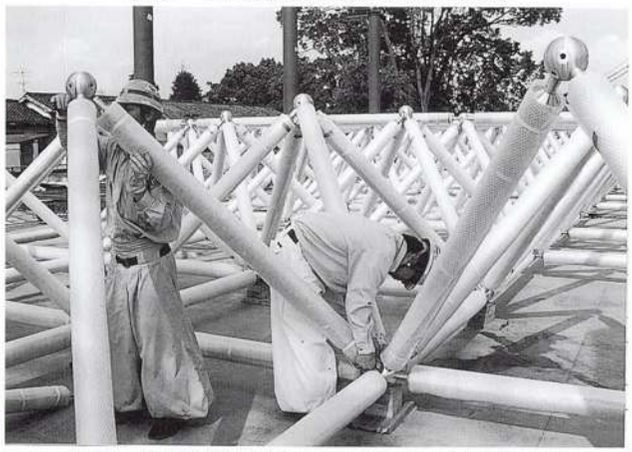


写真 2　東レ㈱愛媛工場カフェテリアのトラス組み立て施工

完了した。その後、屋根仕上げ用鉄骨母屋ほかを先付して、重量約8.5 t（単位面積当たり約27kg/m²、このうち躯体重量は約12kg/m²）の屋根全体をクレーン２台にて約15分で地上６ｍの鉄骨柱上部に設置した。発注者はもちろん、現場所長や施工を手掛けた職人からも簡単施工でとても良いとのお褒めをいただいた。

CFRP 製立体トラスは、錆などに対するメンテナンスが必要なく、特にプール、温泉、クアハウスなどの湿潤空間や屋外屋根を短工期で施工するには大変有効な構造である。

CFRP 製構造材を用いたモノコック版構造

筆者らは、トラスに引き続き CFRP 製の一体成形（モノコック）版構造の開発に着手しており、38条大臣認定を取得すべく適用検討中である。

本構造は仕上げと構造を一体化して、しかも RC シェルのような自由曲面を軽量な連続体の版構造で実現できることが大きな特徴である。版の厚みは自由に設定でき、表面の CFRP 層を主構造材としたサンドイッチ構造を基本としている。**図 6** にその形状例を示す。構造強度、剛性の確保はもちろん、大型一体成形（最大2000m²）が可能であり、接合部を少なくして水密性や断熱性にも優れている。屋根構造としての30分耐火性能さらには構造体を含む1時間耐火性能を有する仕様を考慮し、認定取得を目指している。試設計した屋根の CG を**図 7** に示す。このように、曲面屋根にサッシュを一体成形した採光窓や太陽光発電などを埋め込むことも研究開発中である。

また、この軽量曲面屋根の特性を生かして、RC シェルや PCa 版などで計画されている屋根を CFRP 製モノコック版で設計すると、全体の地震力が低減し、下部構造の耐震設計が楽になり、さらに工期も大幅に低減できる。プールなどを対象に試設計を行い、屋根自重が約1/5に減少し、１階レベルの地震力が約55%程度に軽減される結果を得ている。**図 8** に CFRP 版屋根による屋内スポーツ施設などのイメージを CG にて示す。

本構造の適用範囲は広く、今後設計者の方々と種々のプロジェクトで夢を膨らませていきたい。

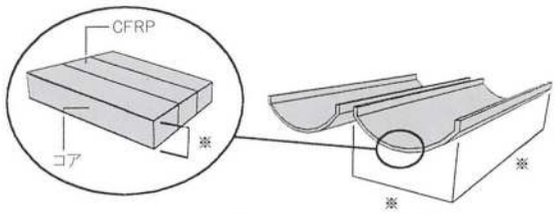


図 6　CFRP 製モノコック版の形状例



図 7
CFRP 製モノコック版による曲面屋根の例



図 8　CFRP 製モノコック版によるスポーツ施設のイメージ図

CFRP への期待

われわれはさらに CFRP 製構造材の適用拡大を考えており、外壁やルーバーなどの適用検討も開始している。読者の皆様からの種々のアイデア、ご意見がわれわれにとって大きな原動力になると考えている。

21世紀はもうまもなく訪れる。CFRP が次の世代を担う建築材料になることを期待してやまない。

（すきざき　けんいち／のぐち　のりやす／おおにし　ひろし）

アンボンドブレース

竹内　徹
新日本製鉄㈱建築事業部部長代理



図1　大阪国際会議場

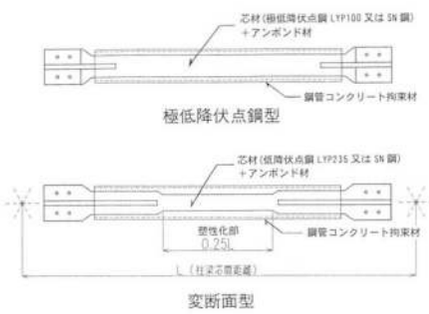
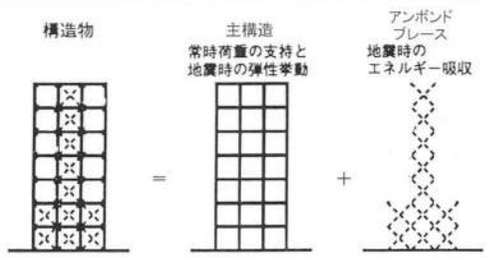


図2　制振構造用アンボンドブレース



		小地震	大地震	大地震後の状態
従来設計	主構造	弾性	塑性(梁端破壊)	取り壊し・建て直し
損傷制御設計	主構造	弾性	弾性	アンボンドブレース点検・取り替え後建物再利用可能
	アンボンドブレース	塑性(エネルギー吸収)	塑性(エネルギー吸収)	

図3　損傷制御設計の考え方

概要と特徴

アンボンドブレースは鋼板製の芯材を鋼管コンクリートで座屈拘束したブレースであり、現在に至るまでに大阪国際会議場を含め100件近い物件に適用されてきた。最近では超高層ビルを中心に、履歴減衰型の制振ダンパーとして、安定した履歴特性を積極的に利用する使用例も増加している。

鋼材をコンクリートや鋼管などで座屈拘束する方法は、古くから研究されてきた。しかし、芯材が圧縮変形する際には断面が膨張するため、座屈拘束材との間に十分な間隙が無いと、芯材と座屈拘束材との間に摩擦力が発生し、剛性および耐力が上昇してしまう。また間隙が大きすぎると、座屈拘束材内部で芯材の局部座屈が発生し、圧縮剛性や疲労性能の低下を招く。このため、圧縮・引張り変形ともに完全に等しい剛性・降伏耐力を得ることは非常に困難であった。

アンボンドブレースでは、芯材と座屈拘束材の間に特殊な緩衝材（アンボンド材）を用い、その厚さを厳密に管理することによりこれらの問題点を解決している。加えて、芯材の塑性化領域を座屈拘束材内部に限定し極力溶接を用いないことで、架構からの付加曲げによる部材端部の損傷を防止し、衝撃荷重に対する性能を確保している。大阪国際会議場（**図1**）で最長22mの巨大部材を実現するにあたっては、さらに自重が部材性能に与える影響や、芯材の位置精度を確保する製作方法などが、解析・実験等により詳細に検討されている。

損傷制御設計のすすめ

最近では**図2**に示すように、芯材に低降伏点鋼を用いたり、芯材の塑性化域を限定したアンボンドブレースを、制振ダンパーとして用いることによって損傷制御設計を行うケースが増加している。損傷制御設計とは、アンボンドブレースなどの制振部材に、低い変形レベルから積極的に地震入力エネルギーを吸収させることにより、レベル2の大地震に対しても主構造を弾性域にとどめる設計法である（**図3**）。従来の設計法に比べ一般的に主体構造の鋼材量が低減でき、かつ大地震後も建物を建て替えずに再利用できるなど、経済性・耐震性能向上の双方にメリットのある新しい設計法といえる。

損傷制御設計で用いられる制振部材は、レベル1以下の小地震から塑性化させるため、通常部材と比較して過酷な変形を受けることになる。疲労寿命がレベル2地震入力の一回分程度では数回の中小地震で取り替えを余儀なくされるケースが出かねない。このためアンボンドブレースでは緩衝材（アンボンド材）の厳密管理、溶接部を排除したディティール構成により、下記の能力を有していることを実験により確認している。

1）阪神大震災等の記録波を用いた実大動的実験[注]により、塑性化部軸歪最大5.8%までの安定した変形能力（**図4**、**5**）。

2）部材疲労実験により、塑性化部軸歪±0.75%(層間変形1/100相当）で繰り返し100回以上の塑性疲労性能（**図6**）。

図6に見られるように、部材の疲労性能は素材の疲労性能より低下する。これは局部座屈や溶接部の影響などによるものであり、座屈拘束が不完全な方式ではこの性能がさらに悪化する。本方式でもレベル2地震の最大応答に対応した歪振幅で、30回以上の疲労性能を確保するためには、塑性化部の歪を±2%程度以下に抑えることが好ましく、変断面型を使用する場合には、塑性化部の長さを節点間距離の1/4程度以上とすることが望ましい。この条件を満足すれば十分な疲労性能を確保することが可能であり、アンボンドブレースを地震後も再利用可能な制振部材として使用することができる。

注）科学技術庁との官民共同研究による。

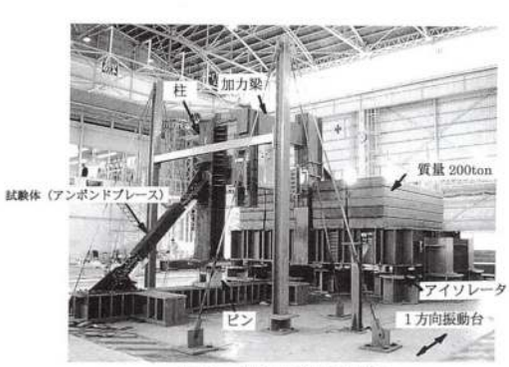


図4　動的大変形実験[注]

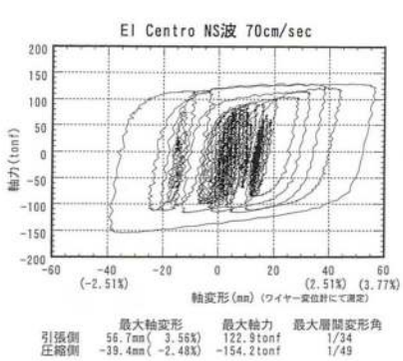


図5　履歴ループ

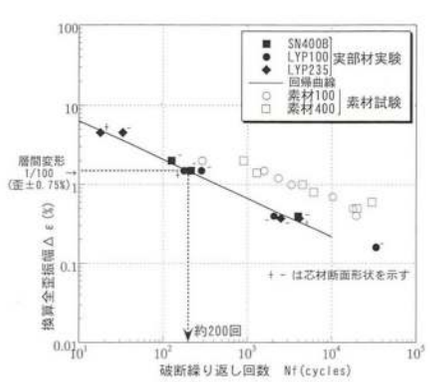


図6　塑性疲労性能（繰返し能力）

機械室レスエレベーター
「新リニア」―建築設計上の効果

平井哲男
日本オーチス・エレベータ㈱営業本部営業部係長、一級建築士

エレベーター技術の発達

ビルの高層化・超高層化時代を迎えて、エレベーターの技術開発には目を見張るものがあり、オーダー型エレベーターはもちろんのこと、規格型エレベーターの世界でも様々な技術開発がなされている。その中でも特に注目されているのが、エレベーター機械室を持たず、昇降路のみで完結する「機械室レスエレベーター」である。

機械室レスエレベーターはこれまで、ホームエレベーターや中低層住宅用エレベーターといった、ごく限られた機種で採用されていた。最近では本格的な業務用エレベーターでは初めて、わずかな制御盤スペースを設けるだけで機械室のいらないエレベーターとしてリニアモーターエレベーターの開発・実用化が行われていたが、このたび、機械室や制御盤室等が全くいらない昇降路だけのリニアモーターエレベーター「新リニア」の開発と、その実用化に成功した。

「新リニア」とは?

リニアモーターエレベーターとは、ロープ式エレベーターの一種で、ロープ式の機械室にあるモーターをつりあいおもりに組み込むことで機械室をなくし、かごとつりあいおもりをロープで連結した「つるべ式」のエレベーターである。

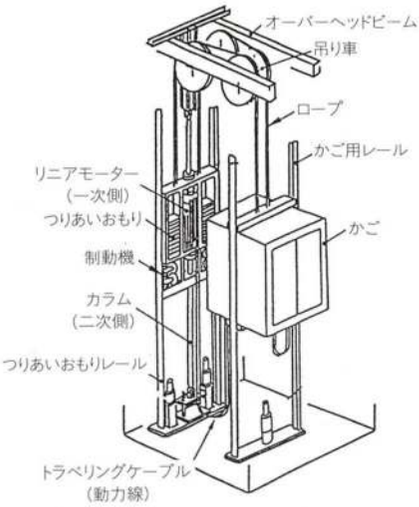


図1　リニアモーターエレベーターの構造

つりあいおもりにはリニアモーターが組み込まれ、リニアモーターの一次側に電力を供給して推力を発生させることでつりあいおもりを上下させ、同時にロープで連結されたかごを上下させることで、かごを目的階まで移動させる。また停止時には、つりあいおもりに組み込まれた制動機によって、その位置に保持される（図1）。

リニアモーターには円筒形リニア誘導モーターを採用している。このリニアモーターは円筒形のため、一次側と二次側の間に働く磁気的吸引力が相殺され、一次側と二次側の間の空隙を保持するための機構が簡単にできる。この空隙により駆動時における接触部分がなく、よって走行時の騒音が抑えられる。二次側はカラムと呼ばれる金属性の円柱で、エレベーター昇降路全長にわたって配置されるが、この構造が簡単になり、昇降路への取り付けも簡単にできる。

「新リニア」とは、リニアモーターエレベーターで唯一外部に設置されていた制御盤を、「かご運行制御盤」「駆動制御盤」「電源盤」に三分割しすべて昇降路に内蔵したエレベーターで、平面計画において、昇降路としての「間口×奥行き」のスペースさえあれば、その建物におけるエレベーター計画が完了する（図2）。この「新リニア」では、乗り場ドアの横に設置した保守点検盤で、通常保守点検や緊急時も、昇降路に入ることなく乗り場から点検できる（図3）。

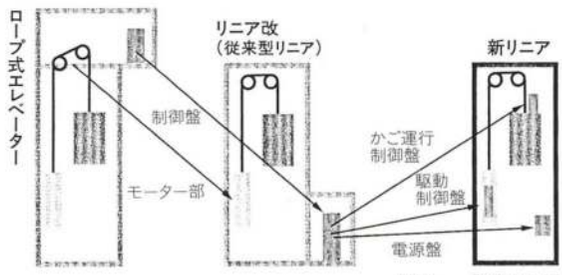


図2　「新リニア」

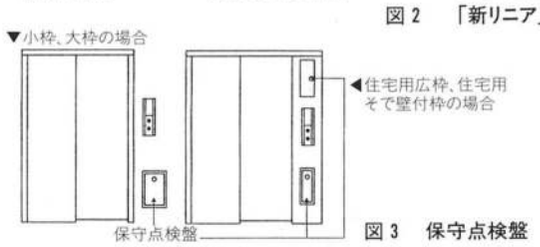


図3　保守点検盤

建築計画における機械室レスのメリット

以下に「新リニア」を「機械室レスエレベーター」と広く置き換えて、建築計画における「機械室レスエレベーター」採用のメリットについて、述べる。

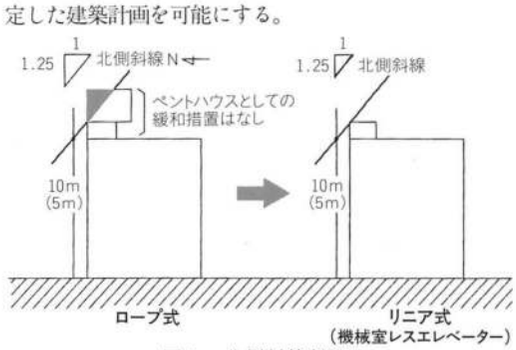
(1)　郊外型中低層マンションにおけるメリット

郊外型の中低層マンション計画で考慮しなければならないのは、斜線制限をはじめとする様々な高さ制限である。特に北側斜線制限については他の道路斜線制限、隣地斜線制限とは違い、ペントハウスに対する緩和措置がなく、ロープ式エレベーターによる計画では、その位置決定が非常に困難になる（図4）。日影規制においてはこのペントハウスにより、限られた建築空間の活用が難しくなる。郊外の住宅地における高さ制限は、近隣に対する日照の確保を主な目的としているため、民法の「日照権」と同様、建築計画での近隣対策における重要ポイントとなるので、注意が必要だ。

それでは、油圧式エレベーターを採用した場合はどうだろうか?

機械室を最下階に持つ油圧式エレベーターでは、ロープ式のように高さ制限に関して考慮する必要はないが、機械室より発生する振動・騒音に対する配慮が必要になる。油圧式エレベーターもVF制御などにより性能は良くなっているが、その駆動音はやはり気になる。特に郊外の住宅地では暗騒音が低く、この駆動音が直接的に影響する場合があり、居住者だけでなく、近隣への影響も問題になる。

昇降路頂部にも最下階にも機械室を持たない「機械室レスエレベーター」を採用することにより、ロープ式、油圧式の両者のデメリットを解消し、近隣への配慮をしながら、限られた空間の中での安定した建築計画を可能にする。



※北側斜線には建築基準法によるもののほか、高度地区の規定による各都道府県の条例における北側斜線制限もある。
図4　北側斜線制限

(2) 都市型中高層建築物(ペンシルビル)におけるメリット

都市型の建築物にとって、この「機械室レスエレベーター」採用のメリットはどこにあるのだろうか？

「機械室レスエレベーター」が有効になるのは、都市型の中高層建築物の中でも特に敷地が狭く、平面計画が小さな割には階数が多く高さのある、いわゆる「ペンシルビル」ではないかと考えられる。

都市型の中高層建築物では、特に間口に対して高さのあるペンシルビルなどでは、ロープ式エレベーターのペントハウスの存在が建築物の構造に大きく影響してくる。ペントハウスが建物本体に与える構造上の影響の一つに、重量による鉛直荷重がある。道路斜線制限等でセットバックした建物では、ペントハウスと建物の重量が集中するので、建物本体の柱や梁のサイズを大きくしなければならないことがある(**図5**、**6**)。さらにサイズが大きくなった柱などがそのまま昇降路内に現れ、昇降路内寸法にも影響をおよぼす恐れもある。このような建物に「機械室レスエレベーター」を採用すれば、ペントハウスの重量負担がなくなることで、建物本体のフレームを少しでもスレンダーにでき、安定した構造計画の実現が考えられる。

また、ペントハウスの重量が水平荷重として影響することも考慮しなければならない。特に地震時における水平力（地震力）は、建物本体のフレームのみならず、基礎の構造にも影響を与える。建物の重量を地盤に伝えるための基礎も転倒モーメントによる「引抜き力」を受けることによりその構造は複雑となり、地盤の地耐力や建物の規模にもよるが、5～6階建てのスレンダーなマンションなどでは、基礎杭の要否のボーダーラインになる場合もある（**図7**）。

このような建物でのエレベーター計画に「機械室レスエレベーター」を採用し、ペントハウスの重量を軽減することで、耐震設計においても比較的安定した建物の設計が可能ではないかと考えられる。このように「機械室レスエレベーター」の採用は、スレンダーな中高層建築物における構造面での不安定要素の一つであるペントハウスを必要とせず、経済的で安定した構造設計が可能となる。

平面計画が比較的小さいスレンダーな中高層建築物では、ペントハウスの規模についても考慮しなければならない場合がある。

ロープ式エレベーターの機械室面積は昇降路有効面積の2倍以上必要だが、一方「ペントハウス」としての規模は、その水平投影面積をその建物本体の建築面積の1/8以下にしなければならない。平面計画の小さな建物では、この調整が難しい場合もあり、機械室内の梁下有効寸法やブレースの配置等により、昇降路有効面積の2倍に加えて、かなりの大きなペントハウスが必要となり、制限を超えるケースも時折見られる。ペントハウス部分の水平投影面積が建築面積の1/8を超える場合は、高さや階数に算入され、道路斜線制限や隣地斜線制限等にも抵触し、防火上もきびしい制限を受ける（**図8**）。また、構造解析上も複雑な計算が必要となり、剛性率や偏心率について、計算が収まらない場合もある。

ペントハウスを設けなくても良いエレベーターには、油圧式エレベーターの採用も考えられるが、油圧式の昇降行程の限度は約20m（一般的には16m）であり、テナントビルでは6～7階が限度となる。「機械室レスエレベーター」を採用することで、油圧式の設置が不可能な高層のペンシルビルにおいても、ペントハウスに関するこのような問題点がクリアになり、安定した建築計画が可能になる。

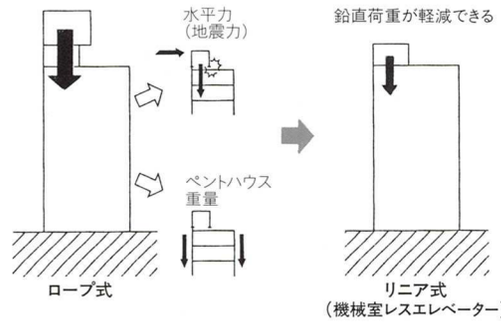


図5
鉛直荷重による影響

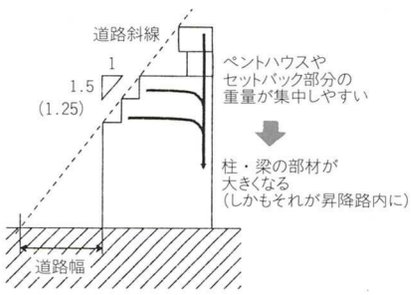


図6
セットバックした建物における影響

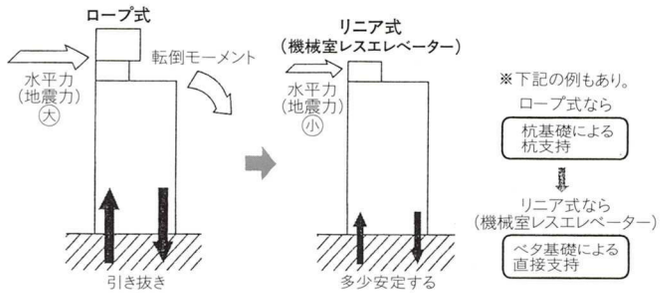


図7　水平力(地震力)による影響

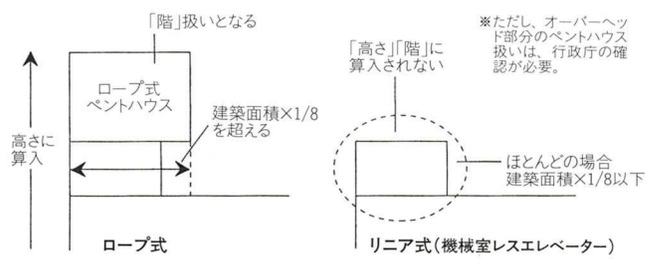


図8　ペントハウスが高さ・階数に算入される場合

(3) 大規模建築物の低層部への採用

「機械室レスエレベーター」は比較的小規模な建物に有効であると思われるが、高層のホテルやテナントビル、駅前再開発の建物などの大規模建築物にも意外な効果がある。

大規模建築物は一般的にベースとなる低層部と高層部（タワー）とに分けられるが、この「機械室レスエレベーター」については、低層部への採用が有効となる。例えば低層部のショッピングフロアーやレストラン街を利用するための交通手段や、地下駐車場からエントランスホールへの移動手段、またアトリウムの展望用としての利用も考えられる。いずれにしても、上部及び下部に機械室を持たない「機械室レスエレベーター」の採用により、大規模建築物の低層部におけるエレベーター計画に自由度が増すと思われる。

今後の建築計画において「機械室レスエレベーター」の採用は多くなり、将来的には「機械室レスエレベーター」を前提とした建築計画に移行するのではないかと思われる。　（ひらい　てつお）

シート防水耐火屋根構法

231

機械固定防水工法研究会

日本建築協会建材委員会

はじめに

欧米では、スティールデッキ面に断熱材を敷設し、その上にシート防水を機械的に固定する防水工法が普及しています。しかし、我が国では防火規制上適用できる地域が防火規制外地域に限定されています。そこで塩化ビニル樹脂系防水シートメーカー4社は、機械固定防水工法研究会を結成し、日本の耐火性能試験に適合する構法の開発を各方面の専門家のご指導を仰ぎながら進めてまいりました。その結果、「建設省告示に規定する耐火構造の屋根30分耐火試験」に合格し、日本で最初の「シート防水耐火屋根構法」として個別認定を受け、平成8年11月にSD－2構法として発表しました。

研究会では、この構法の改良・開発を進めてまいりました。その結果、新たに鉄鋼加工メーカーである東邦シートフレーム㈱の参加を仰ぎ、耐火被覆を必要としない高温高強度鋼を下地とした新規商品【SD－3構法】の発売を開始する事になりました。

開発の要旨

今回の改良の目的は、下地および断熱材の見直しによる施工性の向上および低コスト化です。

下地として東邦シートフレーム㈱が開発したフラットなルーフデッキを採用し、断熱材は不燃材のロックウール保温板を使用することにより、施工性の大幅な向上、低コスト化を実現しました。

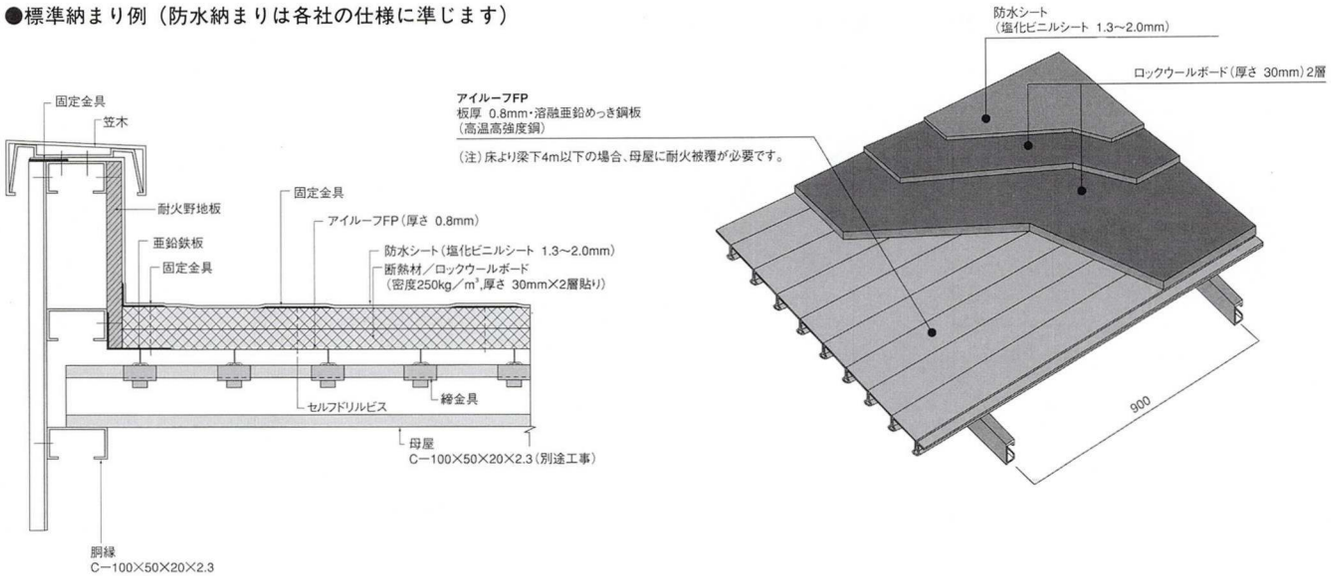
構法の概要

下地はフラットルーフデッキ「アイルーフFP」を採用。断熱材は不燃材であるロックウール保温板（30㎜×2層）を使用し、塩化ビニル樹脂系防水シートによる機械的固定工法にて防水施工するもので、平成9年12月、「耐火性能試験」に合格し、5社の構法が屋根30分耐火の個別認定を受けました。

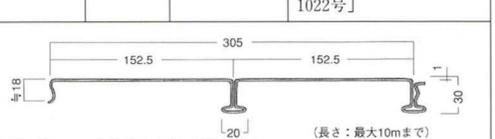
構法の特長

- ALC、RCに比べ、½から1/10の重量になるため、建物の軽量化が図れる。
- 完全乾式工法のため、工期の短縮が図れる。
- 建物の軽量化と工期の短縮が図れるため、建物全体のトータルコストを低減することが可能。
- 機械的固定工法によるシート防水のため、下地の動きに十分追従し、長期にわたって信頼性のある防水性能を実現する。また、ルーフデッキと母屋とは特殊締め金具によって留めるため、温度変化による伸縮に無理なく追従する。
- 外断熱工法であるため、適切な省エネ効果が得られるとともに、結露を防ぐことができる。
- 断熱材を敷設することにより、遮音効果を得ることができる。

●標準納まり例（防水納まりは各社の仕様に準じます）



主要材料一覧表

材　料	厚さ(mm)	幅(mm)	長さ(m)	材質	備考
防水シート	1.3～2.0	1,000～1,500	10～20	塩化ビニル樹脂系	JIS A 6008適合品
断熱材	60 (30＋30)	910	1.21	ロックウール板	JIS A 9504ロックウール保温板3号密度：250kg/m³、建設大臣認定「不燃第1022号」
アイルーフFP	0.8				溶融亜鉛めっき鋼板（高温高強度鋼）

機械固定防水工法研究会メンバー

会　社　名	屋根30分耐火認定(指)定番号	構　法　名
アーキヤマデ㈱	R0373	リベットルーフ防水耐火屋根構法
筒中シート防水㈱	R0372	DN耐火屋根構法
早川ゴム㈱	R0375	サンタックIB-MF耐火屋根構法
ロンシール工業㈱	R0374	ベストプルーフ耐火平板屋根防水構法
東邦シートフレーム㈱	R0369	アイルーフFP

屋内消火栓の設置—2—

由上雅章
ヤマトプロテック㈱

屋内消火栓設備の設置免除と代替消火設備

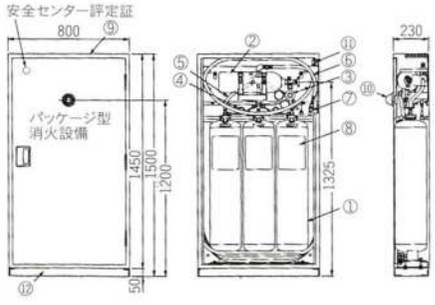
■屋内消火栓を設置免除できる場合

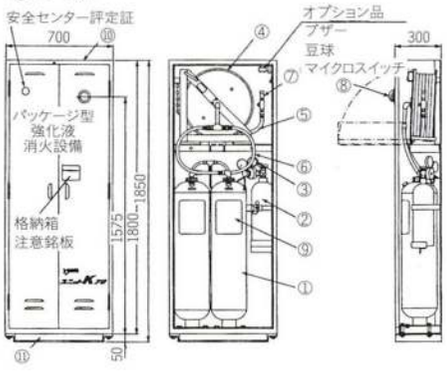
消防法施行令第11条第４項に規定されています。スプリンクラー、水噴霧、泡、二酸化炭素、ハロゲン化物、粉末、屋外消火栓、動力消防ポンプの各消火設備の有効範囲内の部分については設置しなくてもよいことになっています。ただし、屋外消火栓、動力消防ポンプにあっては、１階及び２階部分に限ります。

■代替消火設備（パッケージ型消火設備）

人の操作でホースを延ばし、ノズルからの消火剤（水を含む）放射によって消火する消火設備（図１）で、ノズル、ホース、リールまたはホース架け、消火剤貯蔵容器、加圧用ガス容器を収容したものです。水源、加圧送水装置等を設置したり、配管等の施工が必要でないため、コスト削減、設置スペースに低減の効果がみられます。

●Ⅰ型（露出型）
①消火薬剤貯蔵タンク
②加圧用ガス容器
③圧力調整器
④加圧用銅管
⑤連結ホース
⑥ホース
⑦ノズル
⑧銘板
⑨格納箱
⑩表示灯
⑪端子台
⑫ベース台





●Ⅱ型（露出型）
①消火薬剤貯蔵タンク
②窒素ガス容器
③圧力調整器
④ホースリール
⑤ホース
⑥連結ホース
⑦ノズル
⑧表示灯
⑨操作説明板
⑩格納箱
⑪ベース台

図１
パッケージ型
消火設備の寸法

(1) パッケージ型消火設備が設置できる防火対象物

●パッケージ型消火設備「Ⅰ型」

耐火建築物は地階を除く階数が６以下で延べ面積が3000m²以下

耐火建築物以外は地階を除く階数が３以下で延べ面積が2000m²以下

●パッケージ型消火設備「Ⅱ型」

耐火建築物は地階を除く階数が４以下で延べ面積が1500m²以下

耐火建築物以外は地階を除く階数が２以下で延べ面積が1000m²以下

(2) パッケージ型消火設備の設置基準

●パッケージ型消火設備「Ⅰ型」

水平距離20m以下、防護面積約850m²以下

●パッケージ型消火設備「Ⅱ型」

水平距離15m以下、防護面積約500m²以下

屋内消火栓ポンプの設定条件

■屋内消火栓ポンプの決定

(1) 屋内消火栓ポンプ能力の設定条件は、吐出量と揚程の２点を満足することです。吐出量は、本講座26（２月号掲載）の表２の設置基準に基づき、吐出水量を設定します。揚程の計算は、

実揚程＋配管摩擦損失＋ノズル放水圧損失＋ホース摩擦損失＝全揚程

＊実揚程とは、ポンプフート弁～最高位置の消火栓弁までの高さ
＊配管摩擦損失とは直管損失（同一配管サイズに同一流量を流す場合の配管の長さ）×損失係数と継手及び弁類損失（同一サイズに同一流量を流す場合の継手及び弁の数量を配管の長さに換算した値）×損失係数の合計値
＊ノズル放水圧損失とは、
１号消火栓及び易操作性１号消火栓／1.7kg/cm²、17m（水頭換算数値）
２号消火栓／2.5kg/cm、25m（水頭換算数値）
＊ホース摩擦損失とは、
１号消火栓／ゴム内張りで3.6m（30m延長時で通常15mホースを２本設置）
易操作性１号消火栓／鑑定申請値（製品により異なる）
２号消火栓／鑑定申請値（製品により異なる）

表１ 屋内消火栓設備の配管の摩擦損失水頭表
規格「配管の摩擦損失計算の基準」（昭和51年消防庁告示第３号）

●17条関係〔設置基準〕包含半径：25m 放水圧力：1.7kgf/cm²
（１号消火栓）放水時間：20分 配管：JIS G 3452（管長100m当たり、単位m）

消火栓数	流量（ℓ/min）	管の呼び径 40A	50A	65A	80A	100A	125A	150A
1	130	9.44	2.93	0.87	0.38	0.11	0.04	0.02
	150	12.31	3.82	1.14	0.49	0.14	0.05	0.02
2	260		10.56	3.14	1.35	0.37	0.13	0.06
	300		13.76	4.08	1.76	0.49	0.17	0.08

●17条関係〔設置基準〕包含半径：15m 放水圧力：2.5kgf/cm²
（２号消火栓）放水時間：20分 配管：JIS G 3452（管長100m当たり、単位m）

消火栓数	流量（ℓ/min）	管の呼び径 25A	32A	40A	50A	65A	80A	100A
1	60	(16.66)	4.76	2.26	0.70	0.21	0.09	0.03
	70	(22.16)	6.33	3.01	0.94	0.28	0.12	0.04
2	120		17.15	8.15	2.53	0.75	0.33	0.09
	140		22.81	10.83	3.36	1.00	0.43	0.12

注）ヤマト クイックリール：鑑栓第63～１号及び鑑栓第63～２号のホース圧力損失は2.7kgf/cm²
ヤマト クイックリール：鑑栓第１～１号及び鑑栓第１～４号のホース圧力損失は1.9kgf/cm²

表２ 継手・弁類相当管長 （単位m）

種別			大きさの呼び 25	32	40	50	65	80	90	100	125	150	200	250	300	350
管継手	ねじ込み式	45°エルボ	0.4	0.5	0.6	0.7	1.0	1.1	1.3	1.5	1.8	2.2	2.9	3.6	4.3	4.8
		90°エルボ	0.8	1.1	1.3	1.6	2.0	2.4	2.8	3.2	3.9	4.7	6.2	7.6	9.2	10.2
		リタンベンド（180°）	2.0	2.6	3.0	3.9	5.0	5.9	6.8	7.7	9.6	11.3	15.0	18.6	22.3	24.8
		チーズまたはクロス（分流90°）	1.7	2.2	2.5	3.2	4.1	4.9	5.6	6.3	7.9	9.3	12.3	15.3	18.3	20.4
	溶接式	45°エルボ ロング	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.2	1.5	1.8	2.0
		90°エルボ ショート	0.5	0.6	0.7	0.9	1.1	1.3	1.5	1.7	2.1	2.5	3.3	4.1	4.9	5.4
		90°エルボ ロング	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0	1.1	1.3	1.6	1.9	2.5	3.1	3.7	4.1
		チーズまたはクロス（分流90°）	1.3	1.6	1.9	2.4	3.1	3.6	4.2	4.7	5.9	7.0	9.2	11.4	13.7	15.3
バルブ類		仕切弁	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	1.3	1.6	2.0	2.2
		玉形弁	9.2	11.9	13.9	17.6	22.6	26.9	31.0	35.1	43.6	51.7	68.2	84.7	101.5	113.2
		アングル弁	4.6	6.0	7.0	8.9	11.3	13.5	15.6	17.6	21.9	26.0	34.2	42.6	50.9	56.8
		逆止弁（スイング型）	2.3	3.0	3.5	4.4	5.6	6.7	7.7	8.7	10.9	12.9	17.0	21.1	25.3	28.2

管継手のうちチーズ及びクロス（口径の異なるものを含む）を直流で使用するもの、ソケット（溶接式のものにあってはレジューサとする）、及びブッシュについては、本表を適用することなく、当該大きさの呼び（口径の異なるものにあっては、当該それぞれの大きさの呼び）に応じた管の呼びの直管として計算するものとする。

表３ 消火栓弁相当管長

形状		大きさの呼び	等価管長（m）
アングル弁形		40	7.0
		50	9.0
		65	14.0
玉形弁型	玉形180度型	40	16.8
		50	18.0
		65	24.0
	玉形90度型	40	19.0
		50	21.0
		65	27.0

表４ ホースの摩擦損失水頭表（100m当たり）（単位m）

呼称種別		流量ℓ/min	130
ホースの呼称	40	麻ホース	26
		ゴム内張りホース	12
	50	麻ホース	7
		ゴム内張りホース	3
	65	麻ホース	
		ゴム内張りホース	

（ゆかみ まさあき）

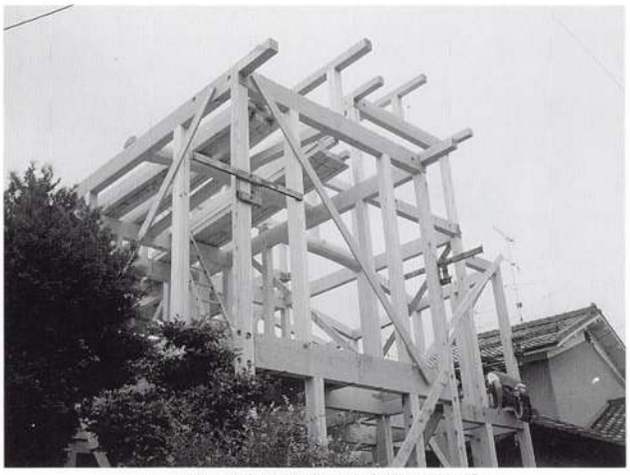
わが家の新築の記ー2ー

人とのつながりの中で家は完成した

池内　了
宇宙物理学者、名古屋大学教授

大震災を教訓にして

兵庫県南部地震級の大地震が起こっても数十年は大丈夫であるよう、基礎工事をしっかりしてもらい、柱はすべて12cm角にし、筋交いも多く入れてもらったのですが、問題はライフラインをどう確保するかでしょう。電気・水・ガスが遮断されたとき、突然生活ができなくなることがあの大震災で明らかになりました。私たちの生活は自給することを忘れ、社会への依存が強くなった分だけ脆くなっているのです。そこで、電気は太陽光発電を行い、水は井戸を掘り、ガスは携帯用コンロを常備することにしました。また、太陽熱温水器を取り付けたので、冬でもぬるい湯が出るようになったのはありがたいことです。水道が止まってもトイレの水に苦労しないよう、雨水を地下のタンクに溜め、井戸水も補給できるようにしました。



しっかりした木組みの上棟直後のわが家

と、ここまで考えてきたのですが、地震によってそれらの機械が壊されないかが問題であることに気づきました。井戸の水はモーターで汲み上げ、トイレへの給水も地下からモーターで汲み上げているためです。このように、ほとんどの機械は電気で動いていますから、地震が来ても太陽光発電パネルが有効に機能してくれねばなりません。また、現在の太陽光発電では蓄電できませんから、夜はお手上げになります。この問題の解決のためには、石油で動く発電機を設置する必要があります。今回は、とてもそこまで手が回らなかったのですが、半地下の収納庫を広くとったので、将来そこに発電機を設置することができるでしょう（とはいえ、地震が来る前にそこまで手を打つか、我ながら自信はありませんが）。

ともあれ、電気に頼る設計にしてしまったのを、少し反省しています。将来的には天然ガス使用が主流になって、発電を行うとともに、廃熱を暖房やフロの湯に使う「コージェネレーション」の時代が来るでしょう。その方が省エネルギーになるからです。ところが、今回の設計では、ガスの使用は台所と居間とフロ場に限ってしまったのです。すぐに天然ガスの時代となるわけではありませんが、少なくとも検討くらいはしておくべきだったと思っています。

やがて来る老後のために

私たち夫婦は今50代前半ですが、10年も経つと二人とも定年を迎え、家で過ごす時間が多くなります。同時に、体が弱っていき車椅子生活を余儀なくされる可能性もあります。その時になって、家を大改造する体力や資金力は残っていないかもしれません（そう考えて、まだ若いうちにと、今回新築したのですから）。そのような、やがて来る老後のことを考えた家の構造としました。

私たち二人がおのおの独立した書斎を持つこと、居間兼寝室以外に一人でゆっくり休める和室を作り、これをたまに帰ってくる一人娘の部屋とすること、周りから遮断されて瞑想できるような、狭くても何も置かない空間を用意すること、を考えました。老後も自分の空間を持って好きな仕事を続け（書斎）、寝込んでも邪魔にならない別の寝室があり（和室）、逃避できる空間がある（瞑想室）、のが良かろうと思ったのです。ボケない、人に迷惑をかけない、自立し続けるための対策でした。とはいえ、たった30坪しかない敷地ですから、十分なことはできません。2階の上に屋根裏部屋を設け、地下にも収納部屋（瞑想室にもなる）を作ることで手を打ちました。

また、老人ホームで働いている娘の助言を得て、敷居をなくしてバリアフリーとし、すべて引き戸にし、階段は90cmの幅を取って角度は45度と緩やかにし、トイレや脱衣所や廊下は車椅子が通れる広さを確保しました。また、将来エレベータが必要になるかもしれないので、1階と2階がぶち抜けるような部屋の配置を考慮しました。現在のところは、まだ車椅子を使う必要がないので、玄関や入り口には段差を付けていますが、いざという場合には滑らかなスロープにできる奥行きを確保しました。そして、福祉車が玄関前に横付けされても前の道路を他の車が通れるよう、家の向きを道路に対し7度ほど回転させ、車が半分入るスペースを取ることにしました（今は自転車置き場にしています）。本格的な老人向け住宅にするには早すぎるので、将来手が打てるよう予め考えておこう、というわけで上のような構造にしたのです。

住んでみて、バリアフリーはいかに安心感を生み出すかを実感しました。夜中にトイレに行くとき、真っ暗闇でも安心して歩けるのです。身体障害者や老人が安心して歩けるよう、街の構造もバリアフリーにすべきだと改めて強く感じました。また、ほんの少し角度が緩やかになっただけで、階段を昇降するのが楽になることも新たな発見でした。「効率」でなく「安心」を念頭においた人間工学的な設計がいかに重要かを痛感しました。



曲がった北山杉が庇を支える玄関

地域の人々と

私たち夫婦は二人とも大学に勤めていて、ほとんど昼間は家におらず、その上、私は名古屋の大学勤めですから週日はほとんど不在です(名古屋には小さなアパートを借りています)。そのため、地域の方々とは挨拶をしたり、立ち話をするだけで、本格的な付き合いがありません。私たちの周辺は、かつて農家が主体の村で、今でもかなり田圃が残っています。30年ほど前から農地を埋め立てて建売住宅が建設されるようになり、新住民が流入してきた比較的新しい住宅地なのです(私たちは、6年前に中古住宅を買ってやってきた新新住民です)。そのため、村の催しは旧住民がもっぱら執り行っていますから、新住民たる私たちが入り込む余地が少ないのです。そのようなこともあって、私たちには地域に生きているという実感がありませんでした。家は生活の根幹をなす場ですから、家作りの機会に地域の人々と何らかの新しいつながりがつくれないものか、と考えました。

さらに、家作りをお願いしたのはお向かいの大工さんで、そこで使っておられる職人さんたちは、ほとんどこの周辺の住民でもあります。基礎工事から最後の庭園作業まで、10以上の職種の、延べ40人以上の職人さんが新築工事に携わって下さったことになります。それらの職人さんたちとも親しく付き合えれば、少しは地域に根付けるかもしれない、と思いました(今後の家の増改築や修理もお願いしやすいし……)。

そんなことを考えて、夏の盛りに、家作りに携わって下さった職人さんたちを招待してバーベキュー大会をしました。向かいの大工さんの家の前庭が広いので、そこに火床を掘り、モルタル壁用の網を使い、切り株や端材を椅子にすれば、臨時の焼き肉屋ができました。延べで30人もの職人さんが来て下さったでしょうか、さまざまな仕事の苦労話や村の噂話を聞くことができました(噂話に詳しいことが地域に溶け込むコツだと思っています)。また、わが家が属する町内会の人々には、引っ越しの前日をオープンハウスにして、家の中を自由に見てもらいました。私にとっては工事中に迷惑をかけたお詫びのつもりであり、近所の方々にはどんな家ができたのか興味津々の好奇心を満たす機会になったと思います。

地域の人々とのつながりを目指す、と偉そうに書きましたが、実はこれだけしかできなかったのです。家作りが地域社会とのつながりの核となることを私はすっかり忘れていたためで、バーベキュー大会は設計士さんから、オープンハウスは大工の棟梁から、それぞれ提案があったので実行できたのです。始めからもっと考え計画すべきであった、と悔やんでいます。

設計士さんの仕事をもっと知らせよう

家作りを決心したとき、私は、建築会社にすべてを任せるのではなく、個人設計士さんに設計監理を頼もうと考えていました。家作りには必ず予算と期日の制限がありますから、私たちが希望する項目の「何ができて、何ができないか」をひとつひとつはっきりさせ、自分として納得した建築を進めたいと思ったからです。むろん、私は建築に関して素人なので、専門家たる設計士さんから建築のポイントを教えてもらいたいとも思っていました。

また、設計士さんには、施主たる私たちと大工さんとのインターフェイスとなって希望を伝えるとともに、作業をしっかり監理してもらうことも期待しました。お向かいの大工さんに工事を頼んだので手抜きは心配しなかったのですが、新しい技法や素材について設計士さんから大工さんに提案しながら工事を進めて欲しいと思ったからです。人間は、経験主義になることが多く、経験通りしている限り仕事も楽になります。大工さんも例外ではありません。そこで、大工さんの仕事ぶりを設計士という異なった目が常に見ていることで、然るべき点検になるのではと考えたのです。

設計士さんとの話の中で、住宅会社に任せきりにする施主が多く、設計士も建築会社の下請け仕事で満足するようになっていることを聞きました。その結果として、建築における設計士の位置付けが低くなっていると、その設計士さんは嘆いておられました。そのような事態は施主にとっても不幸なことで、本当に自分の作りたい家が実現できるのだろうかと心配になります。私たちの場合、まず設計士さんに私たちの希望を縷々話しました。たった30坪しかない敷地なのに、上に書いたようなたくさんの希望を盛り込もうとしたのですから、「何ができ、何ができないか」を始めに押さえておきたかったのです。設計士さんは、それを十分に考慮して基本設計を行い、どこまで実現できるか、何を諦めなければならないかを、私たちに詳しく説明して下さいました。それを納得したことを確認して上で、実施設計に移り、その最終案を下に見積もりを大工さんからもらう、という段取りがありました。この間に約10カ月要したのですが(事情を知らない私たちは少しイライラしたのですが)、このステップこそが家の性格を決定する重要な時期であったことが後でわかりました。

それに続く、施主の希望が生かされているかどうか工事の進捗ぶりを監理しながら、時には臨機応変に設計変更を行って建築を完成させることも設計士の重要な仕事であることを再認識しました。とはいえ、もはや家作りの主役は大工さんに移っていますから、設計士さんがアレコレ口を出すのは大変だろうと思いました(ナチュラルハウスを目指した私の希望を生かすために、工事中でも大工さんにいろいろ注文を付けたからです)。さらに、設計士さんは、自分がイメージした家が実際に姿を現すかどうか、きっと緊張の毎日だったに違いありません。最後の引き渡しの日に、「一人娘を嫁にやるような気分です」と語られたのにハッとしました。

本書の読者の方々がこのような設計士の仕事を十分知悉しておられるとわかっているのに、あえてこのようなことを書いたのは、設計士の仕事の重要性を、建築関係者の方々から、もっと広くアピールして欲しいからなのです。家は消費財ではなく100年の時間スケールで考える事業であること、その実現のために設計士が活躍しなければならないこと、施主はそのことをしっかり押さえて家作りを構想すること、を社会の常識にしなければならないと思っています。それこそが、環境共生型の建築が広がっていく基本なのではないでしょうか。〈おわり〉

注)「わが家の新築の記―1―」は、2月号に掲載。

*

この1年半の家作りを工事の進行に合わせて書き留めた著書「わが家の新築奮闘記」を晶文社から2月25日に出版しました。ご愛読下されば幸いです。

(いけうち　さとる)

話題建築を聞く（第28回）

真紅の観覧車のあるビル HEP FIVE

小笹光彦
事業委員／ランテック計画事務所取締役

平成11年１月26日㈫午後６時半から、日本建築協会サロンにて「話題建築を聞く（第28回）HEP FIVE」が開催された。サロンの北側の窓から梅田界隈の夜景が見渡せ、冬の寒気を通して闇の中に大観覧車の赤い灯がゆっくりと回転するのが見える。

こんな絶好の場所で、今日は設計者・竹中工務店設計部副部長の林達雄氏をお招きし、今注目を浴びている「観覧車のあるビル」について、このプロジェクトの経緯、あるいは隠された苦労話などを聞かせていただくこととなった。スライド、ビデオを交えて１時間余りの説明・解説の後、１時間程度の質疑応答の形式をとり、約２時間の講演を終えた。

講演が終わって、再び窓に眼をやると、相変わらず観覧車がゆっくりと回転しているのが見えた。なぜかしら印象的であった。

プロジェクトのプロセス

大阪・キタの中心地・梅田の阪急村のど真ん中に、真紅の大観覧車が出現し、大きな話題を呼んでいる。この観覧車は建物の上に挟まれるような形で載っかった「HEP FIVE」で、昨年11月末に華々しくデビューした。

これは旧阪急ファイブの建て替えを軸としており、隣接するコマ劇場がアプローズへ移転したのに伴い、この敷地と一体化させた新世紀に向けての都市型複合商業ビルである。

旧阪急ファイブは1971年に建設され、「空のある街」として親しまれてきたが、築後すでに20年以上経過している。この間に、世の中の動向もすっかり様変わりし、新しいタイプの商業施設の在り方が問われるところとなった。

さらに、もう一つ隣接する阪急ナビオも1977年に建設されたが、これもあわせて全面リニューアルし、一つの大規模商業ビルとして同時にオープンさせるところとなった。

このプロジェクトは1989年頃からスタートしたが、それ以前にコマ劇場単独の建て替え計画が1978年頃から練られており、これも含めると実に20年以上という長きにわたる大プロジェクトであった。

これからの商業ビルは規制緩和の波を受けて、安く、良い品を売るだけでは駄目。より多くの客を集めるためには、もはやショッピングだけの単目的ではなく、食事をしたり、遊んだり、映画を見たりしながら、ついでにショッピングも楽しむという、快適な時間を過ごせるという贅沢な環境を創り出すことが必須の条件となってきている。



こんな夢を追ったのが、HANKYU ENTERTAINMENT PARKであり、そのためには人々の心を捉える仕掛けと工夫が必要である。このプロジェクトの最大の課題はここにあり、「スニーカーの似合う街」をテーマに、10代から20代にかけての若者をメインターゲットとして、具現化させたものである。

このプロジェクトの進行過程では、二度の大きな節目があり、大きな変更を余儀なくさせられたらしい。その１回目は、当初の計画ではOSビルもとり込んだスーパーブロックの予定でスタートしたが、オーナー側からの理由で、OSビルをはずすこととなり、大幅な敷地変更があった。これにより、敷地が狭くなったうえに変則的な形状となった。

この時点で、一時は観覧車の導入を半ばあきらめかけていたが、オーナー側に観覧車に対する強い思い入れがあった。工夫に工夫を重ねて、建物にかなり強引に観覧車をとり付けた形であったとか。

その後、２回目の変更をせざるを得ない事態が起こった。1995年の阪神大震災である。安全性と安定感という観点から再度構造を慎重に検討するところとなり、ほぼ現在の形に到達することができた。震災が起こったということは大変なショックで、大幅な手戻り等が生じ、大きな負担となった。しかし、今振り返ってみると、むしろこのために安定感のある大観覧車が誕生し、結果としてはプラスの方向に働いたと思っているとのことである。

建築構成のアウトライン

地下２階、地上10階、延床面積約53,000㎡の大規模商業建築である。構造的には観覧車を７階に取り付け、観覧車の直径は75m、最高高さは車輪の頂上で106mである。

地下２階と１階に出入り口があり、１階のメインエントランスには、７階まで吹き抜けのアトリウムがある。アトリウムの天井から観覧車の一部が透けて見える構成としている。アトリウムの空間には、巨大な鯨が逆さまになって吊り下がっており、人々の眼を引きつけている。

地下１階から７階までは若い世代を対象とした先端的なファッション、雑貨、飲食店が占めており、地下２階と８、９階にはアミューズメント施設を配置している。８階には旧阪急ファイブのオレンジホールを引き継いで、HEP HALLが用意されている。地下２階の入り口部分にパチンコ店が鎮座しているのには、ちょっとばかり驚く。

なぜ観覧車なのか

そもそも、若者のニーズを知るため来店の中心となる若者層に梅田でアンケートをとったことが、その始まりである。「梅田にほしいものは」の質問に対して様々な回答があったが、「遊園地がほしい」というものが多数あった。

遊園地の三種の神器は観覧車、メリーゴーランド、ジェットコースター。この三種の神器の導入を検討したところ、結果的に観覧車が生き残った。メリーゴーランドも一時期、地下に置こうという発想があったが、対象が子供になること、規模が小さすぎるということ、投資効果が期待できないという理由でとりやめとなった。ジェットコースターについては動的でなかなか面白い要素であるが、





HEPホールという劇場を内蔵していることから判断すると、振動、騒音がわずらわしいということではずされた。またジェットコースターが、ほとんど並行して計画されていたフェスティバルゲートで実現化されそうだという情報が入っていたのも事実であるそうだ。

質疑応答では「鯨ともどもなぜ赤なのか」という質問があった。答えは、「一つのエネルギーの象徴であり、一つには際立たせたかった」ということであった。最初から赤という発想はなかったそうで、なんとなく、シルバーもしくは虹模様というイメージだったそうだが、神戸市のポートタワーにヒントをえて、赤一色に決断したとのことであった。

余談になるが、林氏が最も恐れた色は航空局か何かの指導で、赤と白のだんだら模様にさせられることであったそうな。

鯨の赤については、制作をミュージシャン石井竜也氏に依頼したため、自分の範疇外ということであったが、察するところ観覧車との統一と、今一つは鯨をあまりリアルに表現したくないという意図があったのではないかということであった。

観覧車の収支バランスは

大輪の直径は75m。4人乗りのゴンドラが52個ぶら下がっている。これが時計回りに約15分間で一周する。AM11：00からPM11：00まで12時間稼働している。単純計算すれば（4人×52個×4回転×12時間）でmax 1万人/1日弱となる。せっかくの若いカップルに相乗りを要求するのは無理があり、平均的には5,000～6,000人/1日程度であるとのこと。これに乗車賃をかけると結構よい数字になる。

オーナー側はこの収入にはたいした期待を持っておらず、電気代等のメンテナンス代と人件費がまかなえれば、あとは広告代と思っているとのことであるが……。

ちなみに観覧車の工事費は全体の約1割弱だということである。

都市景観のなかの観覧車

車輪の直径については、ギネスブックにはシカゴに100mのものがあるそうだ。これを追い抜こうという気持ちはなかったとか。ただ75mにはかなりのこだわりがあったらしい。この高さはちょうど御堂筋から車輪の頂上がチラリと確認できる高さであるらしい。

真紅の大車輪と高さ106mという特異な工作物に対して、景観論争がまき起こるのではないかとの覚悟があったということである。そのために、あらゆる角度からのシミュレーションも十分に行ってきたが、意外に反感の声が少なかったとのことである。若者たちの間からは、天から巨大な丸鋸が下りてきて、建物を真っ二つに切断しているようで、ダイナミックで楽しいという肯定の声が聞こえてくる。

これが京都であれば、こうはいかなかったかもしれない。大阪人は万事におおらかなのであろうか。

観覧車が上下に動くということは、「見る。見られる」の関係が様々に変化して大変面白い空間が誕生するという。三次元の空間が四次元に変質する快感があるように思えるという。図上での計画段階では、想像もしなかった場面が随所にあらわれ、今さらながら空間の持つ不思議な力に驚いていると力説された。

観覧車の夜景にも力を注いだという。昼と夜の顔は全く異なり、別世界。

照明演出は、内原デザイン事務所の協力を得て、清水がしたたり落ちるデザインコンセプトを採り入れた。5分に一度スペシャルショーを演出し、したたり落ちる水滴を中心に光の輪が同心円状に波紋として屋上に広がる工夫があるとのことである。夜一度、観覧車に乗って自分の眼で確かめてみたい衝動にかられた。

受講者としての感想

外からあるいは下から眺めているだけでは駄目であろう。やはり、これはスニーカーでもはいて、実際に乗ってみる必要がある。乗り場に行ってみると若いカップルばかりで多少抵抗はあるが……。

巨大建築空間に動く空間があるということは魅惑的な仕掛けであろう。フェスティバルゲートは水平移動であり、ヘップファイブは垂直移動である。両方とも一度乗ってみなければ、安易に意見は吐けないというのが実感である。乗ってみれば、若い感性の一端でもわかるかもしれない。

真赤な夕焼けを背景とした観覧車。真夏の青空に融けこむ観覧車。きっと梅田の新しいシンボル景観として定着することだろう。

林達雄さん、楽しく夢のある話を聞かせていただき大変ありがとうございました。

（おざさ　みつひこ）

日　時　1999年1月26日㈫　18：30～20：30
会　場　日本建築協会サロン
講　師　林　達雄氏／竹中工務店設計部副部長
参加者　44名

デザイン史フォーラム「日本の住まいと西洋」—大阪大学豊中キャンパスで—

大阪大学文学部美学研究室は、㈶サントリー文化財団の協力を得て、大阪大学豊中キャンパスでデザイン史フォーラムを開催する。参加歓迎。

開催日　1999年 3 月24日(水)　9：40〜17：50

開催地　大阪大学基礎工学部シグマ・ホール
（大阪大学豊中キャンパス）
豊中市待兼山町1-5
大阪モノレール柴原下車・徒歩5分
阪急宝塚線石橋下車・徒歩20分

参加費　フォーラム参加費無料（懇親会費5000円）

●フォーラム概要（フォーラム終了後、懇親会）

・フランク・ロイド・ライトと日本美術／並木誠士氏（京都工芸繊維大学助教授）
・現代日本の住宅熱環境デザインと居住者の生活／松原斎樹氏（京都府立大学助教授）
・万国博覧会日本館の家具—1930年リエージュ博を中心に／緒方康二氏（夙川学院短期大学教授）
・インターナショナルとローカル／藤田治彦氏（大阪大学助教授）
・1930年代日本の国産鋼管椅子について／梅宮弘光氏（神戸大学専任講師）
・独立運営ミュージアムのマネージメント/Alexander von Vegesack 氏（ヴィトラ・デザイン・ミュージアム館長）
・国立近代美術館のデザイン・コレクションと2000年再開館について／Marie-Laure Jousset 氏（ポンピドゥー・センター・デザイン部長）
・空間のジャポニズム／小関利紀也氏（高岡短期大学名誉教授）
・ヴィトラ展におけるフランク・ロイド・ライトと日本／Mathias Schwartz-Clauss 氏（ヴィトラ・デザイン・ミュージアム学芸員）

参加希望をあらかじめ連絡（大阪大学文学部美学棟デザイン史フォーラム'99あて FAX06-6850-5684）すれば、フォーラム参加用ネームプレートが準備される。

『99-00（リセット）』—京都建築学生之会主催—

京都建築学生之会（京都大学・京都工芸繊維大学・京都府立大学・京都芸術短期大学専攻科で建築を学ぶ有志66名で構成）は、2年間の空白を経て、99年3月に合同卒業設計展を復活させる。入場無料。

"終わりが始まり"という意味を込めて、展覧会も座談会もテーマは『99-00（リセット）』。近代の反省とこれからの建築の方向性について現実を踏まえた議論の展開を企図している。

会場　京都府京都文化博物館（別館）
京都市中京区高倉三条上ル東片町

会期　1999年 3 月17日(水)〜 3 月21日(日)
10：00〜20：30　最終日は10：00〜18：00

展示　京都大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都芸術短期大学専攻科の学生の卒業設計作品

■座談会『99-00（リセット）』

日時　1999年 3 月21日(日)　14：00〜16：00

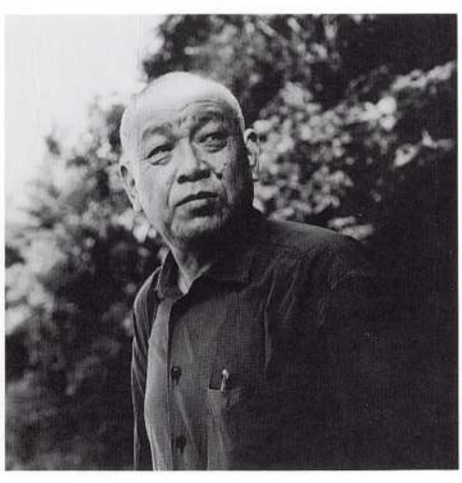
場所　同博物館別館2階講義室

参加　鈴木隆之氏（京都精華大学助教授）
塚本由晴氏（東京工業大学講師）

詳細は、TEL075-703-8168（大宅）へ。

INAX ギャラリー「現代棟梁・田中文男」

寺社や民家の修復・復元から店舗や現代住宅まで、木造の可能性を探った建築を手がけている棟梁・田中文男氏は、還暦を過ぎた今も精力的にメッセージを発信しつづけている。「仕事ができるやつはたくさんいるが、仕掛けられるやつがいないね」と現代社会を喝破する田中さんは、本業の木造建築を手がける傍ら、各地で職人塾を開いて、「仕事が仕掛けられる職人」を育てている。



INAX ギャラリー大阪では、田中さんの仕事を図面やパース、写真で年代順に紹介する。入場無料。

会　期　1999年 3 月 8 日(月)〜 5 月21日(金)
10：00〜18：00　毎週水曜日休館

会　場　INAX 大阪ショールーム2階
大阪市西区新町1-7-1　TEL06-6539-3518

なお会期中に、田中さんの講演会も開催される。

日　時　1999年 4 月23日(金)　18：30〜20：00

会　場　INAX 大阪ショールーム8階・会議室
大阪市西区新町1-7-1

演　題　「学んだこと、伝えたいこと」

参　加　無料。希望者は電話か FAX で INAX ギャラリー（TEL06-6539-3518、FAX06-6539-3521）へ予め申し込む。先着100名まで。

重要文化財「泉布観」一般公開



泉布観は大阪市内の最古の西洋建築で、明治3年2月に着工、翌4年2月に落成し、大阪造幣寮（現在の造幣局）の応接所として使われていたが、同22年に宮内庁に献納され、大阪行在所（天皇の旅行の際の仮の御所）となった。大阪市に移管されたのは大正6年。以後、大阪市立博物館が管理してきた。

設計者は英国人技師ウォートルス、建築様式はコロニアル式で、昭和31年6月28日、国の重要文化財に指定されている。なお、泉布とは貨幣、観は館を意味し、「泉布観」は明治天皇の命名になるもの。

場所　「泉布観」（大阪市北区天満橋1-1-1）
地下鉄：谷町線南森町・東約1km
同天満橋・北東約1.2km
京阪電車：天満橋・北東約1.2km
ＪＲ東西線：大阪城北詰3号出口・北西約0.6km
大阪天満宮1番出口・東約1km

期間　1999年 3 月20日(土)〜22日（月・振休）
10：00〜15：30　16：00まで観覧可能

公開　①直接、「泉布観」へ。
②建物保存上、見学に待ち時間あり。
③入館料は無料。

問い合わせは、大阪市立博物館（TEL06-6941-7177、FAX06-6941-4064）へ。

「北欧建築を巡る旅」に参加を

アールトの作品を中心に北欧建築を視察する旅が、ゴールデンウィークにデルファイ研究所により企画された。アルヴァー・アールト財団やフィンランド建築博物館の協力により、2コースに分かれて実施される。

●Aコース／1999年 4 月23日〜 5 月 1 日の9日間
見学／ヘルキシン→オタニエミ→バイミオ→タンペレ→セイナヨキ→ユバスキュラ→ヴィープリなど
費用／398000円（最少催行人員7名）

●Bコース／1999年 4 月23日〜 5 月 3 日の11日間
見学／ヘルシンキ→上記Aコース→ストックホルム
費用／428000円（最少催行人員7名）

申し込み、問い合わせは、近畿日本ツーリスト㈱銀座海外旅行支店（担当：永崎、TEL03-3562-4911）へ。申込締切日は3月23日(火)。

『建築知識』設計コンペ展

月刊『建築知識』誌の創刊40周年を記念して実施した設計コンペは、「バリアフリー住宅〜ユニバーサルデザインに向けて〜」を課題に、今後の新しい設計手法を期待し、「CAD・CGの活用」を要件として提案を募集し、880人の応募登録を数えた。

審査結果（審査委員：野村歡／元倉眞琴／古谷誠章／瀬良智機／澤井聖一）は3月24日に東京デザインセンターで発表され、以降3月30日まで同所で受賞作の展覧会が開かれる。入場無料。

ホームページはURL:http://home.k-chishiki.co.jp

会　期　1999年3月25日㈭〜3月30日㈫
11：00〜19：00（最終日30日は17：00まで）

会　場　東京デザインセンター
東京都品川区東五反田5-25-19

「建設技術開発賞」創設・公募

㈶国土開発技術研究センターは、「建設技術開発賞」を創設し、その第1回顕賞者を募集している。

応募技術　住宅・社会資本整備にかかわる計画・設計手法・施工方法・維持管理手法・材料・機械など、すでに開発され実用化された新しい建設技術を対象とする。

応募資格　民間企業において、応募技術の開発を主体となって実施した個人または法人。なお共同研究などによる技術開発は、全開発者連名での応募を原則とする。

応募期間　1999年3月1日㈪〜4月9日㈮

表　彰　最優秀賞1点、優秀賞数点、奨励賞数点

応募に際しての詳細問い合わせは、㈶国土開発技術研究センター研究第二部（TEL03-3503-0399）へ。

三田市、特定行政庁へ

兵庫県三田市は1999年4月1日より兵庫県から特定行政庁の移管を受け、建築確認申請などに関する業務を行う。問い合わせは、三田市都市整備部建築指導課特定行政庁準備担当（TEL0795-59-5115）へ。

大阪府建築指導課分室開設

大阪府建築指導課は、本年4月1日から箕面市及び門真市に分室を開設し、それぞれの市内の建築確認等の事務を行うこととなった。これは2001年4月1日を目途に進められている箕面・門真両市の特定行政庁への移行準備のため。

●分室設置場所

箕面市西小路4-6-1　箕面市役所内

門真市中町1-1　門真市役所内

●分室設置期間

1999年4月1日〜箕面・門真両市が建築主事を設置する日の前日

●分室で処理する事務

建築基準法第6条、7条・7条の3、9条、第10項、15条第1項、18条、42条第1項第5号（審査事務のみ）、45条（審査事務のみ）、及び住宅金融公庫受託事務

詳しくは、大阪府建築都市部建築指導課（TEL06-6941-0351）、箕面市都市計画部開発指導課（TEL0727-23-2121）、門真市都市整備部開発指導課（TEL06-6902-1231）へ。

「ARCHITECTURE TOKYO 99」開催

㈳日本能率協会の主催、㈳日本建築家協会の共催で、「ARCHITECTURE TOKYO 99」が開催される。1995年3月の第1回開催以来隔年で実施され、3回目の今回のテーマは“共生する人間環境と地球環境”。

会期　1999年3月9日㈫〜12日㈮　10：00〜17：00

会場　東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）の東1ホール——入場料は一般1000円——

展示　●5つの展示ゾーンでは、人中心の快適空間・環境を創り出すための、あるいは地球環境保全を支援するための製品・技術・サービスを展示。

●「100年建築——ロングライフ（長寿）ビルをめざして」——建設省、関連団体、関連企業の100年建築への取り組みコーナーを設置——

●「建築の潮流紹介コーナー」——98年「新人賞」「BCS賞」「BELCA賞」受賞作品と、公共建築等注目の建物模型約20点を展示。

西日本トータルリビングショー

国内外より156社・団体の住宅関連企業が一堂に会する住宅産業展は18回目を迎え、そのテーマは「やすらぎの住・環境」。

会　期　1999年3月18日㈭〜21日㈰　10：00〜17：00

会　場　西日本総合展示場・本館——入場料200円——
北九州市小倉北区浅野3-7-1

展　示　室内換気・空調システム／床暖房／ビルトイン家具や建具／有田焼の洗面台やインテリア／輸入住宅・建材／新聞紙をリサイクルした高断熱・吸音材／ガーデニングコーナーほか

●併催事業＆セミナー

①住まいに活かすソーラーシステム展

②西日本トータルリビングショー開催記念セミナー

「今後の住宅産業が果たす役割」本城薫氏（通産省）

「生活福祉空間づくりと住宅と生産行政」和泉洋人氏（建設省）

……日時／3月18日㈭　13：30〜14：30
会場／北九州国際会議場・国際会議室
定員／120名（聴講無料）

③カナダの福祉・健康住宅セミナー

……日時／3月18日㈭ 13：00〜17：00 定員／120名
会場／北九州国際会議場・21会議室

④北米住宅建材施工技術セミナー

……日時／3月19日㈮　10：00〜17：00
会場／アジア太平洋インポートマート8階

⑤輸入住宅セミナー

「ロケット博士が建てた輸入住宅」橘武史氏（九州工業大学助教授）

……日時／3月20日㈯ 13：30〜15：30 定員／120名
会場／北九州国際会議場・国際会議室

⑥ソーラーシステムシンポジウム

“地球温暖化防止に役立つ太陽熱利用”を一般向けに解説／北野大氏（淑徳大学教授）

……日時／3月21日㈰ 13：00〜16：00 定員／400名
会場／北九州国際会議場・メインホール

詳細問い合わせは、㈶西日本産業貿易見本市協会内トータルリビングショー事務局（TEL093-511-6348）。



設計用荷重・入力シンポジウム

設計用荷重のなかでも、構造安全性に及ぼす影響が大きく、また不確実性も大きい「風荷重」「地震入力」にテーマを絞り込んで、研究者、実務設計者によるシンポジウムが開催される。主催は日本建築学会近畿支部。

日　時　1999年3月11日㈭　13：00〜17：00

会　場　建設交流館グリーンホール（8階）
大阪市西区立売堀2-1-2

定　員　200名（定員に達し次第、締め切り）

参加費　学会会員5000円、協賛団体会員6000円、その他8000円。テキスト代含む。

申込み　所要事項を記入した申込書に参加費を添えて、日本建築学会近畿支部「性能指向型」係（〒550-0004　大阪市西区靱本町1-8-4、TEL06-6443-0538）へ。銀行振込は不可。

●プログラム概要と講師

⑴設計用荷重・入力の評価法と課題
神田順（東京大学）、谷池義人（大阪市立大学）、鈴木祥之（京都大学）の各氏

⑵実務設計における荷重・入力評価事例
山浦晋弘（安井建築設計事務所）、大竹和夫（竹中工務店）、多賀謙蔵（日建設計）、西村勝尚（大林組）、佐藤幸雄（奥村組）、木林長仁（竹中工務店）の各氏

日本建築協会

月間の動き

【平成10年12月分】

理事会

第5回定例理事会
14日　4時30分～5時20分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか24名
議　事　(1)国の「公益法人の指導監督基準等」に関する件
(2)入・退会者承認の件
(3)協賛名義使用承認の件
(4)事業報告

編集委員会

第9回会員企画小委員会
1日　7時～8時30分・於本会会議室
出席者　伊藤委員ほか3名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第8回構造分科会
2日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　田辺幹事ほか7名
議　事　「構造の頁」の企画
第7回施工材料分科会
3日　4時～6時・於本会会議室
出席者　十倉幹事ほか4名
議　事　(1)施工材料特集の企画
(2)「施工材料の頁」の企画
第9回素材と技術が生み出すデザイン幹事会
8日　6時30分～8時30分・於本会会議室
出席者　遠藤幹事ほか3名
議　事　1～3月号テーマの内容検討
第8回広告企画小委員会
10日　5時～6時・於本会会議室
出席者　小幡副委員長ほか5名
議　事　(1)1月号「らしさのデザイン」「九州」特集及び謹賀挨拶広告経過報告
(2)2月号「大阪市都市整備局」特集広告経過報告
(3)3月号「北信濃：街並み修景と地域文化の再構築」特集経過報告
(4)独自特集企画経過報告
(5)作品作風
(6)平成11年度新建築調査の方法について
(7)収支状況報告
第9回編集委員会
10日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　内田委員長代行ほか4名
議　事　(1)1月号「らしさのデザイン」「建物を綾どる小粋なモノ」特集経過報告
(2)2月号「都市のパブリック」「大阪市都市整備局」特集経過報告
(3)3月号「北信濃：街並み修景と地域文化の再構築」特集経過報告
(4)シリーズ頁経過報告
(5)表紙改訂について
(6)収支状況報告
第2回計画分科会―インテリア・住宅系―
14日　7時～9時・於本会会議室
出席者　小島委員ほか5名
議　事　6月号「インテリア・住宅」特集企画
第9回設備分科会
15日　6時30分～8時30分・於本会会議室
出席者　山根幹事ほか4名
議　事　(1)「基礎講座」の報告
(2)8月号設備特集の企画
(3)「設備の頁」の企画
第9回作品作風小委員会
16日　7時～8時30分・於本会会議室
出席者　前川副委員長ほか7名
議　事　(1)作品の掲載状況・掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「gallery」「SKETCH BOOK」報告・予定
第9回法令分科会
18日　4時～7時・於本会会議室
出席者　炭崎幹事ほか5名
議　事　(1)7月号「改正建築基準法」特集の企画
(2)「法令コーナー」の企画

事業委員会

第8回若い会員の集い小委員会
2日　7時～9時15分・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか3名
議　事　(1)今後の予定
(2)「30's EYE 記録編集」
(3)当小委員会の今後のあり方
(4)「委員の時間」
第1回近代建築見学分科会
8日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　山形・太田・橋本特別幹事
熊野主査ほか4名
議　事　(1)第8回「大阪市中央公会堂」の検討
(2)今後の企画
第3回30's EYE 記録編集分科会
9日　7時30分～10時・於本会会議室
出席者　ゲスト　藤谷充代氏
米井主査ほか8名
議　事　出版物のテーマ、出版方法の検討

建材委員会

第9回建材委員会
9日　3時30分～5時30分・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか8名
材料説明：高性能複合外壁システム（NSパネル）
議　事　今後の検討建材

出版委員会

第8回出版委員会
17日　5時30分～6時50分・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか11名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)第18回〈プロのノウハウ〉講座実施報告

教育委員会

第2回工高生教育委員会
16日　6時～7時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか11名
議　事　(1)第44回工高生デザインコンクール実施報告
(2)次年度第45回工高生デザインコンクール募集規定の件

見学会

近代建築見学会（第8回）大阪市中央公会堂
15日　2時～4時30分・参加者55名

プロのノウハウ講座

第18回「徹底解説〈大改正〉建築基準法」
4日　6時～8時・於本会会議室
講師　高木任之氏
受講者　19名

建築クラブ

第320回朝食会
8日　8時30分～10時・於リーガグランドホテル
演　題　「大阪弁の使い勝手」
講　師　もず唱平氏（作詞家）
参加者　47名

入会者（敬称略）

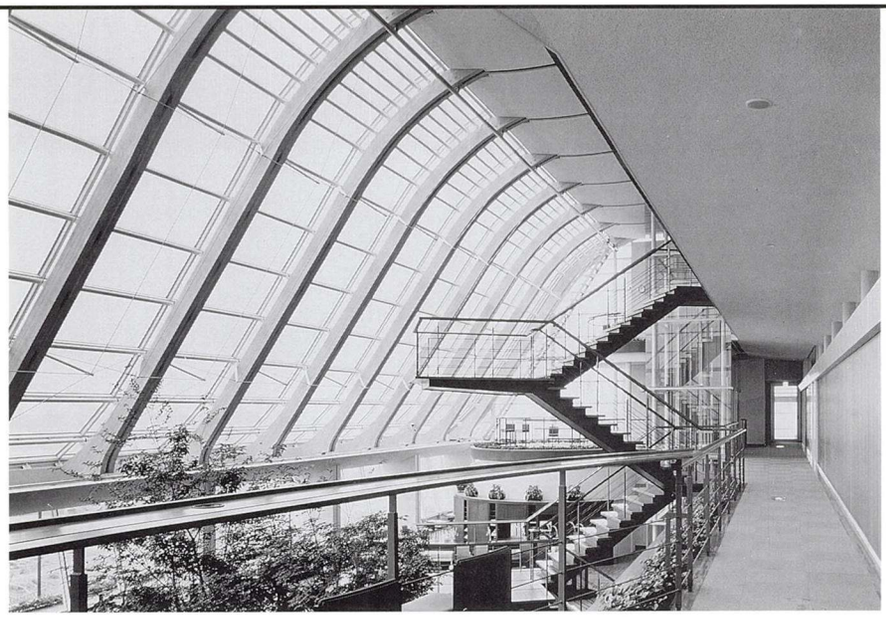
〔個人会員4名〕
北山　啓三（大阪市都市整備局）
黒岩　優（アーバンライフ）
枇杷　健一（前川治彦建築研究所）
田中　知里（アトリエDLEAM）

■訂正とお詫び

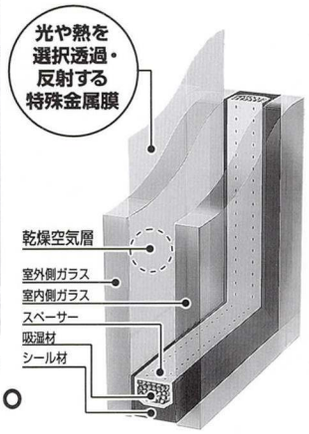
本誌平成11年2月号作品作風欄「京都市山村都市交流の森『森林文化交流センター"森愛館"』」6頁の大きな写真について、撮影者名に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

撮影者　島　修一

AGC
ASAHI GLASS COMPANY



物件名：東京ガス・アースポート
所在地：横浜市
設　計：日建設計
施　工：(株)熊谷組



採光と遮熱、同時にできるペヤグラスです。

旭硝子の高遮熱Low-Eペヤグラス《サンバランス》は、2枚のガラスのうち、室外側ガラスの内面に特殊金属膜をコーティングしたペヤグラスです。夏は日射熱の侵入を、冬は暖房熱の流失を抑え、ビル内を快適に保つとともに冷暖房効率をアップ、地球温暖化防止のための二酸化炭素（CO_2）排出量削減にも大きく貢献します。しかも可視光線の透過率が高いので、明るさや眺望は損ねません。人にも地球にも負担をかけない調和のとれた建築のための開口部には《サンバランス》です。

次世代省エネ基準をクリアする
高遮熱Low-Eペヤグラス
サンバランス®

旭硝子株式会社
本社〒100-8305東京都千代田区丸の内2-1-2／札幌支店☎011(212)3876／仙台支店☎022(215)6611／東京支店☎03(3283)9413／名古屋支店☎052(583)2806／大阪支店☎06(6373)5814／福岡支店☎092(441)4122／広島営業所☎082(248)3737／ガラスプラザ(ショールーム)☎03(5322)6530

INAX

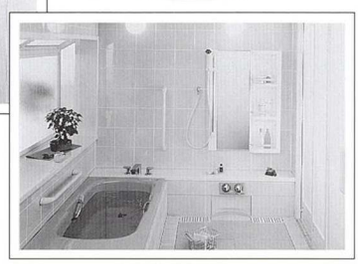
水まわりをまるごと抗菌に。
これからの住宅に、
INAXがおすすめします。


洗面化粧台


トイレ


キッチン


タイル


バスルーム

▷▷▷ INAXなら、水まわりまるごと抗菌。新アイテムも続々登場。◁◁◁

抗菌仕様が標準仕様。
水まわり商品のほとんどを抗菌化。お客様にトータルでご提案いただけます。

清潔、そして、汚れに強い。
抗菌効果で水まわりを清潔に保つうえ、黄バミ・ヌメリを抑え、お手入れ簡単。

お値段はそのまま。
抗菌仕様でも、お値段はこれまでと変わりません。

株式会社INAX　中部統括支社　〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目16番20号
☎052-201-1717　INAXホームページ http: //www.inax.co.jp/

水まわりまるごと抗菌
KILAMIC INAXのキラミック



時代が求める建材を。

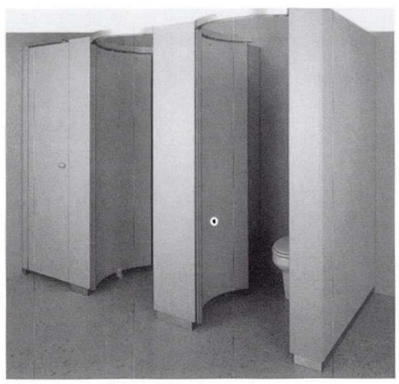
1999年エービーシー商会は、厳重な品質管理、高齢化社会への配慮、
ニーズを満たす新商品開発の3つのテーマにチャレンジし、
より大きな安心とご満足をお届けしてまいります。

ABC shokai SHOWROOM

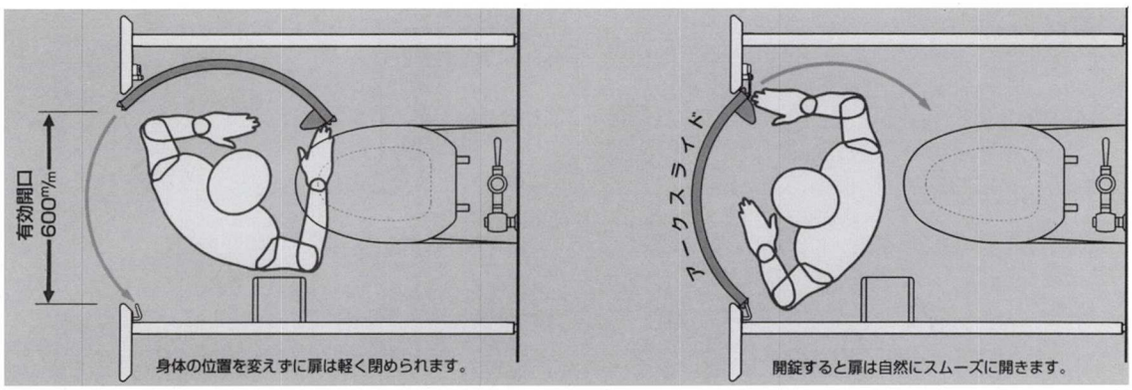
㈱エービーシー商会
本　　社 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-12-14
TEL 03(3507)7132
名古屋営業所 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26昭和ビル4F
TEL 052(251)4411
ショールームへどうぞ 東京 03(3507)7117 大阪 06(6944)4903
※AM10:00～PM6:00（土曜・日曜・祭日・年末年始・夏休み休館）
ホームページアドレス　http://www.abc-t.co.jp

画期的な扉の開閉（アークスライド）方式を採用した

トイレブース ウェイブレット

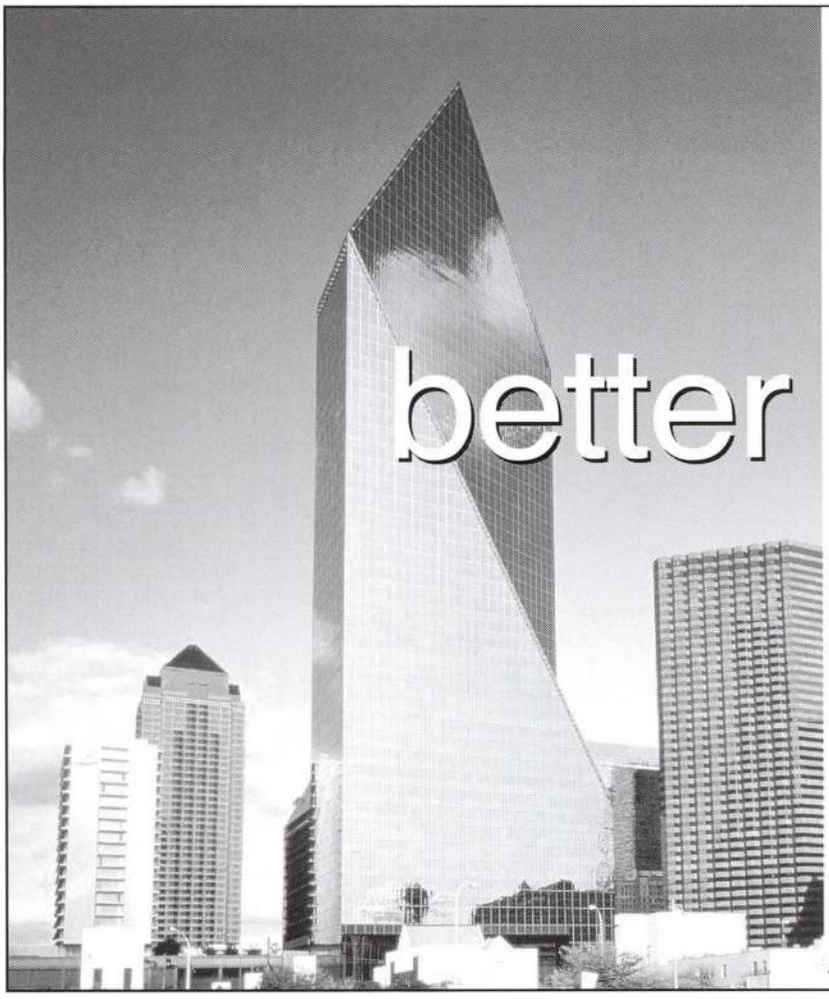


スペースの限られたトイレブースでは、扉の間口寸法が小さい内開き扉が主流ですが、扉の開閉の為に、どうしても使う人の動作が大きくなりますし、外開き扉では、急に扉を開けると通路にいる人と接触する危険があります。そのような問題を解決するために、扉のあるべきカタチと、動きを追及して生まれた（アークスライド）の扉開閉方式。扉は使う人のまわりをとり巻くように動きますので、開け閉めが大変ラクでスムーズに行えます。
操作性と安全性に優れたウェイブレット。やさしく、快適なトイレ空間が構成できます。



よい品は結局おトクです
オカムラ 株式会社 岡村製作所　〒460-0008 名古屋市中区栄2-11-30 セントラルビル1F　TEL 052(221)6291

お問い合わせ・ご相談は◎お客様サービスセンターへ
フリーダイヤル 0120-81-9060 月曜～金曜（祝祭日を除く）9：00AM～6：00PM



三協アルミ

better to BEST

暮らしにいちばんの快適さをお届けしたい。
住宅用建材からビル用建材まで。
三協アルミの技術です。

ALLIED BANK TOWER

三協アルミニウム工業株式会社
〒933-8610 富山県高岡市早川70 広報室 TEL 0766-20-2332
ホームページ http://www.sankyoalumi.co.jp/

金属屋根の三晃金属が自信をもって送るシート防水システム

20年間メンテナンスフリーのハイタフ



〈特徴〉

□ハイタフシートはエマキュアテスト、300万ラングレー(30年間分相当)の日光照射に、硬化、クラックの発生なし

□超耐候性により、紫外線、塩水、化学汚染物質にもびくともしない

□熱反射にすぐれ、外気温より3℃しかあがらず、外断熱と併せ、空調コストを節約

□接合部は熱風融着で一体化し、完全な防水性能を発揮

□駆体の動きに充分追随するファスナー緊定による絶縁工法

Hi-Tuff ハイタフ ルーフィングシステム
ROOFING SYSTEMS

三晃金属工業株式会社

本　　社 〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目9番2号第1ぬり彦ビル ☎03(3567)3551
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3丁目25番9号堀内ビル4F ☎052(582)0311(代表)
三河営業所 〒444-0906 岡崎市宇頭北町1−4−7 ☎0564(32)0891(代表)

住友ゴムの
塗り床・弾性舗装材

産業廃棄物処理場 …… 土木用シート
コンクリート防食 …… 下水道用ライニング
ウォーターフロントに 浮桟橋システム …… ポンツーン
美しい海を次世代へ …… 汚濁防止膜
船舶の安全な接岸　岸壁用 …… 防　舷　材
オフセット印刷用 …… ブランケット

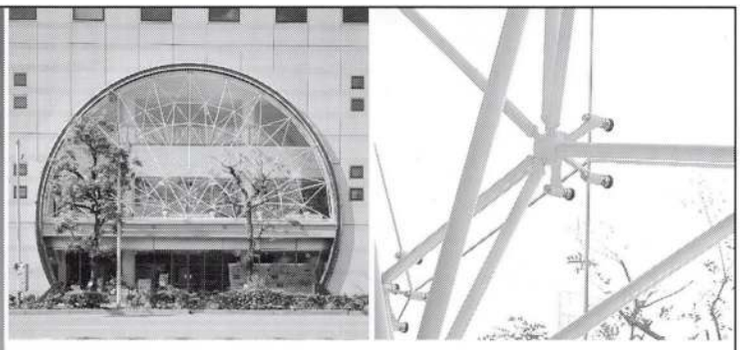
各種工場・倉庫・クリーンルーム・一般建築の床 …… ***グリップコート***
学校・公共体育館・多目的ホールの床 …… ***ラザーコート***
ゴルフ場歩径路・テニスコート・バレーコート・走路 …… ***マスターズコート***
テニスコート・ゲートボールコート …… ***オムニコート***
野球場・サッカー場・校庭・陸上競技場 …… ***オムニターフ***
“もしも”の地震に揺るがぬ自信 …… ***免震支承***（LRB．NR）

住友ゴム工業(株)中部地区総販売元

株式会社 住ゴム産業中部

本　社　〒465 名古屋市名東区藤森二丁目18番地　電話〈052〉774－2122
営業所　静 岡・浜 松・富 山・金 沢





写真：南関東自転車競技会ビル　設計／松田平田

Mak/lax

眺めのよい空間づくりに。

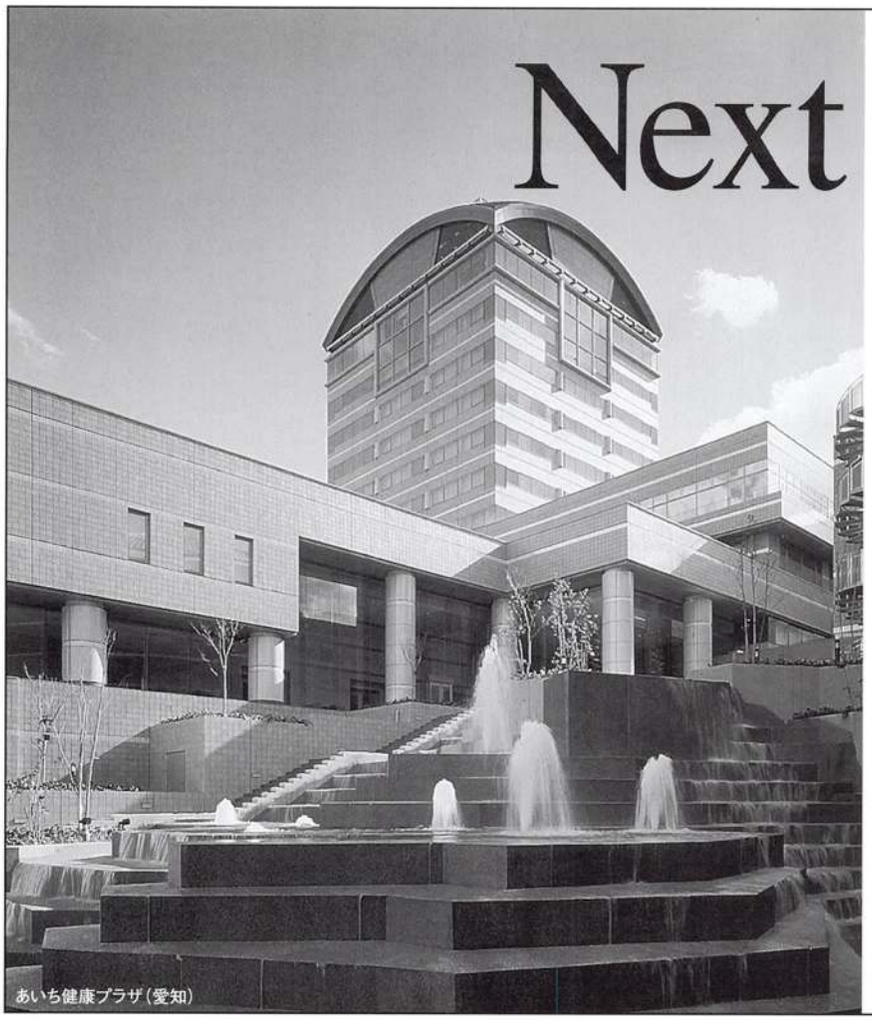
TMトラス一体型DPGシステム タイヨウ・ビューシステム

TVS（タイヨウ・ビューシステム）は
「眺めのよい空間づくり」を製品コンセプトに、
太陽工業のTMトラス技術の応用から生まれた
TMトラス一体型DPG（Dot Point Glazing）システムによる
カーテンウォール、および屋根の最新モデルです。

太陽工業株式会社

大阪市淀川区木川東4-8-4　〒532-0012　TEL(06)6306-3065
東京都目黒区東山3-22-1　〒153-0043　TEL(03)3714-3461
名古屋市中村区名駅南2-8-11　〒450-0003　TEL(052)541-5120

● 札幌 TEL(011)822-2111 ● 仙台 TEL(022)227-1364 ● 広島 TEL(082)261-1251
● 福岡 TEL(092)411-8003 ● 大宮 TEL(048)667-7651 ● 千葉 TEL(043)243-4770
● 横浜 TEL(045)316-1915 ● 新潟 TEL(025)233-3211
● シカゴ・ニューヨーク・コンスタン（ドイツ）・台北
● 一級建築士事務所　特定建設業者大臣許可(特-8)第381号
● (社)日本膜構造協会正会員　(財)日本体育施設協会特別会員


あいち健康プラザ（愛知）

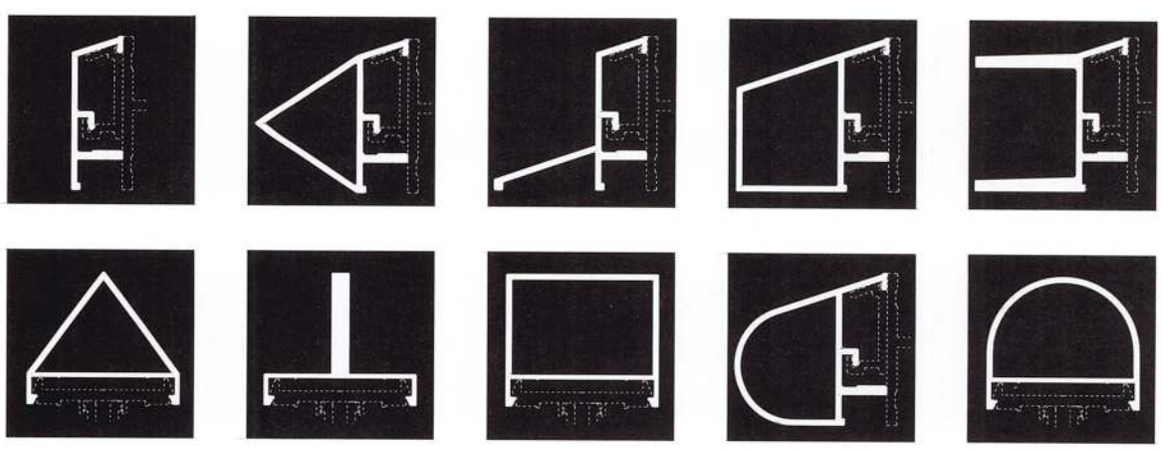
Next Scene

未来を見つめる技術も
未知の分野への挑戦も
人と環境の間に通いあう
快適な関係を築きたいから。
どこでも、どこまでも
いつでも、いつまでも
快適シーンを創造していく
立山アルミです。

人間（ひと）にやさしい快適空間をめざして
立山アルミ
立山アルミニウム工業株式会社
〒933-8602 富山県高岡市早川550番地
総務部 TEL.0766-20-3121
ホームページ http://www.tateyama.co.jp/

156種類ものバリエーション
EXカーテンウォールII

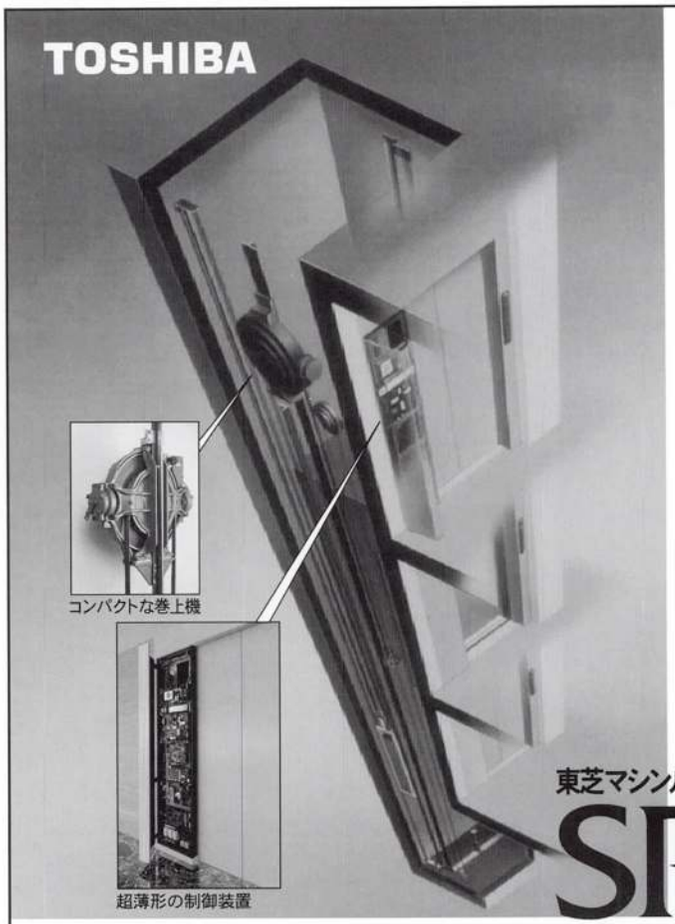
見付幅45mmと60mm、化粧カバーは方立用6種類、無目用7種類。EXカーテンウォールIIなら、自由な組み合わせで多彩な意匠への対応が可能です。



あらゆる意匠表現に対応したい、そんな意図から開発されたのがEXカーテンウォールⅡです。方立、無目ともに見付幅45mmと60mmを用意。さらに方立用6種類、無目用7種類の化粧カバーを組み合わせることで、なんと156種類もの幅広い意匠表現を可能にしました。もちろん耐震性能は見付け45mmでも層間変位1／100に対応、またスリム60PGに出幅200mmのフィンを付ければ空調負荷を低減して省エネが図れるなど機能面も十分に考慮ずみです。トステムの開発体制を駆使して従来のオーダーメイドに比べコストを抑え、工期短縮も可能になりました。

TOSTEM トステム株式会社 ビル建材本部

TOSHIBA



コンパクトな巻上機

超薄形の制御装置

エレベーターから機械室が消えた！

「エレベーターから機械室をなくした」
画期的なエレベーター
東芝マシンルームレスエレベーター〈スペーセル〉。
マシンルームレス以外にも、
数々の優れた特長があります。
まず、その豊富なバリエーション。
〈スペーセル〉は、マンションなどの住宅用だけでなく、
オフィスやテナントビルなどの乗用、
病院など医療施設の寝台用と充実しています。
さらに、最大昇降行程は60m。
20階建ての建築物にも対応するなど、
設計・デザインの可能性をいちだんと拡大。
まさに時代が求めた新世紀のエレベーターです。

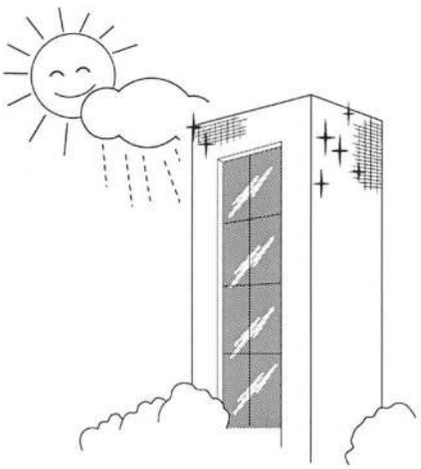
東芝マシンルームレスエレベーター スペーセル

SPACEL誕生



●お問い合わせは —— 東芝エレベータ株式会社 中部支社
〒450-8607 名古屋市中村区名駅南1-24-30(名古屋三井ビル本館)
TEL (052)564-8517(代) FAX (052)565-9949

太陽と雨の恵みがある限り、
キレイでいられる
タイルがあります。

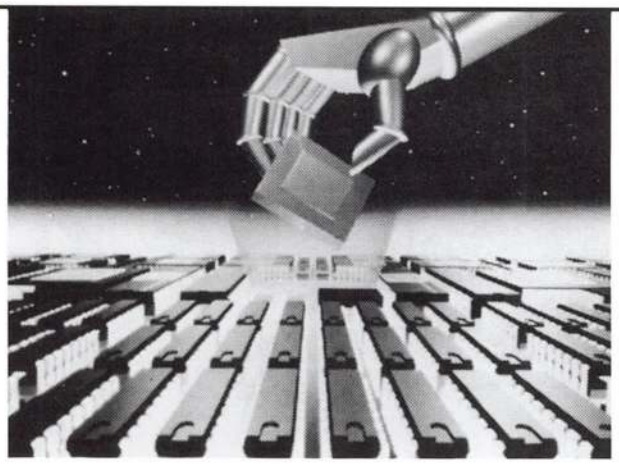


HYDROTECT

TOTO

世界初、セルフクリーニングするタイル『ハイドロテクトタイル』誕生

※お問い合わせ・カタログのご請求は東陶機器（株）名古屋支社タイル販売課
〒460－0003 名古屋市中区錦2丁目19番25号
TEL. (052) 201-0214 FAX. (052) 201－0251



業務内容

- 工場設備・ビル設備の販売及び据付
- 産業用電機・電子機器の販売
- 家電製品及び住宅用設備機器の販売
- 情報通信機器、制御システムの開発・製造
- 洗浄装置、検査装置の開発・製造
- 空調設備、クリーンルーム等の設計施工・保守
- 電気工事、通信工事の設計施工・保守

東朋テクノロジー株式会社

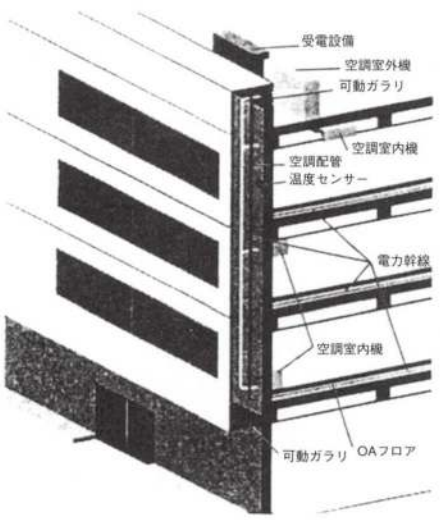
取締役社長 富田和夫

本　社／〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目10番22号　TEL(052)251-7211(代)
工　場／〒492-8074 稲沢市下津下町東五丁目1番地　TEL(0587)24-1211(代)
事業所／豊田・名古屋南・大垣・江南・上海駐在員事務所/上海東朋電子技術有限公司

自然との共生に挑む

TOYO Shutter

ビルが呼吸を始めた……



ビルの省エネ対策、インテリジェント化を実現するビルファイン。

耐震補強・省エネ外装改修システム

BUILFINE®

ビルファインは、温度センサーの働きで、可動ガラリが開閉し、快適なビル環境を維持する省エネビル外装改修システム。春夏秋冬の気温にあわせ、内壁と新壁との空気の流れを調節し、ビル全体の省エネルギー化を実現します。また、電信電話や光ファイバー、電力幹線等の新設や増設に対応。インテリジェントビル化にも適応した次代のリファインシステムです。

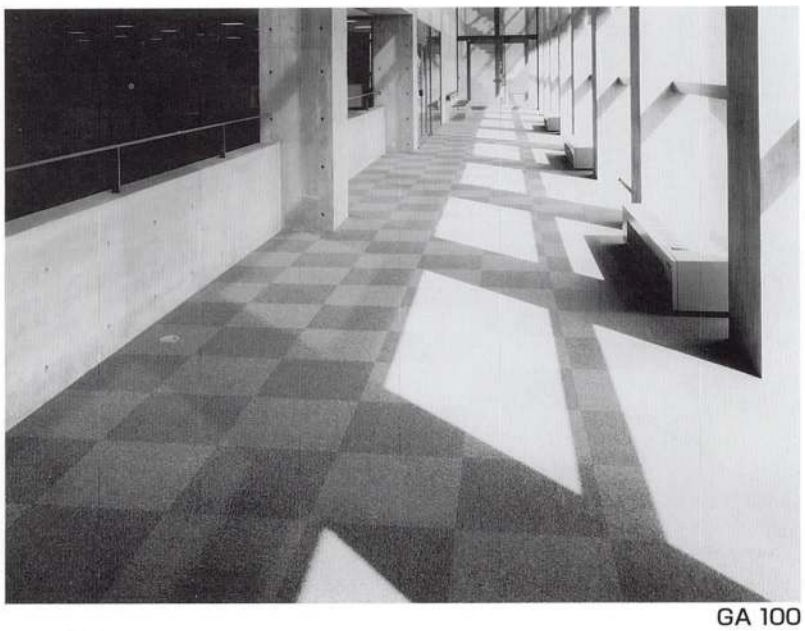
■シャッター ■ドア ■カーテンウォール ■扉用ハンドル

東洋シヤッター株式会社

名古屋支店　名古屋市中川区北江町2丁目12番地　TEL 052 (352) 8061
本　　社　大阪市中央区南新町1-2-10 TSビル　TEL 06 (6943) 6571
東京本社　東京都港区六本木6-3-18 第一地所麻布ビル TEL 03 (3479) 2911

信頼と実績の東リ タイルカーペット

オフィスから公共施設まで汎用性に優れたタイルカーペットシリーズ。
表面材には優れた耐久性と多彩なカラーバリエーションをご用意しました。



GA 100



GA 7000

東リタイルカーペットGAシリーズは15タイプ。
プリントタイルのGFシリーズもあります。

**東リ
タイル カーペット
GAシリーズ**

おかげさまで80周年
TOLI
東リ株式会社

【URL】http://www.toli.co.jp

名古屋第1営業所 TEL.052(733)3471　名古屋第2営業所 TEL.052(733)3472　東日本営業開発部 TEL.03(5403)2067　西日本営業開発部 TEL.06(6943)1645　名古屋ショールーム TEL.052(202)1691
静岡営業所 TEL.054(237)4471　浜松営業所 TEL.053(460)7638　金沢営業所 TEL.076(262)3100



商品名:電動ウカイ式ロールスクリーン(特殊仕様)

オブジェのような
優雅なシルエット。
ニチベイの
電動ウカイ式ロールスクリーン。

電動ウカイ式ロールスクリーンは、
従来のロールスクリーンの
イメージを一新した画期的な仕様です。
エレガントでソフトなスクリーンが天窓を美しく演出。
一斉操作はもちろん一列ごとの操作も可能です。

株式会社ニチベイ

本社/〒103-0027東京都中央区日本橋3-15-4
ビル事業部営業推進室 / TEL.03-3272-2233
名古屋営業所 / 〒454-0022　名古屋市中川区露橋1-16-19　TEL.052-354-7011

パイロクリア®

耐熱強化ガラス（乙種・甲種防火戸用）

PYROCLEAR®

Fire And Safety Rated Glass

高強度で安全なワイヤレス防火ガラス 特許出願中



特長

- **●高強度で安全**
  超強化処理を施した安全ガラスです
- **●多彩なカラーバリエーション**
  25色のカラーで建物に豊かな表情をつくりだします
- **●ワイヤレス**
  網のないクリアな視界が得られます
- **●ワイドなサイズ**
  最大寸法は2400×1800㎜とワイドです

用途

- **■乙種防火戸用ガラス**
  通則認定サッシとの組み合わせ、または個別認定の取得
- **■甲種防火戸用ガラス**
  個別認定の取得（8ミリ厚使用）

⊙日本板硝子株式会社 名古屋支店

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号(住友生命名古屋ビル) TEL(052)562-5455 ホームページ：URL:http://www.nsg.co.jp/



ビルには独自の個性が有り、都市景観の一部として街を美しく演出する役割もになっています。不二サッシは、外壁材カーテンウォールを通して、この都市を彩る役目のお手伝いをさせていただいています。私たちの技術が新しい建築文化を創造していきます。

窓から夢をひろげていきます 不二サッシ

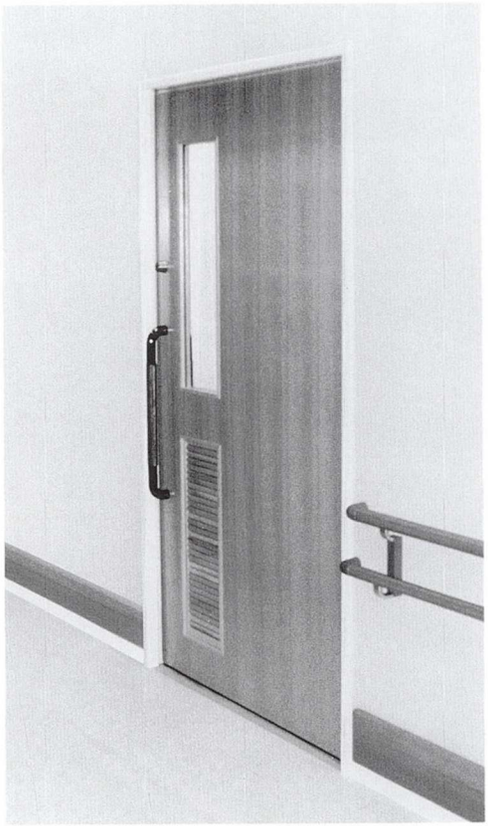
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-2-25
電話 052(582)7511(代)

文化シヤッター

夢を動かす技術がある。

新発売

軽い引き力で、
引戸は壁のなかへ
スッキリと収納



カームスライダー

自動閉鎖装置付引戸 [壁収納タイプ]

納まりの意匠性を高めた[壁収納タイプ]新発売。引戸はスッキリと壁のなかへ——。見た目も美しく、格調の高さを演出します。

- ●軽い引き力で開き、手を放すと自動的に静かに閉じ、人にやさしく、つかみやすい大型把手を採用し、操作性をさらに向上させています。
- ●上吊方式で床面にレールがなく車椅子やストレッチャーの通過もスムーズです。
- ●引戸には手詰防止ゴムを付け、安全性を高めています。
- ●抗菌仕様の把手も用意しています。
- ●表面材はスチール製4色、木製3柄のほか、オーダー色にも対応します。

文化シヤッター株式会社 / 中部営業推進部
〒460-0012 名古屋市中区千代田1-1-25 中川ビル 4F ☎052-733-1254
URL http://www.bunka-s.co.jp/

Panasonic

業界初
ノンフロン発泡剤+省エネ+省資源
時代のニーズ＝〈環境〉を徹底的に視野に入れたエアハンです。

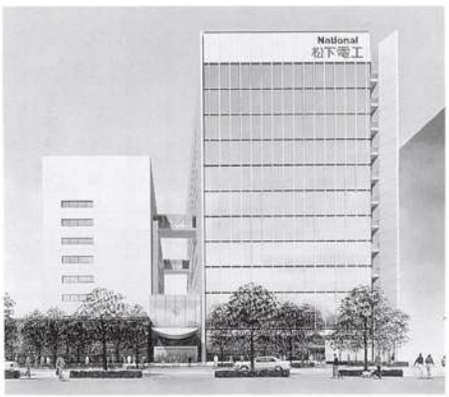


エコパネルエアハン
〈EPシリーズ〉

●松下電器産業株式会社 公共システム営業本部 中部支店
名古屋市東区泉1-23-30 〒460-0001 TEL (052)962-5345

●松下電器産業株式会社 建設システム営業本部 中部支店
名古屋市東区泉1-23-30 〒460-0001 TEL (052)951-6010

National
松下電工



バリアフリー＆介護増改築の設備や、
マルチメディア、省エネのあかりなど

ひとつ先の
暮らしが見える、
ショウルーム。

松下電工
NAiSショウルーム
名古屋

〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号
TEL.(052)583-8281 FAX.(052)583-1682
開館時間/10:00~17:00 休館日/水曜日・お盆・年末年始

ショウルームの情報がご覧いただけます。
ホームページ http://www.mew.co.jp/naisnagoya/



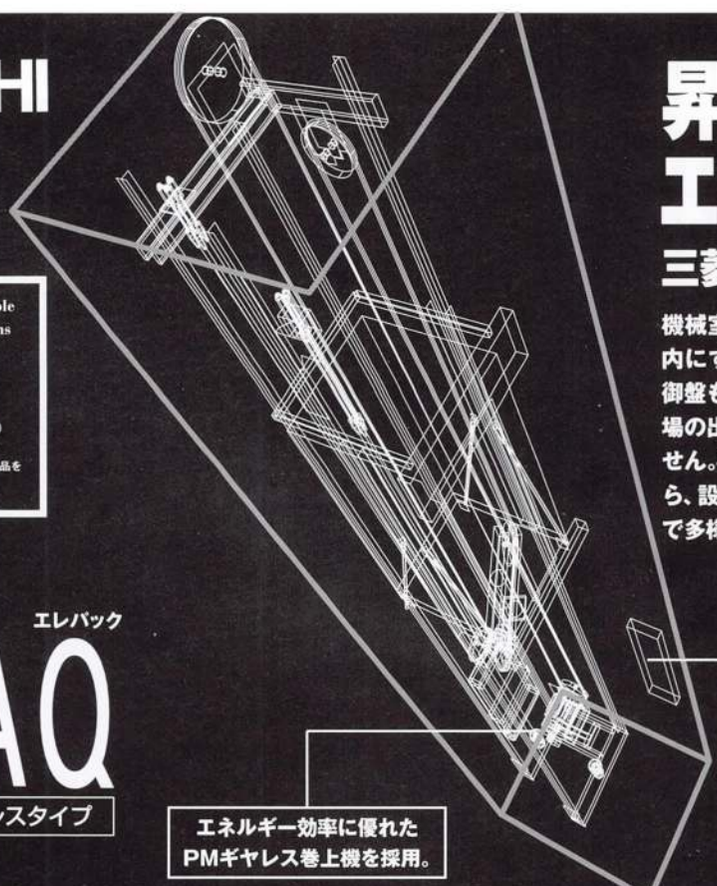
名駅南に 中部地区最大級の住まいのショウルーム。
4.10(土) オープン。

A&i
快適を科学します

MITSUBISHI
三菱電機

Efficient, Reliable & Comfortable
Vertical Transportation Systems
All Over The World
●
効率がよく(Efficient)
信頼性に優れ(Reliable)
快適な移動空間の創造(Comfortable)
エレベーターの3つのキーワードを基に
そのすべてにおいて、世界トップクラスの製品を
全世界に向けて提供します。

新登場
エレパック
ELEPAQ
三菱エレベーター／機械室レスタイプ



昇降路だけの
エレベーター
三菱〈エレパック〉誕生。

機械室にあったすべての機器を昇降路内にすっきり収納しました。もちろん制御盤も昇降路内に設置。エレベーター乗場の出入口わきなどに置く必要はありません。昇降路だけのエレベーターですから、設計の自由度がアップ、すべての階で多様な乗場デザインを実現できます。

薄形制御盤を昇降路内に収納。
全階で多様な乗場意匠を実現。

エネルギー効率に優れた
PMギヤレス巻上機を採用。

三菱電機株式会社

お問合せ・資料のご請求は……三菱電機株式会社 中部支社 ビルシステム部 名古屋市中村区名駅3丁目28番12号(大名古屋ビル内) TEL〈052〉565-3160

●世界のロックメーカー

リモコンキーのボタンを押すだけで、楽楽(らくらく)施解錠！

電池式なので配線不要、取付けも簡単です。

らくらく 楽楽Key

■錠の施解錠は扉に近づいて(1m以内)リモコンキーのボタンを押すだけ、音で確認もできます。
■リモコンキーの登録と抹消は錠本体の制御部で簡単に行え、鍵違い数は約2億6千万通りです。
■錠本体に電源・制御部・アンテナを一体化、安価にリモコンキーシステムが利用できます。
■電源配線工事が不要で取付けも簡単です。
■リモコン錠、リモコンキーの電池寿命は約1年、電池交換はドライバー1本で簡単にできます。

＊その他、エントランスの自動ドア、宅配BOX、駐車場ゲートなどリモコンキーとの連動も可能です。



リモコンキー
(RR-TRK)



リモコン錠
(U9RR420-1型)

MIWA

美和ロック株式会社

名古屋支店／名古屋市千種区千種3丁目37番13号 TEL.052(731)0555(代) 〒464-0858
東京本社／東京都港区芝3丁目1番12号 TEL.03(3452)5551(代) 〒105-8510
美和ロックについてはホームページでもご案内しています。http://www.miwa-lock.co.jp/

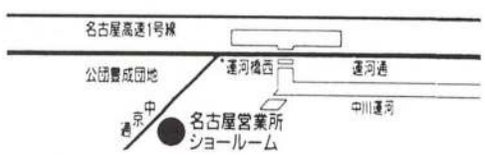
心豊かな遊創空間に向けて、進化し続ける
Artware Doorhandles。

UNION DOOR-HANDLES neo ISM

ユニオンドアハンドル ネオ-イズム CATALOG

UNION 建設環境金属製品の 株式会社ユニオン

名古屋営業所・ショールーム
名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454
☎052(363)5221㊞ FAX052(363)5255



空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市江戸堀１丁目９番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06—6466—2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電 0720—49—2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜２－２－21　電話 06(6202)3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町１－４－１　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見２丁目１番61号ツイン21MIDタワー　電話06-6949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満３丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長　依藤孝行

青葉印刷株式会社
〒534-0027　大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川１丁目12番14号(日本生命小石川ビル７階)
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン（無機質壁紙）

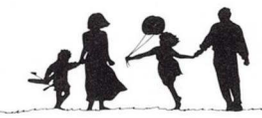
(株)ホクシンクロス

〒583-0881　大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL（0729）39－3610

工場　〒580-0046 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-1042 奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597-0051 大阪府貝塚市王子５０１

夢×技=∞ 無限大

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
K 栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本 社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代) FAX 06(6385)1050

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本 社 大阪市中央区北浜3－6－13（日土地淀屋橋ビル）
電 話 06（6205）3671（代）
支 店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電 話 03（3666）1478（代）
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

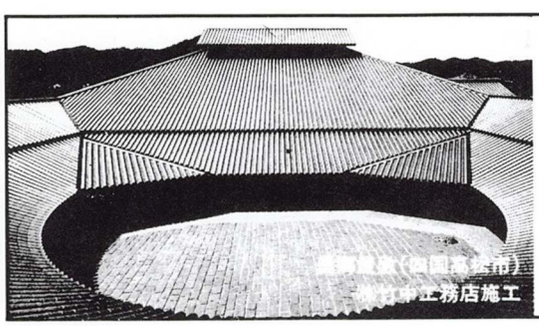
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長 伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(6202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
● 電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
● 空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
● プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
● 情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
● 電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
まちと魅力にあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社 大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本 社 〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL.06(6364)1471・FAX06(6364)5533
東京支社 〒105-0003 東京都港区西新橋3-9-3(ランディック新橋ビル) TEL.03(5472)3311・FAX03(5472)0085
名古屋支店 〒462-0847 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店 〒657-0035 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル TEL.078(842)6411・FAX078(842)6416
堺研究所 〒590-0906 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本 社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858 FAX06(6792)2810



〒556-0024 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス 六五六一～七四五四
☎ 六五六一～七四一六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
施工事務店施工

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530-0043 大阪市北区天満2丁目5番15号
TEL.06(6352)7502代 FAX.06(6355)2714

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本 社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―――― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(6391)1081～2 FAX06(6395)2109 名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765 厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

快適な明日を提案する

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社　http : //www.toyo-shutter.co.jp

本　社　〒540-0024 大阪市中央区南新町1－2－10（TSビル）TEL(06) 6943－6571（代）

■東京/横浜/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/滋賀/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に

●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに

●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に

●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入

●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社

近畿地区販売店

浜宗産業株式会社

TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社

TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社

TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社

TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社

TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

TOF フッ素樹脂積層被覆鋼板 & COM 耐酸被覆鋼板



ＪＲ西日本尼崎駅

「耐酸被覆鋼板」のパイオニアとして約半世紀の経験を生かし、新たに「フッ素樹脂積層被覆鋼板」を製品群に加えました。
建築物の耐久性と、独創的な色彩と外観をクリエイトします。

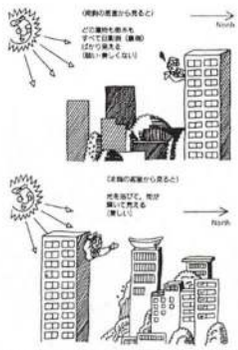
■ フッ素樹脂積層被覆鋼板
　ＴＯＦ（タフフロール）
■ 耐酸被覆鋼板
　ＣＯＭ（ケミカラーオーシマメタル）
　Ｔ　Ｍ（トイメタル）
■ 責任施工
　ルーフ、サイディング
　大島式ベンチレーター、モニター
　エアームーバー他

OSHIMA OHYO

大島応用化学工業株式会社

本社　大阪市旭区太子橋1-15-22　Tel.06(6954)6521　Fax.06(6954)6480
●支店 東京、名古屋、新居浜 ●工場 新居浜、寝屋川 ●営業所 四日市、岡山、広島、宇部、福岡

〈初年度版〉
ISBN4-7615-2196-1
企画／日本建築協会



本書「住宅の居室の日照規定の削除」の項より

徹底解説 大改正 建築基準法

初年度版



民間建築主事
住宅の居室の日照規定の削除
身分証明証の携帯・提示
準防火地域内における、
木造３階建共同住宅の解禁
連担建築物設計制度
性能規定化
などをポイント解説

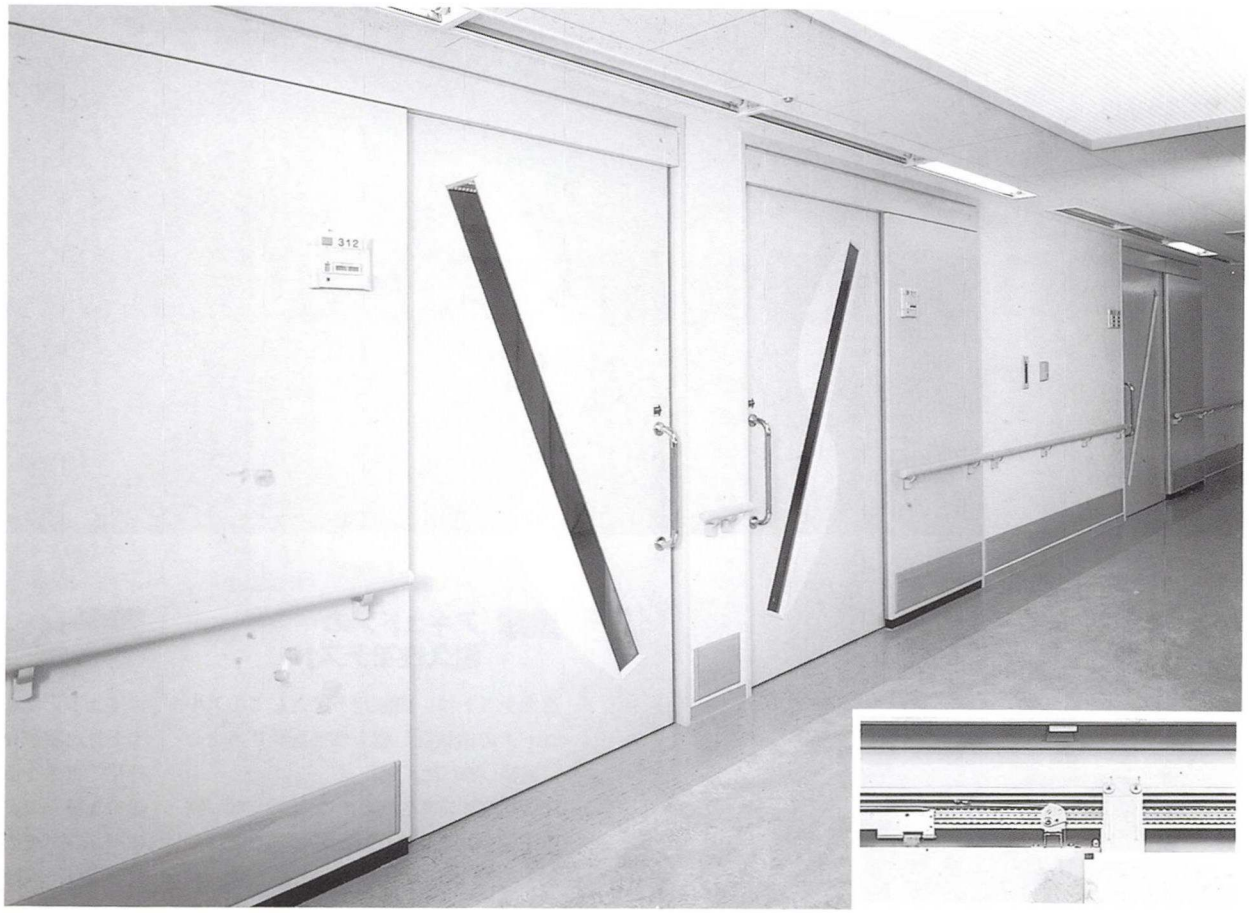
その中身はどう変わったか
どう対処していけばいいのか
大好評「読みこなすコツ」
シリーズの著者が
わかりやすく、具体的に、
改正法のねらいを徹底解説

高木任之著
A5・208頁・2000円＋税

学芸出版社

京都市下京区木津屋橋通
西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

病院用吊り下げ引戸のパイオニア、アキュドアユニット!!



抜群の耐久性と品質、多くの実績がその信頼性を証明、アキュドアだから安心です。

アキュドアは病院用吊り下げ引戸のパイオニアとして、従来の病院用ドアの考え方を大きく覆す原動力となり、今日では病院用ドアは吊り下げ引戸という考え方が一般化し定着してまいりました。病院という特殊な環境下で使用されるドアとして、通行時の操作性や軽快性、静粛性などとともにいつまでも安定した性能が求められます。

アキュドアに採用のレール機構は驚異的な耐久性を有し、レール機構のメンテナンスもほとんど必要がなく、300万回の開閉テストがその優れた性能を実証しています。アキュドアは発売以来、その優れた性能を高く評価いただき、多くの病院や施設で採用いただいていることが、何よりもその信頼性を物語っているといえます。

KUROGANE

株式会社くろがね工作所

西日本建材営業部	大阪市西区新町1-4-26	TEL06-6538-1060 FAX06-6538-1061
東日本建材第一営業部 東日本建材第二営業部	東京都港区芝5-29-20 三田ビル	TEL03-3455-2171 FAX03-3453-4399
中部営業部	名古屋市中区栄5-27-14 朝日生命栄ビル	TEL052-251-6221 FAX052-251-6181

三和シャッター

都市アート計画。



ビルの表情を個性ゆたかに彩る、三和のステンレス建材です。

どこまで個性を主張できるか。どれだけ都市に美しく調和できるか。それが、これからの建築に求められる大きなテーマです。三和のステンレス建材なら、建物のイメージにあわせてデザインは自由自在。その高級感あふれる質感と、耐蝕性にすぐれた特性を活かし、ビルのフロントはもちろん、インテリアからエクステリアまでを個性ゆたかに彩ります。ビルに、都市に、アート感覚をプラスする、先進のマテリアルです。

STAINLESS
CONSTRUCTION MATERIAL

三和シヤッター工業株式会社

本社　〒163-0490 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル52階 ☎03(3346)3011(代表)
中部ビル建材事業部　〒450-0003 名古屋市中村区名駅南3-6-13 ☎052(582)3030

Vol.80通巻924号 平成11年3月1日発行 毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182

社団法人 日本建築協会 〒530大阪市北区梅田1-9-9 ☎06(6348)0635 FAX06(6348)0634 振替口座〇〇九一〇一九一三九九五

定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収

雑誌 03379-3